

仙台大学

シラバス

2022年4月1日

# 目 次

112080	社会の安全・安心概論	岩淵 孝二	前期	...	1
145050	英会話A ジェリー	パランギ	前期	...	5
511090	道德教育論	久能 和夫	後期	...	9
545060	英会話B ジェリー	パランギ	後期	...	13
514070	看護学概論	堀江 竜弥	後期	...	17
523060	メンタルトレーニング	菊地 直子	後期	...	21
542180	保育実習指導	佐々木 和	後期	...	25
152110	教育方法論B	荒井 龍弥	前期	...	29
113130	生徒指導論A (含進路指導及びキャリア教育の理論及び方法)	江尻 雅彦	前期	...	33
523100	生化学	柴原 茂樹	後期	...	37
132260	給食計画論	岩田 純	前期	...	41
551130	スポーツ医学概論	橋本 実	後期	...	45
143100	リハビリテーション論	笠原 岳人	前期	...	49
543030	スポーツとマスメディア	日下 三男	後期	...	53
553050	ジャーナリズム理論	日下 三男	後期	...	57
111070	運動生理学	内丸 仁	前期	...	61
112140	食品学(含食品加工学)	早川 公康	前期	...	65
122080	介護概論	大山 さく子	前期	...	69
523150	幼児健康教育論	橋本 実	後期	...	73
966620	医療的ケア実施の基礎	堀江 竜弥	前期	...	77
114310	生活支援技術の基礎	福田 伸雄	前期	...	81
153030	運動障害救急法(含実習)	橋本 実	前期	...	85
522030	スポーツ取材・報道演習A	日下 三男	前期	...	89
143210	障害児保育	渡邊 康男	前期	...	93
541180	臨床栄養学概論	真野 芳彦	後期	...	97
121030	運動障害救急法(含実習)	橋本 実	前期	...	101
141080	映像基礎(演習)	藤本 晋也	前期	...	105
152090	応用武道護衛	荒木 貞義	前期	...	109
511020	スポーツ栄養学	真野 芳彦	後期	...	113
134200	文章基礎(演習)	日下 三男	前期	...	117
532100	子どもの食と栄養	長橋 雅人	後期	...	121
543110	教職論C	柴田 千賀子	後期	...	125
545070	介護過程	後藤 満枝	後期	...	129
131050	スポーツトレーナー概論	小勝 健司	前期	...	133
115390	スポーツ医学A	橋本 実	前期	...	137
522080	社会の安全・安心概論	岩淵 孝二	後期	...	141
555060	スポーツマスメディア概論	佐藤 修	後期	...	145
553040	スポーツ情報戦略概論	石丸 出穂	後期	...	149
131100	運動・身体表現	原田 健次	前期	...	153
123080	情緒障害教育総論	小西 志津夫	前期	...	157
131180	日本経済と警備業	金 一坤	前期	...	161
541160	保育内容総論	柴田 千賀子	後期	...	165
544020	アスレティックトレーニング論	山口 貴久	後期	...	169
112030	コンディショニング論	小勝 健司	前期	...	173
145070	障害者福祉論	関矢 貴秋	前期	...	177
141040	スポーツ障害の予防と評価	山口 貴久	前期	...	181
515020	教育の心理	荒井 龍弥	後期	...	185
554010	スポーツ医学概論	橋本 実	後期	...	189
154180	養護演習	重巢 吉美	前期	...	193
511120	保健体育科教育論	郡山 孝幸	後期	...	197
111100	保健体育科教育論	川戸 湧也	前期	...	201
554090	社会教育演習A	門真 洋	後期	...	205
143240	野外教育・活動論	井上 望	前期	...	209
521160	安全・安心関係法令概論	中井 憲治	後期	...	213
112120	社会教育経営論A	針生 弘	前期	...	217

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
112080	M-CSS321J-01	社会の安全・安心概論																					
科目名(英字)	Introduction to Social Safety and Security																						
学科	現代武道学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	岩淵 孝二			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	警察官としての実務経験あり																						
授業の概要	<p>実社会において求められる治安課題や対策について説明し、社会の安全安心に寄与しようとする人材、あるいは社会の一員として求められる治安事象に対する知識や役割などを考察する。</p>																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<p>警察組織や活動について学習したことを前提として警察における各部門や社会が直面する治安課題を深掘りして理解することにより、安全安心な社会をつくる地域の一員として必要となる治安上の知識や責務等を習得する。</p>																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>社会の抱える治安課題などを習得することにより、社会の一員として考えるべきリスクや治安事象を説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>社会が抱える治安事象を学ぶことにより、将来起こり得る治安事象やリスクを考察することにより、社会の構成員として社会の安全・安心に寄与できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	社会の抱える治安課題などを習得することにより、社会の一員として考えるべきリスクや治安事象を説明できる。		情意的領域	社会が抱える治安事象を学ぶことにより、将来起こり得る治安事象やリスクを考察することにより、社会の構成員として社会の安全・安心に寄与できる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	社会の抱える治安課題などを習得することにより、社会の一員として考えるべきリスクや治安事象を説明できる。																					
	情意的領域	社会が抱える治安事象を学ぶことにより、将来起こり得る治安事象やリスクを考察することにより、社会の構成員として社会の安全・安心に寄与できる。																					
	技能表現的領域																						
授業計画（全体）	<p>配付する資料及び板書を中心に日々発生する治安事象を踏まえた講義を行い、必要に応じて映像等の資料も活用する。また、警察施設の視察により実際の警察活動や治安事象に対する理解を深める。</p>																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	ガイダンス・社会の安全・安心と警察	本科目の授業内容などについて説明するとともに、安全・安心、社会安全政策について概説する。	社会安全政策について資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
2.	犯罪予防論	犯罪予防の理論などについて概説する。	犯罪予防理論について資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
3.	犯罪捜査の流れ	犯罪捜査の流れ・現状、捜査の高度化等の取組について概説する。	刑事手続きなどについて資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
4.	女性、子供、高齢者の安全・安心その1	子供・高齢者をめぐる犯罪の現状とその対策について概説する。	子供・高齢者をめぐる犯罪について資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
5.	女性、子供、高齢者の安全・安心その2	女性をめぐる犯罪の現状とその対策について概説する。	女性をめぐる犯罪について資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
6.	犯罪被害者支援	犯罪被害者をめぐる現状とその対策について概説する。	犯罪被害者の現状について資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
7.	組織犯罪対策	組織犯罪の現状、特に暴力団犯罪とその対策を中心に概説する。	組織犯罪対策の現状などについて資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
8.	薬物犯罪対策	薬物の基礎知識、薬物犯罪の現状とその対策状況について概説する。	薬物犯罪の現状等について資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
9.	交通安全対策	交通事故・違反の発生状況と交通安全対策の現状などについて概説する。	交通事故の発生状況などについて資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
10.	消費生活侵害事案対策	消費者をめぐる犯罪の現状とその対策状況について概説する。	消費生活侵害事案の現状について資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
11.	サイバー犯罪対策	サイバー空間における脅威の現状とその対策状況について概説する。	サイバー犯罪の現状などについて資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
12.	国際テロ対策	国際テロの情勢、要因とその対策状況などについて概説する。	国際テロ情勢について資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
13.	災害時における危機管理対策	災害発生時の警察の対応や危機管理の基本的考え方について概説する。	災害時の危機管理について資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
14.	現場実習	警察施設を訪問し、警察施設及び警察官の活動などを視察、体験する。	視察・体験の結果をレポート作成する。	4時間
15.	警察と報道	日々の事件報道と警察との関係、関連する人権などについて概説する。	事件報道の内容について事前に調査しておく。	4時間
16.	定期試験	授業の理解度、到達度を確認するため定期試験を行う。	これまで学習したことをしっかり復習しておく。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	期末定期試験を実施するほか、課題に対する回答状況、授業態度などを加味して総合評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				100%
	授業内レポート	○			加点要素
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは、授業内で解説・討議を行いながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。</li> <li>・社会の安全・安心を担う分野において必要とされる知識及び倫理観について学び、将来、同分野で活動すること及び社会に貢献できることを目標として行われる授業であることを自覚し、受講すること。</li> </ul>				
関連科目	社会の安全・安心概論、同、同、同、警備ビジネス論、警備制度と国際社会				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	指定なし				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	社会安全政策論	警察政策学会	立花書房		
オフィス アワー	月曜日14:20～15:50				
その他	研究室 第5体育館2階、第24研究室				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
145050	C-fle122J-01	英会話 A																					
科目名(英字)	English Conversation A																						
学科	全学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数																		
					2																		
担当教員	ジェリー パランギ			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	小・中・高校生での教員経験を有する																						
授業の概要	100%英語でのみ行われる対面式授業。このクラスでは、生徒はできるだけ英語で話すことが求められます。また、健康、フィットネス、旅行、文化認識や習慣などのトピックも含まれています。教科書には、オンライン学習プラットフォームMyEnglishLab (MEL) が含まれています。定期的に筆記テストと口頭テストがあります。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	授業は100%英語のみで行われます。できるだけ前期・後期ともに1年間受講する意欲のある方。トピックは、社交、旅行、ビジネスなどのシチュエーションを取り上げる予定です。テキストには、オンライン学習プラットフォーム「MyEnglishLab (MEL)」が含まれています。前期・後期を通して、1冊のテキストを使用します。定期的な口頭発表と筆記試験を継続的に行う。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>Ability to recall grammar / cultural rules and apply them to various situations 文法/文化的ルールを、さまざまな状況に適用できる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>Receiving/ responding phenomena/ value/ organize and characterized aspects of different cultures 異文化の価値を学び理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate スピーキング、リーディング、リスニング、ライティング、ディスカッション</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	Ability to recall grammar / cultural rules and apply them to various situations 文法/文化的ルールを、さまざまな状況に適用できる		情意的領域	Receiving/ responding phenomena/ value/ organize and characterized aspects of different cultures 異文化の価値を学び理解する		技能表現的領域	Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate スピーキング、リーディング、リスニング、ライティング、ディスカッション						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	Ability to recall grammar / cultural rules and apply them to various situations 文法/文化的ルールを、さまざまな状況に適用できる																					
	情意的領域	Receiving/ responding phenomena/ value/ organize and characterized aspects of different cultures 異文化の価値を学び理解する																					
	技能表現的領域	Speaking, Reading comprehension, Listening, Writing, Discussion, Debate スピーキング、リーディング、リスニング、ライティング、ディスカッション																					
授業計画(全体)	このクラスは、自信を持って文化的に流暢に英語を話すことができ、社交、旅行、ビジネスの場面でうまく立ち回れるようになることに焦点を当てた対面式のクラスです。ペア・プレゼンテーション、グループ・ワーク、ディベートを行います。教科書はTop Notch 1を使用し、教科書と連動したオンラインアプリケーションを定期的 사용합니다。授業中の指示はすべてわかりやすい英語で行われます。教室外での英語でのコミュニケーションは大いに奨励します。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	Orientation	Outline, (MEL) registration. Self-introduction key points	Self-intro, MEL registration	4時間
2.	Unit 1 - Getting Acquainted	Meet someone for the first time	Conversation Model MEL - Lesson 1	4時間
3.	Unit 1 - Getting Acquainted	Identify and describe people	Presentation + MEL - Lesson 2	4時間
4.	Unit 1 - Getting Acquainted	Provide personal information & introduce someone to the group	Grammar, presentation, MEL Lesson 3	4時間
5.	Unit 2 - Going Out	Accept & decline an invitation	Presentation + MEL - Lesson 1	4時間
6.	Unit 2 - Going Out	Express locations and give directions	Unit 1&2 MEL - Lesson 2, review	4時間
7.	Unit 2 - Going Out	Make plans to see an event, talk about musical tastes	Study Unit 1&2 + MEL - Lesson 3	4時間
8.	Unit 2 - Review + Test	Unit 1 & 2 review + test	Unit 3 preview + MEL - Lesson 4	4時間
9.	Unit 3 - The Extended Family	Report news about relationships	Memorize vocabulary, MEL - Lesson 1	4時間
10.	Unit 3 - The Extended Family	Describe extended families	MEL - Lesson 2	4時間
11.	Unit 3 - The Extended Family	Compare people	Recycled language, MEL - Lesson 3	4時間
12.	Unit 3 - The Extended Family	Discuss family cultural traditions, debate	MEL - Lesson 4, debate preparation	4時間
13.	Unit 4 - Foods and Restaurants	Ask for a restaurant recommendation	Memorize vocabulary, MEL - Lesson 1	4時間
14.	Unit 4 - Foods and Restaurants	Order from a menu and speak to a server	Memorize vocabulary, MEL - Lesson 2	4時間
15.	Unit 4 - Foods and Restaurants	Discuss food and health	Unit 3 & 4 review MEL Lesson 3 & 4	4時間
16.	Unit 4 - Review	Review Unit 3 & 4 + test		4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	Students must attend 2/3 of all classes, scoring 60% or over in their final score for credit. 出席率が2/3以上であること。総合評価の60%以上で単位習得可。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				25%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				15%
	演習・実技				30%
	授業態度				30%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	"授業開始前に新しい教科書を購入する必要があります 中古の教科書を購入すると、オンラインアプリケーションが動作しなくなりますので、購入しないでください。すべての指示は英語で行われ、生徒は英語のみで話すことが期待されます。英会話の上達に興味のある方は、ぜひお申し込みください。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	本気で英会話を上達させたい方は、ぜひご参加ください。すべての生徒が毎レッスン英語で話すことが要求されるので、コミュニケーションとやる気が必要です。英語が得意である必要はありませんが、学ぶ姿勢とモチベーションは必要です。				
関連科目	英会話B, 英会話C, ことばと人間B				
関連資格	なし				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	TOP NOTCH (3E)1: SB	JOAN SASLOW ALLEN ASCHER	PEARSON	2015	9780133393484
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	なし				
オフィス アワー	A棟511 水曜日8:40~10:10 Email: j-parangi@sendai-u.ac.jp				
その他	なし				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
511090	T-fye231J-01 、T-	道徳教育論																					
科目名(英字)	Study of Morality																						
学科	健康福祉学科、スポーツ栄養学科、スポーツ情報マスタ <sup>イ</sup> 学科、現代武道学科			学年	3年																		
学期	後期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	久能 和夫			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	小学校での教員経験を有する																						
授業の概要	学校現場による実務経験を活かし、アクティブラーニングを主にした観点から講義を行う。小・中・高等学校の道徳教育を通じ、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い、自立し、健全な自尊感情を持ち、主体的・自律的に生きる力を育成するために道徳性を養う。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	基本的な生活習慣，規範意識，人間関係を築く力，社会参画への意欲や態度，伝統や文化を尊重する態度などを育成するにはどう指導するかを理解する。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>道徳教育に関する歴史的歩みについて学び，現在の学習指導要領について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」について，どう意欲的に取り組むか理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>自己の理想の教師像を実現するための学習方法を身に付ける。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	道徳教育に関する歴史的歩みについて学び，現在の学習指導要領について学ぶ。		情意的領域	「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」について，どう意欲的に取り組むか理解する。		技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習方法を身に付ける。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	道徳教育に関する歴史的歩みについて学び，現在の学習指導要領について学ぶ。																					
	情意的領域	「生きる力」「生命の尊重」「いじめ問題」について，どう意欲的に取り組むか理解する。																					
	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習方法を身に付ける。																					
授業計画（全体）	授業は，基本的にはプリントを用意し，それを基に講義中心に行うが，多くの機会にレポートを提出，常に道徳教育についての課題意識を持つようにする。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	道徳教育とは何か	今,求められている規範意識について学び,規範の根拠としての人間尊重の精神について考える	慣習,法律,倫理と道徳の関係についての書籍を読む	4時間
2.	戦後の教育改革と道徳教育	戦後の教育改革で,一番の課題は道徳教育であったことを学ぶ	道徳教育に関わる学習指導要領の変遷について調べる	4時間
3.	学習指導要領と道徳的価値	教育基本法と道徳教育,学習指導要領と道徳的価値の関連について学ぶ	学習指導要領の内容項目について調べる	4時間
4.	道徳授業の現状とその改善方法	これまでの「道徳の時間」をめぐる課題,その中での本質的問いとして「徳」は教えられるのかを考える	道徳の授業で大切にしなければならないことについて考える	4時間
5.	道徳教育と家庭・地域社会の協力	家庭・地域社会における道徳教育の現状と課題を分析し,学校と家庭・地域社会の連携・協力について考える	新聞の関連ニュースを読む	4時間
6.	道徳授業の充実と教師の生き方	「道徳教育における教師の役割」について述べている論文を読み,レポートを書く	「教師論」に関係する書籍を読む	4時間
7.	学生の価値意識と「道徳教育の研究」	道徳性の発達(コールバーグ理論)と相対主義を踏まえ,若者と規範意識について考える	「道徳性の発達」に関する書籍を読む	4時間
8.	高校における道徳教育の位置づけ	学習指導要領において「道徳教育の全体計画」の作成が義務づけられている高等学校における「道徳教育」の進め方について考える	高等学校学習指導要領を読む	4時間
9.	道徳科の授業と評価	「特別の教科 道徳科」で示されている評価の在り方を基にして,「道徳科の教育における評価」について考える	「道徳科」が目指す評価の方向性を調べる	4時間
10.	道徳科の授業と体験学習	体験活動の教育的意義,「特別の教科 道徳」と体験活動のかかわりについて考える	学習指導要領を読む	4時間
11.	個性の尊重	「個性」に対する日本と欧米の違い(価値観の相違)を分析し,学校教育における「個性」の伸長について考える	学習指導要領における「個性」の取り上げ方の変遷を調べる	4時間
12.	道徳授業のアプローチ	道徳科における学習指導案の構成について理解する。道徳の授業の実際についての映像を観る	学習指導案の作成	4時間
13.	道徳授業のアプローチ	道徳科の学習指導案(展開場面)を作成する。道徳の授業の実際についての映像を観る	学習指導案の作成	4時間
14.	道徳授業のアプローチ	道徳科の学習指導案(主題設定の理由を中心として)を作成する。道徳授業の実際についての映像を観る	学習指導案の作成	4時間
15.	国際化社会における愛国心教育と国旗・国歌	戦後日本の「愛国心」論の類型を知り,教育基本法・学習指導要領における「愛国心」教育の進め方について理解する	関連する書籍を読む	4時間
16.	考査試験	道徳教育論を学習してのまとめを行う	考査内容を振り返る	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	提出されたレポートは内容に応じてディスカッションや解説を行いながら返却する。レポート等のポートフォリオ評価資料と筆記試験の結果に、受講態度(出席状況含む)等を加味して評価する。なお、欠席は原則として3分の1以上は評価対象外とする。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験			○	70%
	授業内レポート		○		20%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度		○		10%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは内容に応じてディスカッションや解説を行いながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	講義を中心に進めるが、自分が学習した道德教育を振り返りながら、教師を目指す者として、常に課題意識を持って学んで欲しい。				
関連科目					
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	中学校学習指導要領解説「特別の教科 道德編」	文部科学省			
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	授業時に紹介する				
オフィス アワー	久能研究室(A307) 金(10:20~11:50)				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
545060	C-fle122J-01	英会話 B																					
科目名(英字)	English Conversation B																						
学科	全学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	演習		単位数																		
					2																		
担当教員	ジェリー パランギ			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	小・中・高校生での教員経験を有する																						
授業の概要	このクラスは1学期から継続して行われます。授業は100%英語のみで行われます。後期に履修を希望する学生は、まず担任の先生に相談してください。社会、旅行、ビジネスなどのシチュエーションを想定したトピックを扱います。教科書は前期と同じです。定期的に口頭発表と短い筆記テストを行います。生徒は、教師とのコミュニケーションも含め、常に英語でコミュニケーションをとることが期待される。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	前期に学習した語彙・用法の定着が期待される。リスニング力をつけるため、ネイティブレベルの指導を行う。グループワークやディスカッションを増やし、関連するトピックについて、文化的妥当性や現在の世界観に関する知識を深める。前期と同様、学生主体の授業で、流暢に話すことに重点を置く。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>Ability to recall grammar / cultural rules and apply them to various situations 文法/文化的ルールを、さまざまな状況に適用できる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>Receiving/ responding phenomena/ value/ organize and characterized aspects of different cultures 異文化の価値を学び理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>スピーキング、リーディング、リスニング、ライティング、ディスカッション</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	Ability to recall grammar / cultural rules and apply them to various situations 文法/文化的ルールを、さまざまな状況に適用できる		情意的領域	Receiving/ responding phenomena/ value/ organize and characterized aspects of different cultures 異文化の価値を学び理解する		技能表現的領域	スピーキング、リーディング、リスニング、ライティング、ディスカッション						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	Ability to recall grammar / cultural rules and apply them to various situations 文法/文化的ルールを、さまざまな状況に適用できる																					
	情意的領域	Receiving/ responding phenomena/ value/ organize and characterized aspects of different cultures 異文化の価値を学び理解する																					
	技能表現的領域	スピーキング、リーディング、リスニング、ライティング、ディスカッション																					
授業計画(全体)	このクラスは、自信を持って文化的に流暢に英語を話すことができ、社交、旅行、ビジネスの場面でうまく立ち回れるようになることに焦点を当てた対面式のクラスです。ペア・プレゼンテーション、グループ・ワーク、ディベートを行います。教科書はTop Notch 1を使用し、教科書と連動したオンラインアプリケーションを定期的 사용합니다。授業中の指示はすべてわかりやすい英語で行われます。教室外での英語でのコミュニケーションは大いに奨励します。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	Orientation	Class grading and guidelines. Topic based speaking activity	Vacation presentation, MEL Lesson 1	4 時間
2.	Unit 6 - Plan an activity	Plan an activity Exercises & expressions organizing an activity	Conversation presentation, MEL Lesson	4 時間
3.	Discuss fitness & eating habits	Plan an activity, habitual activities	Conversation presentation, MEL Lesson	4 時間
4.	Describe routines	Reading comprehension, discussion	Presentation "What makes a champion"	4 時間
5.	Review	Listening, grammar, presentations	Textbook + MEL Unit 6 review	4 時間
6.	Unit 9 - Taking transport	Unit 6 test. Discuss schedules and buying tickets	Conversation presentation, MEL Lesson	4 時間
7.	Airport announcements	Understand airport announcements	MEL - Lesson 3	4 時間
8.	Transport problems	Reading comprehension, critical thinking	MEL - Lesson 4	4 時間
9.	Review	Listening, grammar	Textbook + MEL Unit 9 review	4 時間
10.	Unit 10 - Ask for a recommendation	Ask for a recommendation	Conversation presentation, MEL Lesson	4 時間
11.	Bargaining	How to bargain for a lower price	Conversation presentation, MEL Lesson	4 時間
12.	Showing appreciation	Discussion, comprehension, debate	Debate preparation + MEL - Lesson 3	4 時間
13.	Finding best deals	Listening comprehension, small group debate	Presentation preparation	4 時間
14.	Notepadding	Introducing the best places in your city	Debate preparation	4 時間
15.	Review	Listening & grammar, small group debate	Textbook + MEL Unit 10 review	4 時間
16.	Course evaluation	Unit test and course evaluation		4 時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	Students must attend 2/3 of all classes, scoring 60% or over in their final score for credit. 出席率が2/3以上であること。総合評価の60%以上で単位習得可。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				25%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				15%
	演習・実技				30%
	授業態度				30%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	口頭発表については、発音、流暢な話し方、アイコンタクト、リズムが重要です。口頭発表は暗記しなければならないが、パワーポイントでの発表の場合は「キューカード」でも可。クラスでの発表はすぐにフィードバックされます。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	本気で英会話を上達させたい方は、ぜひご参加ください。すべての生徒が毎レッスン英語で話すことが要求されるので、コミュニケーションとやる気が必要です。英語が得意である必要はありませんが、学ぶ姿勢とモチベーションは必要です。				
関連科目	英会話A, 英会話C, ことばと人間B				
関連資格	なし				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	TOP NOTCH (3E)1: SB +MEL	JOAN SASLOW ALLEN ASCHER	PEARSON	2015	9780133393484
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	なし				
オフィス アワー	A棟511 水曜日8:40~10:10 Email: j-parangi@sendai-u.ac.jp				
その他	なし				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
514070	H-HEA321J-01	看護学概論																					
科目名(英字)	Introduction to Nursing																						
学科	健康福祉学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	堀江 竜弥			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	看護師として臨床での実務経験を有する																						
授業の概要	看護が持つ機能と役割について理解し、小児・思春期の諸問題を通して、看護の実際および基礎看護技術の展開、理論について学ぶ。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	小児期を中心としたさまざまな状態の人々の健康問題や、疾患について学ぶことで、看護を展開する方法と理論、技術について学ぶことを目的とする。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>看護とは何か、ケアとは何かについて理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>看護を必要とする対象者に、人間的理解や共感することができ、その心理について理解を示すことができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>看護を必要とする人に適切な基礎看護技術が展開できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	看護とは何か、ケアとは何かについて理解する。		情意的領域	看護を必要とする対象者に、人間的理解や共感することができ、その心理について理解を示すことができる。		技能表現的領域	看護を必要とする人に適切な基礎看護技術が展開できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	看護とは何か、ケアとは何かについて理解する。																					
	情意的領域	看護を必要とする対象者に、人間的理解や共感することができ、その心理について理解を示すことができる。																					
	技能表現的領域	看護を必要とする人に適切な基礎看護技術が展開できる。																					
授業計画（全体）	看護師としての実務経験を活かし、看護とは何かについて学び、また、看護を必要とする人々の健康問題や心理を理解する。また、基礎看護技術について学び、習得することを目的とする。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	授業オリエンテーション	養護教諭に必要なカリキュラムと本授業の位置づけ、授業内容についてガイダンスを行う。	看護の定義について教科書を読んでおくこと。	4時間
2.	看護とは何か	看護・ケアとは何かについて学習する。	看護学総論の箇所について教科書を読んでおくこと。	4時間
3.	基本的看護とは何かについて学ぶ	看護の基礎、基本行為について学ぶ。	基礎看護論の箇所について教科書を読んでおくこと。	4時間
4.	疾病の経過に伴う看護について学ぶ	急性期・慢性期看護について学ぶ。	急性期・慢性期看護について学ぶ。	4時間
5.	治療・処置課程における看護機能について学ぶ	代表的な治療方法とその看護について学ぶ。	基礎看護論の箇所について教科書を読んでおくこと。	4時間
6.	小児期の発育・発達の特徴	小児期の身体・心理・社会的発達について学ぶ。	事前に配布された資料について読んでおくこと。	4時間
7.	養護教諭の活動と看護的視点について学ぶ	健康相談活動を展開する上で必要な看護能力について学ぶ。	健康相談活動について資料を事前に読んでおくこと。	4時間
8.	養護教諭の活動と看護的視点について学ぶ	健康相談活動を展開する上で必要な看護方法について学ぶ。	健康相談活動について資料を事前に読んでおくこと。	4時間
9.	養護教諭の活動と看護的視点について学ぶ	健康相談活動を展開する上で必要な連携について学ぶ。	健康相談活動について資料を事前に読んでおくこと。	4時間
10.	小児看護	小児の特性、小児疾患とその看護について学ぶ。	小児看護の箇所について教科書を予習しておくこと。	4時間
11.	小児看護	小児の特性、小児疾患とその看護について学ぶ。	小児看護の箇所について教科書を予習しておくこと。	4時間
12.	思春期看護	思春期の特性、思春期特有の健康問題とその看護について学ぶ。	思春期看護の箇所について教科書を予習しておくこと。	4時間
13.	感染症概論	感染症の要因、発症のメカニズム、予防方法、小児期に特徴的な感染症について学ぶ。	事前に配布された資料について読んでおくこと。	4時間
14.	フィジカルアセスメント論	フィジカルアセスメントとその必要性について学ぶ。	事前に配布された資料について読んでおくこと。	4時間
15.	フィジカルアセスメント方法	フィジカルアセスメントに必要な看護技術について学ぶ。	事前に配布された資料について読んでおくこと。	4時間
16.	授業のまとめ	授業で学んだ内容について、総括する。	これまでの学びを振り返ること。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	養護および看護におけるレポート、授業態度、出席状況について総合的に評価を行う。レポートはコメントを付して返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート		○	○	70%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				30%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	授業内容が理解できたかどうかを確認するため、毎回の授業終了後に「受講後のまとめ」を課す。次回授業時に前回の講義内容を含めてコメントする。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護についての講義を通して、養護教諭に必要な知識・技術について学ぶため、十分な学習を求める。</li> <li>・出席と、授業参加態度が重視される。</li> <li>・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。</li> </ul>				
関連科目	看護学概論、看護学実習				
関連資格	養護教諭				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	養護教諭のための看護学 四訂版	藤井寿美子、山口昭子、佐藤紀久榮、采女智津江	大修館書店	2018	978-4-469-26852-2
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	養護教諭のためのフィジカルアセスメント 見て学ぶ応急処置の基礎基本	大谷尚子、大西文子、五十嵐徹、砂村京子	日本小児医事出版社	2020	978-4-88924-240-9
オフィス アワー	月曜日 16:00~17:30				
その他	オンラインで対応する場合は、別途指示をします。連絡先 tt-hoie@sendai-u.ac.jp				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
523060	N-PSY031J-01 、M-	メンタルトレーニング																					
科目名(英字)	Mental Training																						
学科	スポーツ栄養学科、現代武道学科			学年	3年																		
学期	後期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	菊地 直子			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	スポーツアスリートにおけるカウンセラー経験を有する。																						
授業の概要	本講義は、スポーツカウンセラーの実務経験を持つ担当者が、スポーツ心理学という学問的背景からさまざまなメンタルトレーニング技法を紹介する。ここでは、はじめにメンタルトレーニングにおける心理的諸側面を分類し、代表的なメンタルトレーニング技法を体験することにより学びを促進する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	メンタルトレーニングの各スキルを体験することで注意点や効果を学び、最終的には、メンタルトレーニングの限界や更なる工夫、そして人間理解の方法について理解している。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>各メンタルトレーニング技法について理解している。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>対人援助場面で、対象者の心理的世界を適切に理解できるようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	各メンタルトレーニング技法について理解している。		情意的領域	対人援助場面で、対象者の心理的世界を適切に理解できるようになる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	各メンタルトレーニング技法について理解している。																					
	情意的領域	対人援助場面で、対象者の心理的世界を適切に理解できるようになる。																					
	技能表現的領域																						
授業計画(全体)	本講義は、メンタルトレーニング理論と実際を中心に講義する。また、能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用し、アクティブラーニングを取り入れ、授業の半分をグループ学習とする。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法を解説する。	シラバスを熟読する	4時間
2.	メンタルトレーニングとは何か。	メンタルトレーニングの定義と近年の動向について概説する。	これまでに、遭遇したメンタル的な問題について発表できる。	4時間
3.	アセスメント	メンタルトレーニングの指導や介入を行うにあたってのアセスメントとその重要性について解説する。	心理療法のアセスメントについてまとめておく。	4時間
4.	メンタル・トレーニング・プログラム	アスリートに処方される一般的なプログラムの流れを解説し、対象の理解についての注意事項についても解説する。	自己分析から、自分に処方する最もふさわしいプログラムを考案する。	4時間
5.	対象理解の方法	メンタルトレーニングの効果測定で多用される心理的競技能力テストを体験し、自己理解を深めるとともに査定法についても解説する。	本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にまとめる。	4時間
6.	対象理解の方法	風景構成法を通して、自分の認識と異なる自分の表現方法について解説する。	本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にまとめる。	4時間
7.	対象理解の方法	ロールプレイを通して、人の話を聞くということのコツとポイントを理解する。	本講義で得た知識と自身の体験で得た学びを文章にまとめる。	4時間
8.	メンタルトレーニングの技法	リラクゼーションとバイオフィードバック（実習）	リラクゼーション実施後の変化について、データをまとめて提出する。	4時間
9.	メンタルトレーニングの技法	認知的水準である「積極的思考」について学ぶだけでなく、次回からのグループ学習での到達点を確認する。	本講義で得た体験で得た学びを通して自分独自の方法を模索する。	4時間
10.	グループ活動	選んだ技法について、具体的事例を交えて資料を作成し、プレゼンテーションの準備をさせる。	各自あるいはグループで、引き続き調べる。	4時間
11.	グループ活動	選んだ技法について、具体的事例を交えて資料を作成し、プレゼンテーションの準備をさせる。	各自あるいはグループで、プレゼンテーションの準備する。	4時間
12.	グループ活動	選んだ技法について、具体的事例を交えて資料を作成し、プレゼンテーションの準備をさせる。	配布資料等の準備をする。	4時間
13.	グループ発表	グループで調べたメンタル技法について、プレゼンテーションし、質疑応答の上、相互評価する。	各自あるいはグループで、プレゼンテーションの準備する。	4時間
14.	グループ発表	グループで調べたメンタル技法について、プレゼンテーションし、質疑応答の上、相互評価する。	各自あるいはグループで、プレゼンテーションの準備する。	4時間
15.	グループ発表	グループで調べたメンタル技法について、プレゼンテーションし、質疑応答の上、相互評価する。	各自あるいはグループで、プレゼンテーションの準備する。	4時間
16.	まとめ	プレゼンテーションについての講評と相互評価	これまでの学びについて、整理する。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	授業内外の課題(50%)とグループでのプレゼンテーション(50%)で評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート				25%
	授業外レポート				25%
	演習・実技				50%
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートは、Web上で提出し、授業内等でフィードバックを行う。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。</li> <li>・授業中は携帯電話をかばんの中に入れないこと。</li> <li>・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。</li> </ul>				
関連科目	臨床心理学(健康福祉学科・現代武道学科)				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
オフィス アワー	火曜2時限				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
542180	E-EPE421J-01	保育実習指導																					
科目名(英字)																							
学科	子ども運動教育学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	演習		単位数																		
				2																			
担当教員	佐々木 和 / 賞雅 さや子			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	幼保連携型認定こども園保育教諭、幼稚園型認定こども園教頭および保育士、保育所所長の実務経験を有する																						
授業の概要	3年次で実施される保育実習の事前指導（実習現場の理解、指導計画案の基礎、保育実習への心構え等）及び、事後指導を行う。保育実習に参加する者は、この科目を受講しなければ、実習に参加することはできない。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	保育実習に参加する基礎的・基本的な知識、技能を習得し、併せて保育実習（保育所、施設）に臨むための心構えや態度等を身につける。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>保育実習の意義を理解するとともに、保育実習に必要な基礎的・基本的な知識を習得できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>保育実習に参加するための、意欲と見通しがもてる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>保育実習の基礎的・基本的技能（絵本の読み聞かせ、手遊び、運動遊び、マナー等）を修得できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	保育実習の意義を理解するとともに、保育実習に必要な基礎的・基本的な知識を習得できる。		情意的領域	保育実習に参加するための、意欲と見通しがもてる。		技能表現的領域	保育実習の基礎的・基本的技能（絵本の読み聞かせ、手遊び、運動遊び、マナー等）を修得できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	保育実習の意義を理解するとともに、保育実習に必要な基礎的・基本的な知識を習得できる。																					
	情意的領域	保育実習に参加するための、意欲と見通しがもてる。																					
	技能表現的領域	保育実習の基礎的・基本的技能（絵本の読み聞かせ、手遊び、運動遊び、マナー等）を修得できる。																					
授業計画（全体）	保育実習現場の理解（保育所、認定こども園、施設）、保育実習の心構え、保育実習の方法と流れ、指導計画の作成及び評価の理解等について、講義（又は演習）を行う。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の目的と進め方、シラバスの理解、成績評価の方法	シラバスを読んでおくこと	4時間
2.	保育実践の理解	保育実践の現状を理解する	授業内容の復習	4時間
3.	保育実習の種類と方法	保育実習の種類と方法の実際について理解する。	授業内容の復習	4時間
4.	保育実習の種類と方法	保育実習の種類と方法の実際について理解し、具体的な目標を立てる。	授業内容の復習	4時間
5.	保育実習の種類と方法	保育実習の種類と方法の実際について理解し、具体的な目標を立てる。実習時に持参する書類や教材の確認を行う。	授業内容の復習	4時間
6.	実習における計画と実践	実習の計画と実践を知り、理解を深める。絵本の読み聞かせ、手遊び、運動遊び等に触れる。	授業内容の復習	4時間
7.	実習における計画と実践	実習における観察、記録及び評価について、理解を深める。	授業内容の復習	4時間
8.	指導計画案について	実際の指導計画案に触れ、必要性や理解を深める。	授業内容の復習	4時間
9.	指導計画案について	指導計画案（部分実習）を、立案する。	授業内容の復習	4時間
10.	保育実習と子ども理解	保育実習前に、子どもとの関りについて理解を深める。	保育実習前に、子どもとの関りについて理解を深める。	4時間
11.	施設実習について	施設実習の実際を学び、実習の意義を理解する。	授業内容の復習	4時間
12.	施設実習の種類と方法	施設実習の種類と方法の実際について、理解する。	授業内容の復習	4時間
13.	施設実習の種類と方法	施設実習の種類と方法の実際について理解し、具体的な目標を立てる。	授業内容の復習	4時間
14.	施設実習の指導案について	指導計画案の実際に触れ、理解を深める。	授業内容の復習	4時間
15.	まとめ	これまでの授業を総括し、実習への理解を深める。実習に行くにあたってのマナーやオリエンテーションについて理解する。	授業内容の復習	4時間
16.				4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	出席及び実習関連提出書類(レポート、課題発表等)を中心に、評価する。 実習に向けての姿勢、意欲、教材研究、向上心等を持って、授業や課題に取り組んでいるのかを評価する。 欠席は原則として、3分の1以上は評価対象外とする。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート				50%
	授業外レポート	○	○	○	20%
	演習・実技		○	○	20%
	授業態度		○		10%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは、授業内で解説をしながら、又は相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却をする。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士を目指すものとして、常に課題意識を持ち受講すること。併せて、ピアノのレッスンも積極的に行うこと。</li> <li>・実習関連課題の提出、レポート提出等は、期限を厳守すること。</li> </ul>				
関連科目	保育実習				
関連資格	保育士資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	パターンと練習問題でだれでも書けるようになる！保育実習日誌・指導案	浅井拓久也	明治図書出版	2020	978-4-18-412720-3
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	保育所保育指針解説 平成30年3月		厚生労働省 編	2018	
	幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 平成30年3月		内閣府 文部科学省 厚生労働省	2018	
	保育・教育実習 完全サポートブック	實川雅子	中央法規	2016	978-4-8058-5326-9
オフィス アワー	火曜日 11:50～12:40 / 金曜日 14:20～15:50				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
152110	E-TEA031J-01	教育方法論 B																					
科目名(英字)																							
学科	子ども運動教育学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
				2																			
担当教員	荒井 龍弥 / 賞雅 さや子			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	小学校の教員経験、中学校長の実務経験および保育士、保育所施設庁の経験を有する。																						
授業の概要	教育場面を改善するためには、教える側および学習者側双方のさまざまな要素を考慮に入れなくてはならない。本講では、よりよい教育場面を創造するために必要な知識・技能という観点から、学習が効果的に成立するための諸条件の操作を中心にこれまでの知見を紹介する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<p>これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法や指導技術を身に付けるとともに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務推進の在り方、情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法に関する基礎的知識・技能を身に付ける。これらを通じ、学習を支援する立場から学習者の反応や支援側の応答など、教育場面の展開を想定し計画できる。</p>																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>授業のよしあしや展開を左右する諸条件を指摘し、その改善策を工夫し実施しようすることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>学習を支援する側の論理や考え方を理解するとともに関心を持ち、自らもその視座に立ち考えることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>発問、説明、指示といった指導言を工夫することができる。また、その変化による生徒の反応の違いを予想することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	授業のよしあしや展開を左右する諸条件を指摘し、その改善策を工夫し実施しようすることができる。		情意的領域	学習を支援する側の論理や考え方を理解するとともに関心を持ち、自らもその視座に立ち考えることができる。		技能表現的領域	発問、説明、指示といった指導言を工夫することができる。また、その変化による生徒の反応の違いを予想することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	授業のよしあしや展開を左右する諸条件を指摘し、その改善策を工夫し実施しようすることができる。																					
	情意的領域	学習を支援する側の論理や考え方を理解するとともに関心を持ち、自らもその視座に立ち考えることができる。																					
	技能表現的領域	発問、説明、指示といった指導言を工夫することができる。また、その変化による生徒の反応の違いを予想することができる。																					
授業計画（全体）	<p>授業を実施する側として検討すべき観点に焦点をあて、説明、演習を行う。また、実践例からどのような情報が得られるのか、さらにそれらが教育研究上どのような問題として取りあげられていくのかについても説明を加える。これらをもとに指導者の立場から情報通信技術等もふまえた個々の指導スタイルの確立やの取り組みの改善向上を目指すべく援助していく。</p>																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション 指導言その1 指示	授業を左右する諸要因のうち、指示について留意点を概説するとともに、自らも指示内容を作成検討してみる。	様々な場面で指示内容を検討改善してみる	4時間
2.	指導言その2 説明	説明の種類とその学習効果、抽象度操作のためのキーワードなどについて紹介する。また特定の単元で説明を試みる。	身近な例で抽象度操作をして説明してみる	4時間
3.	指導言その3 発問	授業に及ぼす発問の重要性について概説し、文言の違いにより生じる授業の流れの違いを考える。	特定の単元授業での発問を自分なりに考えてみる	4時間
4.	板書の方法とノンバーバル・コミュニケーション	板書の際の留意点について検討すると共に、立ち位置、巡回方法、視点等の影響について考える。	他の授業で教師の振る舞いを観察し、その理由を考える	4時間
5.	教育方法の社会的形態の違いとアクティブ・ラーニングの必要性	一方的知識技能伝達による教授法の問題点と社会的形態面からみた各種教育方法について概説する。	身近な教材でアクティブ・ラーニングを促す発問を考える	4時間
6.	情報機器の活用その1 授業で用いられるメディアの発展	教育場で用いられる各種メディアとその変遷を紹介し、得失と使用上の留意点を中心に述べる。	自分なりに各種メディアの得失について検討すること。	4時間
7.	情報機器の活用その2 教材提示内容と情報量	情報通信機器を含めた各種メディアによる教材提示の特徴と選択の際の原則（属性記述と対象記述）について概説する	自ら操作することを通じ、各種メディアの特性を体感すること	4時間
8.	情報機器の活用その3 映像教材の特性と自作	教育における映像教材の使用のメリットを考えると同時に、自作の際の留意点を概説する。	特定の内容で自作映像の内容や構成について考えてみる	4時間
9.	情報機器の活用その4 情報モラル 著作権	教育場での著作権問題と、情報通信機器利用にあたっての対応について概説する	対面・リモート等各種ケースによる著作権の取り扱いを整理すること	4時間
10.	情報機器の活用その5 情報モラル 個人情報保護・SNS等の問題	SNS等の問題および学校等教育施設における個人情報保護の必要性と、教師としての個人情報の取り扱いについて概説する	教師の立場で、個人情報保護の観点を整理しておく	4時間
11.	幼児教育において育みたい資質・能力（賞雅）	保育・幼児教育において、幼児に生きる力の基礎を育むための基本的な考え方を指針・要領で確認する。	幼稚園教育要領解説の第1章第2節を熟読すること。	4時間
12.	幼児理解に基づいた評価（賞雅）	幼児一人一人の理解に基づいた評価の実施に関する事項を指針・要領で確認する。	幼稚園教育要領解説の第1章第4節4項を熟読すること。	4時間
13.	保育の方法 - 保育者の関わり（賞雅）	集団の保育において保育者が必要となる関わりの理論と技術について、実践例を示しながら解説する。	ワーク課題に取り組むこと。	4時間
14.	保育の方法 - 環境構成（賞雅）	学びを支える保育環境の構成について、事例をもとに検討する。	ワーク課題に取り組むこと。	4時間
15.	指導案の作成（賞雅）	提示された保育場面の映像をもとに幼児を理解し、ねらい・内容・保育展開・評価等の視点を含めた指導案作成を行う。	指導案作成課題に取り組むこと。	4時間
16.				4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	相互の評価のために、授業内課題を用いる。これらの結果と、レポート試験、出席状況を材料として成績評定を行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験			○	40%
	授業内レポート	○	○	○	40%
	授業外レポート	○			20%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				加減点要素
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	各種課題に対しては授業内でコメントすることによりフィードバックを行う。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	教員、指導者など、学習援助者側の視座に立つことを求める。このため、講義で示したことがらについて、自分なりの例を探したり、「自分だったらこうする」など、自分の身に引き寄せて考察する作業をしてほしい。				
関連科目	教育の心理・教職総合演習・教職キャリア演習				
関連資格	中学・高校教諭(保健体育・福祉)・栄養教諭・養護教諭				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	指定しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	授業に学び授業を創る教育心理学第二版	宇野忍編	中央法規	2002	4-8058-2170-1
	幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	2018	978-4-577-81447-5
オフィス アワー	荒井：前期 月曜 14：20-1550、後期 水曜 12：40-14：10 (荒井研究室A棟309) 賞雅：金曜 14:20-15：50 (賞雅研究室LC棟201)				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
113130	T-fye231J-01 T-	生徒指導論 A (含進路指導及びキャリア教育の理論及び方法)																					
科目名(英字)	Theory of student guidance A																						
学科	健康福祉学科、スポーツ栄養学科、スポーツ情報メディア学科、現代武道学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	江尻 雅彦			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	高校での教員経験を有する																						
授業の概要	本講義では、生徒指導提要並びに学習指導要領に基づき、実際の教育現場で行われる生徒・進路指導及びキャリア教育の意義や原理と指導法、校内体制と家庭や関係機関との連携の在り方、個別の指導、指導上の課題に向き合う考え方を教育相談等の方法も含め38年間の高等学校教育現場経験を踏まえ解説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	生徒指導の意義・目的・原理・内容・方法等や自らの生き方・在り方である進路指導の理論・内容・実践等を理解する。また、校内における生徒指導や進路指導体制と家庭や関係機関との連携の在り方、教育相談や発達障害への具体的対応等を理解する。加えて、目まぐるしく変化する生徒指導の現状と課題を理解し、すべての児童生徒の良好な人格形成に繋げられる実践力を養う。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>生徒指導及び進路指導の歴史や意義、原理、目的、内容、方法、理論等について説明できる。また、生徒・進路指導上の現状と課題を把握し、より望ましい指導の在り方を指摘できる。さらに、生徒・進路指導上の個別の課題に応じた相談支援の在り方を説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>授業に真剣に臨むことを理解し、児童生徒や集団にとって有意義で興味深く、充実した学校生活を送れるような支援を目指し、常に生徒理解と研修に励み、他の教員と協働しながら具体的な課題解決へ向けて思考・判断し生徒指導を実践する力を養うことができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	生徒指導及び進路指導の歴史や意義、原理、目的、内容、方法、理論等について説明できる。また、生徒・進路指導上の現状と課題を把握し、より望ましい指導の在り方を指摘できる。さらに、生徒・進路指導上の個別の課題に応じた相談支援の在り方を説明できる。		情意的領域	授業に真剣に臨むことを理解し、児童生徒や集団にとって有意義で興味深く、充実した学校生活を送れるような支援を目指し、常に生徒理解と研修に励み、他の教員と協働しながら具体的な課題解決へ向けて思考・判断し生徒指導を実践する力を養うことができる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	生徒指導及び進路指導の歴史や意義、原理、目的、内容、方法、理論等について説明できる。また、生徒・進路指導上の現状と課題を把握し、より望ましい指導の在り方を指摘できる。さらに、生徒・進路指導上の個別の課題に応じた相談支援の在り方を説明できる。																					
	情意的領域	授業に真剣に臨むことを理解し、児童生徒や集団にとって有意義で興味深く、充実した学校生活を送れるような支援を目指し、常に生徒理解と研修に励み、他の教員と協働しながら具体的な課題解決へ向けて思考・判断し生徒指導を実践する力を養うことができる。																					
	技能表現的領域																						
授業計画(全体)	各授業のテーマに基づく講義が中心となる。講義ではこれまで高校の教育現場で経験した生の事例を取り上げ、児童・生徒、教師、保護者、地域住民のそれぞれの立場で考えさせる演習も行う。また、実践的力を高めるため、授業外学習や教育ボランティアへの積極的参加を勧める。さらに、マスメディアを活用し、国や地方における生徒指導に係る教育施策や法的対応等の動向を把握させ、当事者意識を高揚させ、思考・判断や態度・行動と直結させ、実践力の向上への起点となる。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	教員免許取得における位置付け、本授業の意義、授業計画と内容、授業の進め方、成績評価の方法、留意事項等について説明する。	教科書（生徒指導提要）p1～21について予習する。	4時間
2.	生徒指導の意義と原理・方法（1）	生徒指導の意義・目標・原理・方法・内容と自己指導能力を育成する三機能、指導上の留意点等について解説する。	教科書p1～p13、学習指導要領総則・特活等で学習を深める。	4時間
3.	生徒指導の意義と原理・方法（2）	生徒指導における集団指導と個別指導及び課題解決的・予防的・成長を促す生徒指導、学校運営と生徒指導等について解説する。	教科書p14～22や学習プリントをもとに学習を深める。	4時間
4.	児童生徒理解の意義と方法	生徒指導と生徒理解の関係、児童生徒理解の方法・対象並びに技術の概要、また、教師の認知評定上の留意事項について解説する。	教科書p40～41、66～74と学習プリントで学習を深める。	4時間
5.	教育相談と発達障害・生徒指導との関係	生徒指導と教育相談・発達障害の関係、学校教育相談の特質・方法・対象・形態・技術について解説する。	教科書p50～53、92～117を中心に学習を深める。	4時間
6.	生徒指導体制と生徒指導の進め方	教職員の役割と守秘義務・生徒指導体制（組織・生徒指導主事）のあり方、年間指導計画と基本的な生活習慣と校内規律等を解説する。	教科書p75～91、127～147と学習プリントで復習する。	4時間
7.	生徒指導と危機管理について	学校における生徒指導と危機管理体制と安全教育、家庭・地域と関係機関との連携について解説する。	教科書p148～151、208～218で学習を深める。	4時間
8.	教育課程と生徒指導	教育課程（教科・道徳教育・総合的な学習・特別活動等）と生徒指導・進路指導との関連について解説する。	教科書P23～39で生徒指導と教育課程の相互関連をまとめる。	4時間
9.	進路指導の歴史と理念及び基礎理論	進路指導のねらい（定義）と意義、歴史、基礎理論と教育課程における位置づけ、生徒指導との関連について解説する。	学習プリントと配付資料等に基づきながら学習を深める。	4時間
10.	進路指導の実践的展開とキャリア教育	進路指導の基本的性格と原理、キャリア教育の意義と内容を解説し、具体的な進路指導（キャリア教育）の計画・展開、実践例を概説する。	配付資料に基づき、進路指導とキャリア教育の学習を深める。	4時間
11.	個別の課題を抱える児童生徒への指導（1）	少年非行等・暴力行為・薬物乱用・喫煙・飲酒の現状と課題並びに対応、非行少年の処遇について解説する。	教科書p163～172やWeb等で考察を深める。	4時間
12.	個別の課題を抱える児童生徒への指導（2）	いじめの現状と課題並びに対応について、また、いじめに関する関係法令・各種通知等について解説する。	教科書p173～174やWebで文科省関係資料等に当たる。	4時間
13.	個別の課題を抱える児童生徒への指導（3）	不登校の歴史の変遷、昨今の不登校の現状と課題並びに対応について、また、不登校に関する関係法令・各種通知等について解説する。	教科書p187～189やWebで文科省関係資料等に当たる。	4時間
14.	個別の課題を抱える児童生徒への指導（4）	その他の生徒指導上における課題（虐待・高校中途退学・自殺等）の現状と課題並びに対応と各種通知について解説する。	教科書p175～190やWeb等で関係省庁資料に当たる。	4時間
15.	生徒指導に関する法制度等	懲戒と体罰・校則・出席停止等の課題と現状、関係法制度や各種通知等について解説する。	教科書p192～197やWebで文科省資料等に当たる。	4時間
16.	期末テスト	授業の理解度、到達度を確認するために期末テスト（筆答試験）を行う。	学習プリントを中心に学習を深める。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	定期の筆記試験の結果(70%)に、授業態度や授業内レポート・意欲・関心(30%)を加味して評価する。なお、提出されたレポート等は、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。学則に従い総欠席数が6回以上の者は評価対象外(放棄)とする。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				70%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				30%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートの実施に関しては、授業時間内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<p>教師になるうという強い意欲のある学生の受講を基本とする。</p> <p>授業態度や確認小テストも評価の観点とし加点し、次時に解説する。また、自己都合による20分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p> <p>資格関連実習や各種公認大会、慶弔等の理由による欠席届は配慮される場合がある。自己都合の欠席や資格関連を伴わない授業演習等は届出を提出しても欠席扱いとする。</p> <p>授業は進み方で内容の前後や変更の可能性もあり得る 詳細については、第一回授業時に紹介す</p>				
関連科目	教育心理、教育相談、その他教職関連科目				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	生徒指導提要(文部科学省 教育図書出版)				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	学習指導要領(総則・特別活動、含解説)・教育小六法				
オフィス アワー	火曜日 11:00 ~ 12:30				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
523100	N-BCH211J-01	生化学																					
科目名(英字)	Biochemistry																						
学科	スポーツ栄養学科			学年	1年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	柴原 茂樹			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	医学教育現場での実務経験を有する																						
授業の概要	<p>生化学は生命現象を主として化学的知識や手法を用いて解析し、その本質を分子のレベルで理解しようとするものである。本授業では、1) 生体や食物はどのような物質から成り立っているのか、2) それらの物質が生体内でどのような化学変化を遂げて、生体の構成成分やエネルギーの源となるのか、3) これらの過程で細胞・器官、酵素タンパク質、遺伝子などがどのように働いているのかについて学ぶ。</p>																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<p>栄養学全般を理解する上で必要な解剖生理学的知識と考え方をより深く学び、それに基づいて栄養に関する諸事項を説明できる。或いは、批判する能力を身につける。</p>																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>人体や食品を構成する物質の種類やそれぞれの構造と機能についての基礎的知識を身に付け、さらに物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>栄養に関する常識を批判的に考える態度を養う。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	人体や食品を構成する物質の種類やそれぞれの構造と機能についての基礎的知識を身に付け、さらに物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を理解する。		情意的領域	栄養に関する常識を批判的に考える態度を養う。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	人体や食品を構成する物質の種類やそれぞれの構造と機能についての基礎的知識を身に付け、さらに物質とエネルギーの代謝を中心とする生化学的諸概念を理解する。																					
	情意的領域	栄養に関する常識を批判的に考える態度を養う。																					
	技能表現的領域																						
授業計画(全体)	<p>各回のテーマについて、基本事項を解説する。必要に応じ資料や復習問題のプリントを配布する。</p>																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	序論	生化学とは、生体成分。有機化合物。細胞の基本構造と機能。生体膜。物質の輸送。	細胞の構造について事前に調べておくこと。	4時間
2.	核酸と遺伝子	核酸の基本構造。核酸塩基、ヌクレオチド、ヌクレオシド、DNA、RNA。クロマチンと核タンパク質。	核酸の構造について事前に調べておくこと。	4時間
3.	アミノ酸、タンパク質の化学	アミノ酸の種類、構造、性質。タンパク質構成基本アミノ酸。	アミノ酸の種類と構造について事前に調べておくこと。	4時間
4.	アミノ酸、タンパク質の化学	ペプチドとペプチド結合。タンパク質の高次構造、性質、機能。	タンパク質の構造について事前に調べておくこと。	4時間
5.	酵素	酵素反応の特徴。酵素の構造と活性中心。ビタミンと補酵素。反応速度と阻害。酵素活性の調節。酵素の細胞内分布とイソ酵素。酵素前駆体。	酵素について事前に調べておくこと。	4時間
6.	糖質の化学	糖質の種類、構造、性質：単糖類、オリゴ糖類。	糖質の種類について事前に調べておくこと。	4時間
7.	糖質の化学	糖質の種類、構造、性質：多糖類（澱粉、グリコーゲン、複合糖質とグリコサミノグリカン）。	糖質の種類と構造について事前に調べておくこと。	4時間
8.	脂質の化学	脂質の種類、構造、性質（脂肪酸、単純脂質）。	脂質の種類と構造について事前に調べておくこと。	4時間
9.	脂質の化学II	脂質の種類、構造、性質（複合脂質、ステロイド、テルペノイド、リポタンパク質）。	種々脂質の構造について事前に調べておくこと。	4時間
10.	代謝総論	生体内の物質代謝とエネルギー代謝の全体像の概要。生体内の酸化還元反応。ATP合成と酸化的リン酸化。	ミトコンドリアの構造について事前に調べておくこと。	4時間
11.	糖質の代謝	グルコースの分解(代謝)。グリコーゲンの合成と分解。	解糖系について事前に調べておくこと。	4時間
12.	糖質の代謝	クエン酸回路。糖新生。ペントースリン酸回路。その他の糖質代謝。	クエン酸回路と糖新生について事前に調べておくこと。	4時間
13.	脂質の代謝 I	脂肪酸の分解。脂肪酸の生合成。ケトン体。	脂肪酸の構造について事前に調べておくこと。	4時間
14.	脂質の代謝 II	アラキドン酸の代謝。コレステロールの代謝。	アラキドン酸とコレステロールの構造について事前に調べておくこと。	4時間
15.	アミノ酸・核酸の代謝	アミノ酸の合成と分解。尿素回路。ヌクレオチドの合成と分解。	アミノ酸の構造について事前に調べておくこと。	4時間
16.	総括と期末試験	本講義のまとめと理解度を問う試験の実施。	全体の復習をすること。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	期末試験を1回施行するとともに、授業の途中で関連課題についてレポートを課す。それらを統合して総合評価する。なお、提出されたレポートは解説しながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				80%
	授業内レポート				20%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートの実施に関しては、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	予習と復習が重要であり、意欲的な取り組みを期待する。				
関連科目	栄養学				
関連資格	栄養士				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	シンブル生化学(改訂第6版)、監修:林典夫・廣野浩子、南江堂。プリントも使用する。				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定なし				
オフィス アワー	教育企画課に確認すること				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
132260	N-CAF331J-06	給食計画論																					
科目名(英字)	Management of Food Service																						
学科	スポーツ栄養学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	岩田 純			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	管理栄養士として病院での実務経験を有する																						
授業の概要	給食の定義や関連する法律について紹介する。給食サービスにおける調理作業計画、栄養管理、衛生安全管理などについて講義を行う。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する基礎的な知識を習得する。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>給食サービスにおける基礎的事項について説明できる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>大量調理を想定した献立作成ができる 大量調理を想定した調理作業工程表を作成できる 自らが作成した献立から大量調理を想定した発注書を作成できる</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	給食サービスにおける基礎的事項について説明できる		情意的領域			技能表現的領域	大量調理を想定した献立作成ができる 大量調理を想定した調理作業工程表を作成できる 自らが作成した献立から大量調理を想定した発注書を作成できる						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	給食サービスにおける基礎的事項について説明できる																					
	情意的領域																						
	技能表現的領域	大量調理を想定した献立作成ができる 大量調理を想定した調理作業工程表を作成できる 自らが作成した献立から大量調理を想定した発注書を作成できる																					
授業計画(全体)	給食の概要説明後、3回目に学内の給食実習室の見学を行う。講義で学んだ知識をより確実なものとするために、何回かの小テストを行い、理解度を確認しながら授業を進めていく。また、大量調理を想定した献立、作業工程表、発注書の作成方法を説明し、授業外の課題とする。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション、給食の定義と目的	授業計画、成績評価方法を説明した後、ジュニアアスリートへの給食提供をテーマとしたグループディスカッションにより給食の目的を考える。	指定の教科書を購入し、「給食」及び「特定給食施設」の定義を読んでおくこと	4時間
2.	特定給食施設の関係法規と行政指導	特定給食施設の栄養士・管理栄養士の配置や適切な栄養管理、行政指導と罰則の規定について説明する。終盤に小テストを実施する。	健康増進法の特定給食施設に関する規定を読んでおくこと	4時間
3.	集団給食実習室の見学	集団給食実習室での給食の流れや調理機器などを紹介する	給食の流れと調理機器の使い方をノートにまとめておくこと	4時間
4.	給食施設における調理作業の流れ	食材の検収から配膳までの調理作業の流れや調理機器を写真や動画を用いながら説明する。終盤に小テストを実施する。	小テストを見直して理解を深めておくこと	4時間
5.	衛生安全管理（調理従事者）	食材料、施設・設備の衛生安全管理について説明する。終盤に小テストを実施する	小テストを見直して理解を深めておくこと	4時間
6.	衛生安全管理（食材料、施設・設備）	食材料、施設・設備の衛生安全管理について説明する。終盤に小テストを実施する	小テストを見直して理解を深めておくこと	4時間
7.	栄養管理（給与栄養基準量の設定）	献立作成に必要な給与栄養基準量の設定方法について解説する。	日本人の食事摂取基準の使い方を復習しておくこと	4時間
8.	栄養管理（食品構成）	食品構成表や献立表の作成方法について説明する。終盤に小テストを実施する。更に献立作成課題を提示する。	大量調理を想定した1食分（昼食）の献立を作成して提出すること	4時間
9.	食材料管理	食材料管理および発注書の作成方法について説明する。発注書作成課題を提示する。	各自で作成した献立より発注書を作成して提出すること	4時間
10.	作業管理（大量調理の特徴）	作業管理の方法や大量調理の標準化について説明する。終盤に小テストを実施する。	小テストを見直して理解を深めておくこと	4時間
11.	作業管理（給食のシステム）	新調理システムおよび調理作業工程表の作成方法について説明する。作業工程表作成課題を提示する。	各自で作成した献立の作業工程表を作成して提出すること	4時間
12.	給食業務における経営管理	給食の原価管理および経営分析法について説明する。終盤に小テストを実施する。	小テストを見直して理解を深めておくこと	4時間
13.	給食施設の種類と特徴	学校、病院、福祉施設などの給食施設の特徴について紹介する。	各給食施設の特徴を整理しておくこと	4時間
14.	まとめ	最初に小テストを実施する。これまでの講義内容を振り返る。試験範囲の説明をする。小テストを見直して理解を深めておくこと	小テストを見直して理解を深めておくこと	4時間
15.	筆記試験	筆記試験を実施する。試験中に机の上に置けるものは筆記用具と電卓のみである	筆記試験に備えて復習をすること。小テストを見直すこと	4時間
16.	筆記試験問題の解説	試験問題の解説を行う。その後、給食運営実習の事前課題について説明する。	不正解だった問題は教科書等で確認しておくこと	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	提出された課題は翌週までに添削して返却する				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				50%
	授業内レポート				20%
	授業外レポート				30%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	大量調理を想定した献立、作業工程表、発注書の作成課題は、Googleクラスルームより配信し、提出された課題もGoogleクラスルーム内で返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の出席が無いと単位修得が出来ない。</li> <li>・課題を一つでも提出しない者は筆記試験を受けることができない。</li> <li>・この科目は給食運営実習(校外実習)の履修許可基準の一つであるため、3年次にこの科目が修得できなかった場合は、翌年に給食運営実習(校外実習)を履修することができない。</li> </ul>				
関連科目	給食運営実習 給食運営実習(校外実習)				
関連資格	栄養士免許				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	給食経営管理論	片山直美、原正美	株式会社みらい	2018	978-4-86015-464-6
	七訂大量調理施設衛生管理のポイント	中央法規出版	中央法規出版	2021	9784805883525
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
オフィス アワー	前期：水4時限 後期：月4時限				
その他	岩田研究室：D棟2階				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名			
551130	S-MED211J-01 、M-	スポーツ医学概論			
科目名(英字)	Introduction to Sports Medicine				
学科	体育学科、現代武道学科			学年	1年
学期	後期	授業形態	講義	単位数	2
担当教員	橋本 実			開講の別	単独開講
実務経験の有無	医療現場での実務経験を有する				
授業の概要	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する				
DPとの関連性	I	II	III	IV	V
アクティブ・ラーニングについて	課題解決型学習(PBL)		反転学修	ディスカッション	
	ディベート		グループワーク	プレゼンテーション	
	実習		フィールドワーク		
授業の一般目標	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する				
授業の到達目標	対象	領域	内容		
		認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する		
		情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するように努力する		
		技能表現的領域			
授業計画(全体)	授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める 授業の終わりに毎回小テストなどをおこない、知識を整理する				

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の進め方などについて説明	当日配布するプリントを参照すること	4時間
2.	スポーツ医学の基礎	スポーツ医学の基本的なことについて説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
3.	ドーピング	ドーピングに関連する知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
4.	ドーピング	ドーピングに関連する防止策や実態について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
5.	呼吸器	スポーツに関連する呼吸器の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
6.	循環器	スポーツに関連する循環器の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
7.	遺伝	スポーツに関連する遺伝の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
8.	前半の振り返りと試験	講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
9.	体液	スポーツに関連する体液の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
10.	細胞	スポーツに関連する細胞の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
11.	免疫	スポーツに関連する免疫の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
12.	赤血球	スポーツに関連する赤血球の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
13.	高地トレーニングと貧血	高地トレーニングと貧血に関連する知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
14.	骨格筋	スポーツに関連する骨格筋の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
15.	後半の振り返りと試験	講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
16.	試験	講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	欠席する場合は必ず欠席届を提出すること。特に試験は無断欠席は認めないので注意すること。出欠はICTツールで毎回の小テストと学びの提出状況で確認する。試験結果は返却し、レポートは必要に応じて返却する。試験の際に持ち込みできるのは講義ノートのみなので、必ず購入すること。成績は相対評価と絶対評価で総合的に判定する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				95%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート	○			5%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートについては授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。				
関連科目					
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	スポーツ医学概論 講義ノート	橋本実	ポラーノ出版	2022	
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
オフィス アワー	教育企画課で確認して下さい				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
143100	H-MED211J-01	リハビリテーション論																					
科目名(英字)	Rehabilitation																						
学科	健康福祉学科			学年	1年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	笠原 岳人			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	理学療法士として医療機関での実務経験を有する																						
授業の概要	本講義は、リハビリテーション医学を基盤とし、基礎的な知識や技術に関する内容を講義を通して教授する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	わが国におけるリハビリテーション医学の知識や技術を理解し、基礎医学から臨床・保健・福祉などの分野における役割について理解することを目標とする。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>リハビリテーションに関係した基本的な知識や技術について説明</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>疾患別の対処法を理解し、医療や福祉の専門職として関わること</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	リハビリテーションに関係した基本的な知識や技術について説明		情意的領域	疾患別の対処法を理解し、医療や福祉の専門職として関わること		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	リハビリテーションに関係した基本的な知識や技術について説明																					
	情意的領域	疾患別の対処法を理解し、医療や福祉の専門職として関わること																					
	技能表現的領域																						
授業計画(全体)	各授業、テーマに沿った資料を配布し進めていく。各講義の後半に小テストを行い、理解度・到達度を確認する。(配布された資料等をまとめるファイルを各自で用意すること)																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の目標と進め方、シラバス、成績評価の方法について説明する	シラバスを熟読しておくこと	4時間
2.	リハビリテーション医療の歴史と発展	リハビリテーション医療の確立について説明する	リハビリテーションの語源について説明できるようにしておくこと	4時間
3.	リハビリテーション医療の過程	専門職の視点からリハビリテーションの展開について説明する	リハビリテーション医療の現状と課題をまとめておくこと	4時間
4.	リハビリテーション専門職との連携	リハビリテーション医療の専門職の種類と役割について説明する	専門職についてまとめておくこと	4時間
5.	人体の構造と機能	身体を構成する運動器(骨・関節・筋肉)について説明する	骨・関節・筋肉の名称と部位をまとめておくこと	4時間
6.	運動障害 肢体不自由	身体機能の障害について説明する	身体機能の障害についてまとめておくこと	4時間
7.	運動機能 廃用症候群	廃用症候群の原因と特徴について説明する	身体活動が不活動で発生する変化をまとめておくこと	4時間
8.	疾患別のリハビリテーション疾患 骨・関節疾患	骨・関節疾患におけるリハビリテーションについて説明する	骨や関節の名称と部位をまとめておくこと	4時間
9.	疾患別のリハビリテーション疾患 脳血管障害	脳血管障害におけるリハビリテーションについて説明する	脳の機能と役割をまとめておくこと	4時間
10.	疾患別のリハビリテーション疾患 精神疾患	躁うつ病におけるリハビリテーションについて説明する	躁うつ病についてまとめておくこと	4時間
11.	疾患別のリハビリテーション疾患 内部疾患	糖尿病におけるリハビリテーションについて説明する	糖尿病についてまとめておくこと	4時間
12.	リハビリテーションの展開 障害 スポーツ障害	スポーツ障害におけるリハビリテーションについて説明する	スポーツ場面における障害の種類と特徴をまとめておくこと	4時間
13.	リハビリテーションの展開 形態測定	形態測定の方法を説明する	身体計測の方法をまとめておくこと	4時間
14.	リハビリテーションの展開 介護予防	介護予防におけるリハビリテーションについて説明する	介護予防についてまとめておくこと	4時間
15.	まとめ	運動障害・疾患別・展開に関するリハビリテーションのまとめを行う	講義内容の復習をしておくこと	4時間
16.	試験	授業の理解度・到達度を確認するため定期試験を行う	試験に備えて復習しておくこと	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	成績評価は、定期試験（評価60%）と、授業内外レポート（評価40%）により、総合的に判断して成績評価を行う。なお、提出されたレポートは、授業内で解説しながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合（%）
	定期試験				60%
	授業内レポート				20%
	授業外レポート				20%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却（方針）	課したレポート課題のフィードバックは、講義の開始前に担当教員より、前週授業の復習を兼ねて解説を行う。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の出席がない学生は、単位を履修することができない</li> <li>・授業態度が悪く、他の学生の授業を妨害する学生は退出させ、それ以降の講義への出席は認めない</li> <li>・本シラバスを参考に、しっかりと予習・復習を行い授業に参加すること</li> </ul>				
関連科目					
関連資格	・介護福祉士 ・福祉レクリエーションワーカー ・障害者スポーツ指導員 ・社会福祉主事任用				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
オフィス アワー	木曜日（14:20～15:50）				
その他	笠原研究室（F棟207）				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
543030	S-SMM031J-01	スポーツとマスメディア																					
科目名(英字)	Sport and Massmedia																						
学科	体育学科			学年	3年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	日下 三男			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	新聞社で記者経験を有する																						
授業の概要	スポーツとマスメディアの関係を、歴史や実例に基づき多角的な観点から講義する。実務経験を活かして折に触れ、スポーツに絡む時事ニュースについても背景と真相を説きながら解説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	メディアが報じるスポーツの記事や番組が、どこに力点を置いて作られているかを考察する。その過程を知ることによってスポーツとメディアの関係性について理解を深める。同時にスポーツ報道にどう接したらいいかを考えるようになり、徐々にメディアリテラシーを身につける。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>メディア全体の概要、その置かれた状況を学ぶ。特にスポーツを伝えるメディアの特性を理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツによる感動をメディアはどう伝えているのかを考える。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>授業内レポートの作成で、メディアの伝える技術を実際に学ぶ。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	メディア全体の概要、その置かれた状況を学ぶ。特にスポーツを伝えるメディアの特性を理解する。		情意的領域	スポーツによる感動をメディアはどう伝えているのかを考える。		技能表現的領域	授業内レポートの作成で、メディアの伝える技術を実際に学ぶ。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	メディア全体の概要、その置かれた状況を学ぶ。特にスポーツを伝えるメディアの特性を理解する。																					
	情意的領域	スポーツによる感動をメディアはどう伝えているのかを考える。																					
	技能表現的領域	授業内レポートの作成で、メディアの伝える技術を実際に学ぶ。																					
授業計画(全体)	各回ごとにテーマを設定し講義する。これらのテーマは授業概要に記した大きなテーマと目的に応じて具体化した内容になっている。授業は新聞の紙面やテレビ報道を示しながら、メディアとスポーツのかかわりを深く掘り下げる。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	何を学ぶか	メディアとスポーツの密接な関係性と学ぶ意義を説明する。	図書館などで新聞やテレビ、雑誌のスポーツ報道に接する。	4時間
2.	メディアとは何か	マスメディアが置かれている現在の状況を説明するなかで、メディアとスポーツのかかわりを示す。	新聞やテレビの報道に日頃から接し、それぞれの特徴を知る。	4時間
3.	ヒーローの形成	力道山、長嶋茂雄、田谷幸吉、イチローらのヒーローはいかにして生まれたか。メディアの果たした役割を考える。	一般紙、スポーツ紙を読み比べる。	4時間
4.	メガイイベントとメディア	五輪やW杯サッカーに代表されるビッグ大会にメディアはどう関わっているのかを探る。	テレビのスポーツ中継の成り立ちを調べる。	4時間
5.	スポーツの産業化とマスメディアの発達	「ゴールデン・カップル」の誕生を、歴史をさかのぼって考える。	図書館でメディアとスポーツあるいはスポーツ報道の関係書物を探す。	4時間
6.	スポーツイベントと広告	スポーツの世界において広告の果たす役割を説明する。	スポーツ関係の有名キャッチコピーを調べる。	4時間
7.	伝統競技とメディア	日本スポーツ界において独特な歩みをみせる大相撲はどのようにして生まれたのか。メディア対応からひも解く。	大相撲関係のニュースをピックアップする。	4時間
8.	物語ジャーナリズムとは何か	メディアは「物語」「ドラマ」でスポーツを語ろうとする特徴がある。その功罪を説明する。	日頃のスポーツ報道から「物語」を探す。	4時間
9.	海外のスポーツ報道	米国や欧州のメディアはスポーツをどのように伝えているのか。日本とのスタンスの違いを考え、そして確認する。	海外の代表的なスポーツ関係のメディアを調べておく。	4時間
10.	スポーツ報道とジェンダー	女性アスリートや障害者をメディアはどう報じているかを検証し課題を説明する。	メディアにおける女性アスリートの伝え方を調べる。	4時間
11.	スポーツと芸術	スポーツと芸術は密接なかかわりを持つ。映画、文学、詩などの分野から優れた作品を鑑賞し関係性を考える。	スポーツ関係の芸術作品に接する。	4時間
12.	スポーツとAI	メディアはスポーツ報道でAI導入を進めている。メディア、そしてスポーツは新しい技術によってどう変わろうとしているのかを説明する。	これまでの講義内容を復習し最終レポートにつなげる。	4時間
13.	勝者と敗者の視点	力道山vs木村政彦の一戦などをビデオ鑑賞させ、勝者と敗者それぞれの立場から「戦評」を書かせる。	地方紙、全国紙の書き方の違いを学んでおく。	4時間
14.	ステレオタイプの報道	スポーツの持つ芳醇な世界観を矮小化する動きとして「画一的な見方」による報道があることを説明し、「メディアの危機」も考えさせる。	「メディアの危機」の意味を下調べする。	4時間
15.	まとめ	これまでの学修内容を総括する。	授業各回のポイントを整理して行く。テストに向けて予習復習する。	4時間
16.	定期試験	メディアとスポーツはどんな関係性があるのか。諸問題の解答を通じて理解力を判定する。	これまでの授業内容を復習する。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	出席状況と授業内レポートを加味し、定期試験(評価割合90%)の結果で総合評価する。提出されたレポートは(授業内で)解説しながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				90%
	授業内レポート				10%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				減点対象
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	授業で課したレポートは相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・私語厳禁。				
関連科目	メディア関係科目				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	現代スポーツを読む	佐伯年詩雄	世界思想社	2006	
	スポーツ雑誌のメディア史	佐藤彰宣	勉誠出版	2018	
	近代スポーツ批判	中村敬雄	三省堂	1977	
オフィス アワー	研究室 5 体3F35 木曜10:20~11:50				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
553050	I-SMM321J-01	ジャーナリズム理論																					
科目名(英字)																							
学科	ｽﾎｰﾂ情報ｽﾏﾙﾄﾞｲ学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	日下 三男 / 安藤 歩美			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	新聞社で実務経験を有するほか、インターネットでウェブサイトを展開する。																						
授業の概要	ジャーナリズムとメディアの理論概念を歴史を踏まえて解説する。新聞、放送、インターネットの特徴とは何か。どんなことを目的としているのか。ジャーナリズムと社会の関係性を考える。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	マスメディアとジャーナリズム研究の基本概念とは何かを知り、そのほかにコミュニケーション理論、ジャーナリズムの倫理観などについても修得する。メディアを批判的な視点から思考する能力を身に付ける。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>マスメディアとジャーナリズムの基本概念と理論について説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>マスメディアとジャーナリズムといった社会的営為に対して興味と関心を持つようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	マスメディアとジャーナリズムの基本概念と理論について説明できる。		情意的領域	マスメディアとジャーナリズムといった社会的営為に対して興味と関心を持つようになる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	マスメディアとジャーナリズムの基本概念と理論について説明できる。																					
	情意的領域	マスメディアとジャーナリズムといった社会的営為に対して興味と関心を持つようになる。																					
	技能表現的領域																						
授業計画(全体)	講義形式で進める。授業ごとに課題と感想文を授業内レポートとして提出させながら、理解度を確認する。また、オープンな形で履修生との意見交換と議論の時間も設け、授業各回のテーマを深く掘り下げる。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション（日下）	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスと成績評価の仕方を説明する。	シラバスを事前に読んでおく。	4時間
2.	ジャーナリズムは戦争を防げるか（日下）	ナショナリズムとジャーナリズムの関係性を説く。「9条」の言説を考える。	「戦争」「新聞」「憲法」の関連性を調べる。	4時間
3.	権力監視こそジャーナリズムの責任である（日下）	調査報道による権力監視はどこまで可能か。権力との距離感を探る。	優れた調査報道を調べておく。授業後は人権思想とは何かを予習。	4時間
4.	ジャーナリズムと人権思想（日下）	犯罪報道と人権を主題に、匿名報道、勤善懲悪、正義感などを考える。	報道被害の実例を調べる。授業後は世論調査の実態を予習。	4時間
5.	世論を問う（日下）	「世論を作る」「世論を操る」「世論に溺れる」「キャンペーン」の危険性とは何かを解説する。	「世論調査」「アンケート」の意味を調べる。	4時間
6.	記者クラブ制度は善か悪か（日下）	記者クラブの実態把握と共に、是非論を講義し討議する。	記者クラブの是非論を調べておく。	4時間
7.	メディア不信とは何か（日下）	「フェイク」が一人歩きし、劣化する既存メディアへの信頼性が損なわれている。危機に瀕するジャーナリズムの現状を解説する。	フェイクチェックの実態を探る。「事実確認」との違いを調べておく。	4時間
8.	インターネットメディアを考える（安藤）	インターネットメディアの誕生の歴史的経緯と社会的意味を探る。	ネットメディアの歴史を調べる。	4時間
9.	インターネットメディアを考える（安藤）	ネットメディアの公共的役割とは何か。SNSの可能性とほころびを考える。	SNSの役割と可能性を調べる。	4時間
10.	雑誌ジャーナリズムの現状（日下）	「田中角栄研究」「疑惑の銃弾」から「文春砲」に至るまでの経緯と課題を説明する。	「文藝春秋」「週刊文春」を調べる。	4時間
11.	メディアリテラシーを考える（日下）	メディアリテラシーも今後の行方と効果を探る。	NIEにみるメディアリテラシーの実態を調べる。	4時間
12.	グローバルとローカル（日下）	東京紙と地方紙、世界と地域をジャーナリズムはどう捉えるか？	一般紙の論調の違いを理解する。	4時間
13.	客観報道と署名記事（日下）	客観報道の歴史を踏まえ、署名記事の役割とは？一方で無署名の社説・1面コラムはどうあるべきなのかを説く。	署名記事と発表ジャーナリズムの異なる点を調べる。	4時間
14.	新聞はこんなにも違う（日下）	記事について、各紙の論調をグループごとにディスカッションする。	新聞を読み込んでくる。	4時間
15.	民主主義の未来とジャーナリズム（日下）	ネットを含めた情報の氾濫のなかでメディアの「この先」を予測する。	ネットジャーナリズムの将来性を考えておく。テストに備える。	4時間
16.	テスト	授業総括のテストを実施する。		4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	期末試験(80%)、授業内レポート(20%)。レポート等は提出の翌週に授業内で解説しながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験	○	○		80%
	授業内レポート	○	○		20%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポート実施する場合は、授業内で指示をします。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・私語厳禁				
関連科目	メディア関係科目				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	生き抜くためのメディア読解	小林真大	笠間書院	2021	
	ニュースは生き残るか	文化研究所編	一藝社	2018	
	ジャーナリズムは甦るか	池上彰ほか	慶応義塾大学出版会	2015	
	ジャーナリズムの可能性	原寿雄	岩波書店	2009	
	ジャーナリズムの思想	原寿雄	岩波書店	1997	
オフィス アワー	日下(研究室5体3F) = 木曜10:20~11:50				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
111070	S-PHY221J-01	運動生理学																					
科目名(英字)	Exercise Physiology																						
学科	体育学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	内丸 仁			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	スポーツ医科学・健康増進の関連研究機関およびトップアスリートのスポーツ医科学サポート現場での実務経験を有する																						
授業の概要	運動生理学では、スポーツ医科学・健康増進の関連研究機関での取り組みや成果、およびトップアスリートのスポーツ医科学サポート現場での実際などの事例を挙げながら、生理学や解剖学を基礎として、活動（運動時）状態における人体の働きについて、生理学的な機能あるいは構造学的変化について体系的に講義を行う。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	運動時の筋・神経・呼吸・循環系の生理学的な機能および働きあるいは構造学的変化について学ぶ。また、競技力向上のためのトレーニング、ウォームアップおよびクールダウンの重要性、疲労、健康に及ぼす運動の効果についても理解する。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応について理解する。運動・トレーニングの生理学的効果について理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>授業に欠かさず出席する。実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことが出来るようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応について理解する。運動・トレーニングの生理学的効果について理解する。		情意的領域	授業に欠かさず出席する。実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことが出来るようになる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	活動（運動時）の人体の生理学的な応答・適応について理解する。運動・トレーニングの生理学的効果について理解する。																					
	情意的領域	授業に欠かさず出席する。実際の活動（運動・トレーニング）において、生理学的な機能や効果さらには意義を理解して取り組むことが出来るようになる。																					
	技能表現的領域																						
授業計画（全体）	各回の授業テーマについて、PowerPointを用いた講義が中心となる。また、各授業毎に自主学習のための振り返り問題やクイズを実施し、理解を深める。 今年度は、大学のコロナウイルスに関するガイドラインに準拠し、感染状況を踏まえて、感染流行拡大の予防に注意を払い、対面もしくは大学の指定するGoogle class roomを通してのオンラインでの授業を行う。なお、対面あるいはオンライン授業への切り替えとなった場合には、改めて周知する。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	運動生理学とは？	運動生理学の授業の進め方と生理学、運動生理学およびスポーツ生理学についての説明	シラバスをよく読んでおくこと	4時間
2.	運動と骨格筋	筋の分類と運動を起こす骨格筋の微細構造、筋収縮のメカニズムについて説明する	P1-6をよく読んでおくこと	4時間
3.	運動と骨格筋	筋収縮におけるATPの役割と無酸素的および有酸素的エネルギー供給機構と筋線維組成について説明する	P6-12をよく読んでおくこと	4時間
4.	運動と骨格筋	筋力発揮特性について説明する。骨格筋の適応と変化、筋力トレーニングの効果について説明する。	P13-28をよく読んでおくこと	4時間
5.	運動と神経	神経の名称と働き、および運動に関連する神経機構、運動単位および反応と反射について説明する	P29-57をよく読んでおくこと	4時間
6.	運動と神経	脳の働きと運動、および神経系のトレーニングの効果について説明する	P29-57をよく読んでおくこと	4時間
7.	運動と内分泌系とストレス	運動時に生体内で分泌されるホルモンの名称と働き、運動によるストレスの変化やトレーニングによるストレスへの適応について説明する	P58-75をよく読んでおくこと	4時間
8.	運動と呼吸循環	運動時の呼吸の調整と肺換気メカニクス、ガス交換および無酸素性作業閾値について説明する	P84-90をよく読んでおくこと	4時間
9.	運動と呼吸循環	心臓および血管の循環系による血液運搬、運動時の血圧の変化、および運動や姿勢変化による循環系への影響について説明する。	P90-101をよく読んでおくこと	4時間
10.	運動と呼吸循環	運動における呼吸循環応答、酸素摂取量、酸素借および酸素負債について説明する	P101-109をよく読んでおくこと	4時間
11.	運動と呼吸循環	運動トレーニングにおける呼吸循環系の適応について説明する	P109-118をよく読んでおくこと	4時間
12.	運動と免疫	生態を防御する免疫系の機能、運動と免疫系の関係性について説明する	P76-83をよく読んでおくこと	4時間
13.	運動と外部（高温、高地、水中他）環境と水分摂取・体温調節	暑熱、寒冷、高地、水中といった異なる環境下での運動時の生理学的な応答について体温調節や水分摂取について説明する	P154-162をよく読んでおくこと	4時間
14.	運動と体力・トレーニング	体力の定義とスポーツ選手を中心としたの体力特性、体力維持・増進のためのトレーニング、ウォームアップとクールダウンについて説明する	P145-153をよく読んでおくこと	4時間
15.	運動と健康および加齢	健康に及ぼす運動の効果、加齢に伴う健康の問題点やその予防方法としての運動について説明する	P121-144をよく読んでおくこと	4時間
16.	テスト	授業の理解度・到達度を確認するためにテストを実施する。	これまでの復習をすること	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	筆記テスト(持込不可)を1回実施する(評価割合70%)。また、自主学習のための振り返り問題、小テストや授業態度(評価割合30%、減点あり)を含めた成績評価を行う。なお、授業態度が授業進行上において悪いと判断した場合には減点の対象とする。出席が2/3(10回)未満の学生は失格条件となる。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				70%
	授業内レポート	○			30%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポート課題は行わない				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。</li> <li>・教科書とノートを必ず用意して受講すること。</li> <li>・講義中に私語などで他の学生の迷惑になる、あるいは授業に支障をきたすと判断した場合には退出してもらう。授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁とする(減点あり)。</li> <li>・予習・復習を行うこと。</li> <li>・授業計画は授業の進行状況により多少前後および内容を変更することがある。</li> </ul>				
関連科目	スポーツ医学A、スポーツ医学B、解剖・生理学、体力相談と運動処方、スポーツトレーナーコース 関連科目 他				
関連資格	中学校・高等学校教諭一種普通免許状(保健体育)、健康運動指導士、CSCS、JPSUスポーツトレーナー 他				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識	村岡功編著	市村出版	2013年	978-4-902109-30-6
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	運動生理学	石河利寛、杉浦正輝共著	建帛社	1989年	978-4-7679-1829-7
オフィス アワー	月曜日 16:00-17:00				
その他	特になし				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
112140	N-F0D221J-01	食品学（含食品加工学）																					
科目名(英字)	Food Science																						
学科	スポーツ栄養学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数 2																		
担当教員	早川 公康 / 藤枝 弥生子			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	管理栄養士、公認スポーツ栄養士、NR・SA、食品保健指導士、食育指導士、衛生検査員の実務経験を有する																						
授業の概要	食の意味、食品加工の歴史および食品の構成成分について解説する。さらに、調理、加工および保蔵中の食品成分の変化や、食品成分と人の健康についても解説する。他者の意見からも学び合いながら専門性の理解を深めるために、適宜、ディスカッションも行う。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	食の意味、食品加工の歴史および食品の構成成分について理解する。さらに、調理、加工および保蔵中の食品成分の変化や、食品成分と人の健康についても理解する。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>食品に関する基本的な科学理論を説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>食品に関する問題の解決に向けた見解をもてる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	食品に関する基本的な科学理論を説明できる。		情意的領域	食品に関する問題の解決に向けた見解をもてる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	食品に関する基本的な科学理論を説明できる。																					
	情意的領域	食品に関する問題の解決に向けた見解をもてる。																					
	技能表現的領域																						
授業計画（全体）	食の意味、食品加工の歴史および食品の構成成分について解説する。さらに、調理、加工および保蔵中の食品成分の変化や、食品成分と人の健康について解説する。管理栄養士、公認スポーツ栄養士、NRサプリメントアドバイザー、食品保健指導士、食育指導士、衛生検査員等の実務経験をふまえて講義する。状況に応じてICT等を活用する。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション（早川・藤枝）	教員の紹介、授業予定・概要について説明する	オリエンテーションの内容を振り返る	4時間
2.	食品とは（早川）	食の意味、食品の定義について解説する	食の意味、食品の定義に関する資料を見直す	4時間
3.	食品の三つの機能（早川）	食品の栄養機能・嗜好機能・生理機能について解説する	食品の三つの機能に関する資料を見直す	4時間
4.	食品の特殊成分と物性（早川）	色素成分、呈味成分、香り成分、食品の特性について解説する	食品の特殊成分と物性に関する資料を見直す	4時間
5.	農産食品（早川）	米・麦等の穀類について解説する	米・麦等の穀類に関する資料を見直す	4時間
6.	豆類（藤枝）	豆類について解説する	豆類に関する資料を見直す	4時間
7.	野菜類・果物類（藤枝）	野菜類・果物類について解説する	野菜類・果物類に関する資料を見直す	4時間
8.	食肉類（含む加工品）（藤枝）	食肉類（含む加工品）について解説する	食肉類（含む加工品）に関する資料を見直す	4時間
9.	魚介類（含む加工品）（藤枝）	魚介類（含む加工品）について解説する	魚介類（含む加工品）に関する資料を見直す	4時間
10.	乳類（含む乳製品）・卵類（藤枝）	乳類（含む乳製品）・卵類について解説する	乳類（含む乳製品）・卵類に関する資料を見直す	4時間
11.	キノコ類・海藻類・嗜好飲料（茶類）（藤枝）	キノコ類・海藻類・嗜好飲料（茶類）について解説する	キノコ類・海藻類・嗜好飲料（茶類）に関する資料を見直す	4時間
12.	油脂類・発酵食品（藤枝）	油脂類・発酵食品について解説する	油脂類・発酵食品に関する資料を見直す	4時間
13.	サプリメント・健康食品（早川）	サプリメント・健康食品の定義について解説する	サプリメント・健康食品に関する資料を見直す	4時間
14.	サプリメント・健康食品（早川）	サプリメント・健康食品の正しい考え方について解説する	サプリメント・健康食品に関する資料を見直す	4時間
15.	総まとめ	全授業内容を振り返り、要点を確認する	全授業内容を振り返り、要点を見直す	4時間
16.	定期試験	筆記試験を行なう	筆記試験範囲の勉強および試験の振り返りを行う	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	原則毎回の授業の終わりに実施する確認テスト(小テスト)、定期試験、授業出席日数、受講態度、レポート等を総合的に評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				70%
	授業内レポート				20%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				10%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは必要に応じて(授業内で)解説をしながら返却する				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することができない(欠格条件)。</li> <li>・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・遅刻2回は欠席1回とみなす。</li> <li>・授業計画は、状況に応じて、多少変更することがある。</li> </ul>				
関連科目	食品衛生学 食品学実験 食品学実習 食品学演習				
関連資格	栄養士免許				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	スタンダード食品学	五明紀春	アイケイコーポレーション		978-4-87492-317-7
	スポーツ・健康のための食事・サプリメント学	早川公康	現代図書	2020年3月	978-4-434-26989-9
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	トップアスリートの指導者に学ぶ	阿部肇、早川公康	現代図書	2021年4月	978-4-434-28778-7
オフィス アワー	月曜14:30~16:00				
その他	早川公康研究室(F206)				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
122080	H-CAW211J-01	介護概論																					
科目名(英字)	Introduction to Nursing Care																						
学科	健康福祉学科			学年	1年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	大山 さく子			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	介護現場（施設・在宅現場）での実務経験を有する																						
授業の概要	介護福祉士を取り巻く状況や背景について、介護の歴史を通して理解し、介護福祉士の社会的役割や利用者の主体性や自立支援の重要性について解説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、その人らしさを学び、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深める。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>介護の歴史や関連法規が説明できる。また、介護の意義と役割、専門性について述べるができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取り組むことが出来るようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	介護の歴史や関連法規が説明できる。また、介護の意義と役割、専門性について述べるができる。		情意的領域	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取り組むことが出来るようになる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	介護の歴史や関連法規が説明できる。また、介護の意義と役割、専門性について述べるができる。																					
	情意的領域	介護福祉に対する関心を持ち、介護に向けた課題に意欲的に取り組むことが出来るようになる。																					
	技能表現的領域																						
授業計画（全体）	各授業テーマに沿って教科書および資料を用いた講義を展開するが、介護をより身近に、そして理解を深めるため事例を用いながら進める。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。介護職としての実務経験や資格を活かし、知識、実践に基づき講義を行う。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法	シラバスを熟読し、教科書の目次をチェックすること	4時間
2.	人間と生活の理解1	生活の考え方と私たちの生活の理解について説明する	‘人間’と‘生活’について、その本質を復習しておくこと	4時間
3.	人間と生活の理解2	生活の個性・多様性、複雑性について説明する	教科書を復習すること	4時間
4.	介護福祉士を取り巻く状況1	わが国の介護の歴史について説明する	資料を基に復習しておくこと	4時間
5.	介護福祉士を取り巻く状況2	介護問題の背景と介護の社会化、介護保険制度について説明する	教科書や資料を基に復習しておくこと	4時間
6.	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ1	社会福祉士及び介護福祉士法の目的と概要を説明、また、倫理規定について説明する	社会福祉士及び介護福祉士法の誕生と目的、概要を発表できる	4時間
7.	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ2	専門職能団体の活動と役割、機能を説明する	介護福祉士の担う社会的役割と機能について説明できる	4時間
8.	介護福祉士の倫理	介護実践における専門職としての倫理と日本介護福祉士会倫理綱領について説明する	教科書を復習しておくこと	4時間
9.	介護を必要とする人の理解1	人間の多様性・複雑性について説明する	資料を基に復習しておくこと	4時間
10.	介護を必要とする人の理解2	さまざまな高齢者の暮らしや介護が必要になった事例を紹介する	高齢者の暮らしを理解しておくこと	4時間
11.	介護を必要とする人の理解3	さまざまな障害者の暮らしと生活ニーズについて説明する	障害者の暮らしを理解しておくこと	4時間
12.	介護を必要とする人の理解4	介護を必要とする人の生活環境とその人らしさについて説明する	資料を基に復習しておくこと	4時間
13.	自立に向けた介護	自立の意味、重要性について説明する	資料を基に復習しておくこと	4時間
14.	生活支援としての介護	さまざまな生活支援とその意義について説明する	教科書や資料を基に復習しておくこと	4時間
15.	尊厳を支える介護	QOL、ノーマライゼーションの考え方について説明する	教科書や資料を基に復習しておくこと	4時間
16.	テスト	授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う	テストに備えて復習をすること	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	試験は、期末試験を1回実施する(評価割合80%)。また、授業内レポート(評価割合20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加え、欠格条件となる。レポートはコメントを付して返却し、試験は個別に解説する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				80%
	授業内レポート				20%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポート・試験については解説をしながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得不可(欠格条件)。</li> <li>・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・授業中は携帯電話の電源を切り、かばんの中にしてしまうこと。</li> <li>・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。</li> <li>・介護福祉士国家試験の内容も含まれているため、別途、国家試験対策を各自で講じることが望ま</li> </ul>				
関連科目	介護概論、リハビリテーション論、生活と生活支援(1年)				
関連資格	介護福祉士国家試験受験資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本 第2版				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	関係資料配布 ならびに 別途指示				
オフィス アワー	火曜日 12:40~14:10				
その他	原則、オンラインでの授業を行う。なお、対面での授業再開となった場合には、改めて周知する。				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
523150	E-EEC331J-01	幼児健康教育論																					
科目名(英字)																							
学科	子ども運動教育学科			学年	3年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	橋本 実			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	医療現場での実務経験を有する																						
授業の概要	幼児期に多いケガや病気について解説し、その処置方法や予防法についても説明する																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	幼児期に多いケガや病気について学び、その処置方法や予防法などが活用できるようになる																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>幼児期に多いケガや病気について学び、その処置方法や予防法などについて理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>幼児期に多いケガや病気について学び、その処置方法や予防法を、活用するように努力する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	幼児期に多いケガや病気について学び、その処置方法や予防法などについて理解する		情意的領域	幼児期に多いケガや病気について学び、その処置方法や予防法を、活用するように努力する		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	幼児期に多いケガや病気について学び、その処置方法や予防法などについて理解する																					
	情意的領域	幼児期に多いケガや病気について学び、その処置方法や予防法を、活用するように努力する																					
	技能表現的領域																						
授業計画(全体)	授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める また、プリントに書き込みながら理解を深める																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の進め方などについて説明	当日配布するプリントとを参照すること	4時間
2.	幼児期のケガ	幼児期のケガの基本的なことについて説明する	授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること	4時間
3.	幼児期のケガ	幼児期のケガの基本的なことについて説明する	授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること	4時間
4.	幼児期のケガ	幼児期のケガの基本的なことについて説明する	授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること	4時間
5.	幼児期のケガ	幼児期のケガの基本的なことについて説明する	授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること	4時間
6.	幼児の救急処置	幼児期のケガの救急処置について説明する	授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること	4時間
7.	幼児の救急処置	幼児期のケガの救急処置について説明する	授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること	4時間
8.	前半の振り返りと試験	講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう	プリントを中心に、講義内容を整理すること	4時間
9.	幼児期の病気	幼児期に多い疾患について説明する	授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること	4時間
10.	幼児期の病気	幼児期に多い疾患について説明する	授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること	4時間
11.	幼児期の病気	幼児期に多い疾患について説明する	授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること	4時間
12.	幼児期の病気	幼児期に多い疾患について説明する	授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること	4時間
13.	幼児の生活環境	幼児期の生活環境の基本的なことについて説明する	授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること	4時間
14.	幼児の生活環境	幼児期の生活環境の基本的なことについて説明する	授業後、図書館で関連のある本を探し復習すること	4時間
15.	後半の振り返りと試験	講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう	プリントを中心に、講義内容を整理すること	4時間
16.	試験	講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する	プリントを中心に、講義内容を整理すること	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	原則、公欠を認めない。公欠を含め2/3以上出席(5回までの欠席に)するように、自己管理すること。正当な理由の欠席で6回以上になる場合は、ケースごとに対応する。講義ノートで出欠や受講状況を確認し、場合によっては成績にも影響するので必ず購入し講義内容を記入すること。出欠は受験資格のみとし評価に加わえないが、相対評価と絶対評価で成績を総合的に判定する。試験結果は掲示し、レポートはICTツールで評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				95%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート	○			5%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートについては、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。				
関連科目					
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
オフィス アワー	教育企画課で確認して下さい。				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
966620	H-CAW041J-01	医療的ケア実施の基礎																					
科目名(英字)	The basics of medical care for care work																						
学科	健康福祉学科			学年	4年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数	2																	
担当教員	堀江 竜弥 / 福田 伸雄			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	医療現場（病院・在宅）での実務経験を有する																						
授業の概要	医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握など、医療的ケアを安全・適切に実施するための基礎について学習する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	医療的ケアを安全かつ適切に実施するために必要な基礎的知識を身につける。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握といった医療的ケアを実践する上での基礎的知識が安全かつ適切なケアに欠かせないことが理解できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>観察に基づく情報収集からの確かなアセスメントができ、医療職との連携・協力の必要性を理解することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>医療的ケアを安全かつ適切に実施するために必要な一次救命などの基礎的技術が習得できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握といった医療的ケアを実践する上での基礎的知識が安全かつ適切なケアに欠かせないことが理解できる。		情意的領域	観察に基づく情報収集からの確かなアセスメントができ、医療職との連携・協力の必要性を理解することができる。		技能表現的領域	医療的ケアを安全かつ適切に実施するために必要な一次救命などの基礎的技術が習得できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握といった医療的ケアを実践する上での基礎的知識が安全かつ適切なケアに欠かせないことが理解できる。																					
	情意的領域	観察に基づく情報収集からの確かなアセスメントができ、医療職との連携・協力の必要性を理解することができる。																					
	技能表現的領域	医療的ケアを安全かつ適切に実施するために必要な一次救命などの基礎的技術が習得できる。																					
授業計画（全体）	<p>医療職との連携のもとで医療的ケアを安全適切に実施できるよう必要な知識・技術を習得することにある。医療的ケアは講義実時間50時間が必須となっている。「医療的ケア実施の基礎」「喀痰吸引」「経管栄養」で、基礎知識と実施手順を学習し、「医療的ケア演習」で安全かつ適切な実施手順を習得できるよう教授する。看護職としての実務経験、老年看護学における教育研究の経験を活かし、知識に基づいた医療支援を提供する観点から講義を行う。</p>																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	個人の尊厳と自立（堀江）	個人の尊厳と自立とは何かを資料をもとに学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
2.	医療の倫理（堀江）	医療における倫理について、様々な医療関連職の倫理も含めて学習する	前回配布資料を基に復習しておくこと	4時間
3.	利用者や家族の気持ち、説明と同意（堀江）	医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちについて概説し、説明と同意の必要性と基本的事項について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
4.	保健医療に関する制度（堀江）	保健医療に関する制度と何か、介護保険制度も含めて学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
5.	医行為に関する法律（堀江）	医行為に関する法律について説明し、介護福祉士が行う医療的ケアに関連する法律について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
6.	チーム医療と介護職との連携（堀江）	医療的ケアを実施するチーム医療と運営方法、介護職との連携について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
7.	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施（堀江）	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施とその方法論について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
8.	感染予防（堀江）	医療的ケアを実施するために必要な感染予防とその方法について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
9.	職員の感染予防（堀江）	職員が起り得る感染と感染管理方法について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
10.	療養環境の清潔、消毒法（堀江）	医療的ケアを行うために必要な療養環境の清潔、消毒法について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
11.	滅菌と消毒（堀江）	日常生活場面と医療における清潔と不潔、滅菌と消毒の概念について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
12.	身体・精神の健康（堀江）	医療的ケアを受ける者における身体・精神の健康と維持の必要性について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
13.	健康状態を知る項目（バイタルサインなど）（堀江）	健康状態を知る項目（バイタルサインなど）と測定方法について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
14.	急変状態について（福田）	医療的ケア上の体調不良を含む急変状態について学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
15.	救急蘇生法（福田）	救急蘇生法について学習し、シミュレーターによる演習を通して学習する	テキスト及び映像資料による学習しておくこと	4時間
16.	まとめ（堀江）	基礎知識の習得状況について確認する	本科目で学習した内容を復習すること	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	試験は、医療的ケアの安全・適切な実施に必要な基礎知識の習得状況を確認する目的で行う。 試験における評価基準は、厚生労働省より示されている内容に準拠する。試験結果は個別に解説する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				90%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				10%
	授業態度				減点対象
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	授業終了後に、内容を確認できたかどうか、受講後のまとめを毎回課す。 学びの内容について次回授業時にコメントする。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得不可(欠格条件)。</li> <li>・授業態度が悪い学生に対しては、成績評価から減点する。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・授業中は携帯電話の電源を切り、かばんの中にしてしまうこと。</li> <li>・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。</li> <li>・介護福祉士国家試験の内容も含まれているため、別途、国家試験対策を各自で講じることが望ま</li> </ul>				
関連科目	こころとからだ ・ 、喀痰吸引、経管栄養、医療的ケア演習				
関連資格	介護福祉士国家試験受験資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	医療的ケア	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2019	978-4-8058-5775-5
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	なし				
オフィス アワー	月曜日 16:00~17:30				
その他	オンラインで対応する場合は、別途指示します。連絡先 tt-horie@sendai-u.ac.jp				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
114310	H-CAW312J-01	生活支援技術の基礎																					
科目名(英字)	Lifestyle support skill Basic																						
学科	健康福祉学科			学年	1年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数																		
					2																		
担当教員	福田 伸雄 / 後藤 満枝			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	介護福祉士としての実務経験、看護師としての医療現場等での実務経験を有する																						
授業の概要	介護福祉士・看護師による実務経験を活かし、介護の実践現場に求められる介護福祉士養成の観点から授業を運営する。自立支援の視点を踏まえ、介護を必要とする人々の安全で快適な環境の整備、食事、入浴、排泄、移動、身じたく等の日常生活援助について、基本的知識・技術を習得できるよう、解説をもとに演習を展開する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	介護に必要な基本的知識を身につけ、介護を必要とする人々の身体的状況や、心理的状況などについて理解することができる。また、対象者の日常生活の自立を促し、対象者の状態に応じた安全で、安楽な基本的介護技術を展開することができる。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>介護に必要な基本的知識について説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況に配慮できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を展開することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	介護に必要な基本的知識について説明することができる。		情意的領域	介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況に配慮できる。		技能表現的領域	対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を展開することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	介護に必要な基本的知識について説明することができる。																					
	情意的領域	介護を必要とする人々の立場に立ち、介護者として、対象者の身体的状況や心理的状況に配慮できる。																					
	技能表現的領域	対象者の状態に応じた安全で安楽な基本的介護技術を展開することができる。																					
授業計画(全体)	各授業テーマに沿って、教科書や視聴覚教材を用いて解説を加えながら、内容の確認を行う。特に重要な項目や技術については、デモンストレーションを取り入れ、その後グループごとに演習を展開し、技術の習得につなげる。教員が随時技術指導・確認を行うが、授業終了時に感想等を聞き、助言を行うなど、まとめとして、補足説明を加える。なお、授業で得た知識や学び等をレポートにまとめ、提出してもらった課題を課す場合もある。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	生活支援とは何か（福田）	生活を理解する視点と生活支援の基本的な考え方について解説する。	教科書をよく読み、授業の復習をしておくこと。	4時間
2.	アセスメントとは何か（福田）	アセスメントの意味と手法について解説する。	アセスメントについて、教科書で復習しておくこと。	4時間
3.	自立に向けた移動の介護1（福田）	ボディメカニクスの原理・原則について解説をもとに演習を行う。	ボディメカニクスの原理・原則について復習しておくこと。	4時間
4.	自立に向けた移動の介護2（福田）	介護場面に必要となる姿勢の種類の説明、要介護者の移動介助の演習を行う。	姿勢の種類（名称）を覚えらるるよう復習しておくこと。	4時間
5.	自立に向けた移動の介護3（福田）	車椅子の扱い方や、ベッドと車椅子間の移動介助について演習を行う。	車椅子の各部の名称を覚えらるるよう復習しておくこと。	4時間
6.	自立に向けた居住環境の整備1（後藤）	居住環境や居住環境の整備における意義・目的・実際について説明する。	居住環境の整備について教科書等で復習しておくこと。	4時間
7.	自立に向けた居住環境の整備2（後藤）	寝具の整え方について説明し、ベッドメイキングの演習を行う。	自宅でベッドメイキングについて復習してみること。	4時間
8.	自立に向けた居住環境の整備3（後藤）	ベッドメイキングの技術確認を行う。	自宅でベッドメイキングについて復習してみること。	4時間
9.	自立に向けた身じたくの介護1（後藤）	身だしなみを整えることの意義を説明し、衣服の着脱介助の方法について演習を行う。	脱健着患の原則を理解し、実際に自宅で復習してみること。	4時間
10.	自立に向けた身じたくの介護2（後藤）	口腔内清潔保持の意義について説明し、実際の方法について演習を行う。	実際に演習を行うため、歯ブラシとコップを持参すること。	4時間
11.	自立に向けた入浴・清潔保持の介護1（後藤）	身体を清潔に保つ方法として、安全で的確な入浴介助の技法について実際に演習を行う。	実際に入浴するため、水着とバスタオルを持参すること。	4時間
12.	自立に向けた入浴・清潔保持の介護2（後藤）	身体を清潔に保つ方法として、安全で的確な食事介助の方法について演習を行う。	実際に足浴を行うため、タオルを持参すること。	4時間
13.	自立に向けた食事の介護（後藤）	摂食のメカニズムについて解説し、安全で適切な食事介助の方法について演習を行う。	実際に食事の介助を行うため、エプロンを持参すること。	4時間
14.	自立に向けた排泄の介護（後藤）	排泄のメカニズムについて解説し、ポータブルトイレでの排泄介助について演習を行う。	演習の際、実習着の下にハーフパンツを着用すること。	4時間
15.	授業のまとめ（福田）	これまでの授業を振り返り、解説する。	これまでの授業について教科書等で復習しておくこと。	4時間
16.	テスト（福田）	授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う。	テストに備えて、復習しておくこと。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	筆記試験、実技試験の結果に基づき総合的に評価する。ただし、出席3分の2以上が前提となる。 なお、試験については試験実施後に随時質問に応じて解説する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				60%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				40%
	授業態度				加点・減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートはコメントを付けた上で返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3分の2以上の出席がない学生は単位を修得することができない。(欠格条件)。</li> <li>・本授業は学外の「介護実習」に直接つながる授業であり、毎回演習や体験を通しての学習になるため、授業をできるだけ休まないようにすること。</li> <li>・授業態度によっては、成績評価の加点・減点を行うこともあり、身だしなみも授業態度として評価する。また、介護実習室では実習着、体育館シューズを着用すること。授業計画は、進捗状況により、多少前後することがある。</li> </ul>				
関連科目	介護概論、コミュニケーション技術論、生活と生活支援、生活支援技術の基礎				
関連資格	介護福祉士国家試験受験資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術【第2版】技術	【編集委員】浦尾和江・櫻井恵美・柴山志穂美・白井孝子	中央法規	2022	978-4-8058-8395-2
	最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術【第2版】	【編集委員】櫻井恵美・柴山志穂美・白井孝子・王生尚美	中央法規	2022	978-4-8058-8396-9
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
オフィス アワー	火曜日 14:20～15:50 (研究室：福田研究室：G棟2階212)				
その他	オンラインで対応する場合は、別途指示します。連絡先：nb-fukuda@sendai-u.ac.jp				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
153030	S-MED221J-01	運動障害救急法（含実習）																					
科目名(英字)	Emergency Care for Sports injury																						
学科	体育学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	橋本 実			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	医療現場での実務経験を有する																						
授業の概要	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害の知識と対処方法について解説する スポーツドクターの立場から固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用方法を解説し、実習もおこなう																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	スポーツ現場でおこる、外傷、障害にたいし正しい対処ができるようになる 固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDを適切におこなえるようになる																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する		情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する																					
	情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する																					
	技能表現的領域																						
授業計画（全体）	授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート（教科書）に書き込みながら理解を深める 授業の終わりに毎回小テストなどをおこない、知識を整理する																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の進め方などについて説明する	プリントを配布するので参考にすること	4時間
2.	外傷	外傷の分類、重症度などについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
3.	外傷の新しい治療	外傷の新しい治療について説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
4.	固定法	様々な方法による上肢の固定法について説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
5.	止血法	様々な方法による止血法について説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
6.	脳震盪	脳震盪の分類、重症度などについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
7.	頭部外傷	頭部外傷の分類、重症度などについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
8.	救急処置（実習）	包帯、三角巾の使用方法、RICE、傷の治療を実習する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
9.	前半の振り返りと試験	講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
10.	熱中症	熱中症の分類、重症度などについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
11.	熱中症	熱中症の対処方法、予防法などについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
12.	心肺蘇生法	心肺蘇生法について説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
13.	AEDを使った心肺蘇生法	AEDを使った心肺蘇生法について説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
14.	救急処置（実習）	AED、AED実習器具を使って実習する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
15.	後半の振り返りと試験	講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
16.	試験	講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	欠席する場合は必ず欠席届を提出すること。特に試験は無断欠席は認めないので注意すること。出欠はICTツールで毎回の小テストと学びの提出状況で確認する。試験結果は返却し、レポートは必要に応じて返却する。試験の際に持ち込みできるのは講義ノートのみなので、必ず購入すること。成績は相対評価と絶対評価で総合的に判定する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				95%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート	○			5%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートについては、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。				
関連科目					
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	運動障害救急法 講義ノート	橋本実	ポラーノ出版	2022	
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
オフィス アワー	教育企画課で確認して下さい				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
522030	I-SMM321J-03	スポーツ取材・報道演習 A																					
科目名(英字)	Sports Reporting and Writing A																						
学科	スポーツ情報マスタイ学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数	2																	
担当教員	日下 三男 / 安藤 歩美			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	新聞社で実務経験を有するほか、インターネットでウェブサイトを展開する。																						
授業の概要	マスメディアの中で最も歴史がある新聞報道の特徴などについて記者経験を基にして講義する。日本の新聞の構成と内容、さらにスポーツニュースの特徴について説明する。授業の展開は内容分析という手法を使ってメディアの送り出す情報を実証的に分析することを目標とする。社説やコラムからメッセージを読み取り、キーワードをコード(記号)化して分析する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	新聞がどのような記事や広告で構成・編集されているのか。新聞の特徴や特性を知ることによって、報道全般に理解を深める。スポーツ記事については日本の一般紙、スポーツ紙を比較分析するなどして特徴を浮き立たせる。内容分析でメディアの構造を知った後は実践へ。スポーツ取材を通して記事執筆し、表現技法を学ぶ。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>新聞の社説やコラムがどう構成され、各紙の特徴は何かを説明出来る。スポーツ面については客観性をもって読むことができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>新聞を身近なメディアとして捉えられるようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	新聞の社説やコラムがどう構成され、各紙の特徴は何かを説明出来る。スポーツ面については客観性をもって読むことができる。		情意的領域	新聞を身近なメディアとして捉えられるようになる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	新聞の社説やコラムがどう構成され、各紙の特徴は何かを説明出来る。スポーツ面については客観性をもって読むことができる。																					
	情意的領域	新聞を身近なメディアとして捉えられるようになる。																					
	技能表現的領域																						
授業計画(全体)	大きく三つに分け、授業テーマに沿った資料を用いながら新聞の特性を知る。理解度・到達度を確認するために内容分析に取り組む。社説やコラムを実際に執筆し発表する。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法も知らせる。	シラバスを熟読する。	4時間
2.	新聞の内容と構成	全国紙、地元紙を読み比べながら、それぞれの特徴を説明する。「内容分析」のデザインと実践へ。	少なくとも一紙を読んでその新聞の特徴をまとめてくる。	4時間
3.	新聞の社説とコラム	新聞の社説とコラムについて講義する。	説とコラムをそれぞれ一つ読んで感想をまとめる。	4時間
4.	新聞の社会面	国紙、地元紙の社会面を読んで紙面や記事を分析する。	社会面の特集記事を読んで感想をまとめてくる。	4時間
5.	新聞のスポーツ面	全国紙、地元紙のスポーツ面を読んで紙面や記事を分析する。	スポーツ面の特集記事を読んで感想をまとめてくる。	4時間
6.	各紙の特徴と個性	「内容分析」でディスカッション	各紙の読み込み	4時間
7.	各紙の特徴と個性	「内容分析」でディスカッション	各紙の読み込み	4時間
8.	各紙の特徴と個性	「内容分析」でディスカッション	各紙の読み込み	4時間
9.	各紙の特徴と個性	「内容分析」でディスカッション	各紙の読み込み	4時間
10.	社説とコラム執筆&ディスカッション	各自テーマ設定し社説やコラムを執筆する。	参考記事読解	4時間
11.	社説とコラム執筆&ディスカッション	各自テーマ設定し社説やコラムを執筆する。	参考記事読解	4時間
12.	社説とコラム執筆&ディスカッション	各自テーマ設定し社説やコラムを執筆する。	参考記事読解	4時間
13.	合評会	執筆するという実践を通して学んだことを基に合評する。	感想文	4時間
14.	執筆	時事テーマを基に取材し、社説とコラムを執筆する。	記事を完成させる。	4時間
15.	成果を発表	ジャーナリズムとは何か。新聞観、ニュース観を各自披露する。	各紙の読み込み	4時間
16.	レポートの提出	報道から学び取ったメッセージの生かし方をレポートにまとめて提出する。	各紙の読み込み	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	授業外レポート(評価割合80%)、授業内レポート(20%)を課す。これらの結果を総合して成績評価を行う。提出されたレポートは解説をしながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート				20%
	授業外レポート				70%
	演習・実技				10%
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	授業内で講評する				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・スポーツ取材の現場に実際に踏み込む場合があるので、該当競技の知識を蓄えておくこと。				
関連科目	メディア系科目全て				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	増補版メディアの議題設定機能	竹下俊郎	学文社	2008	
	内容分析の方法	有馬明恵	ナカニシヤ出版	2021	
	内容分析の進め方	ダニエル・リフほか	勁草書房	2018	
	メッセージ分析の技法	クラウス・クリッペンドルフ	勁草書房	1989	
オフィス アワー	日下(5体3F) = 水10:20~11:50				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
143210	E-CME032J-02	障害児保育																					
科目名(英字)																							
学科	子ども運動教育学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	演習	単位数	2																		
担当教員	渡邊 康男			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	県教育委員会・特別支援教育センターで障害幼児の療育相談・就学相談、教育相談に従事した実経験を有する。																						
授業の概要	人間の一生の中で心身の発達が最も著しいのは乳幼児期であり、障害のある乳幼児は様々な領域で発達の制限や支障が生ずる。さらに療育者である親の精神的な動揺も大きく影響する。ここでは、知的障害や発達障害等の障害のある子供の特性を明らかにし、実務経験を活かし適切な支援の方法等を具体的に解説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	障害児保育に必要な基礎的知識を身につけるとともに、障害に応じた支援の在り方を考える。プレゼンテーションやグループでの話し合いをとおして、障害のある幼児の育ちと支援について自分なりに考えることができる。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>幼児にみられる様々な障害について理解する。障害に応じた支援の仕方を概説できる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>障害のある幼児の親や家族の心情を知り、連携の仕方を考えることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>障害特性を整理し、支援の仕方等を発表できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	幼児にみられる様々な障害について理解する。障害に応じた支援の仕方を概説できる		情意的領域	障害のある幼児の親や家族の心情を知り、連携の仕方を考えることができる。		技能表現的領域	障害特性を整理し、支援の仕方等を発表できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	幼児にみられる様々な障害について理解する。障害に応じた支援の仕方を概説できる																					
	情意的領域	障害のある幼児の親や家族の心情を知り、連携の仕方を考えることができる。																					
	技能表現的領域	障害特性を整理し、支援の仕方等を発表できる。																					
授業計画(全体)	障害のある幼児の障害特性やその支援方法について講義と演習をとおして具体的に学ぶ。幼児にみられる障害やつまづきについて、プレゼンテーションやロールプレイ等で実践する。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション 障害児保育の歴史と概念	授業の進め方、評価や等について確認する。 障害児保育の歴史やその考え方について	障害のある幼児保育について、自分の考えをまとめておくこと。	4時間
2.	障害とはなにかを考える	ICIDHとICFについて、解説する。	国際障害分類と国際生活機能分類について事前に調べておくこと	4時間
3.	障害特性の理解と支援	視覚障害・聴覚障害について	感覚障害について整理してまとめておくこと	4時間
4.	障害特性の理解と支援	知的障害について	知的障害について整理してまとめておくこと	4時間
5.	障害特性の理解と支援	肢体不自由について	肢体不自由について整理してまとめておくこと	4時間
6.	障害特性の理解と支援	LD・ADHDについて	LD・ADHDについて整理してまとめておくこと	4時間
7.	障害特性の理解と支援	自閉症について	自閉症について整理してまとめておくこと	4時間
8.	障害特性の理解と支援	その他の障害について	その他の障害について整理してまとめておくこと	4時間
9.	障害のある幼児のアセスメント	遠城寺式乳幼児分析的発達検査について	考えられる発達検査等について事前に調べておくこと。	4時間
10.	成育歴を読む	成育歴から支援を考える。 グループごとに検討し発表する。	遠城寺式乳幼児分析的発達検査について復習しておくこと	4時間
11.	成育歴を読む	成育歴から支援を考える。 グループごとに検討し発表する。	遠城寺式乳幼児分析的発達検査について復習しておくこと	4時間
12.	障害のある幼児の保護者との連携	保健・福祉・医療との連携	保健福祉の窓口について事前に調べておくこと	4時間
13.	支援方法の工夫	事例を取り上げて、支援の工夫についてグループごとに検討し発表する。	障害特性と支援・アセスメントについて復習しておくこと。	4時間
14.	支援方法の工夫	事例を取り上げて、支援の工夫についてグループごとに検討し発表する。	障害特性と支援・アセスメントについて復習しておくこと。	4時間
15.	個別の支援計画・学校教育・インクルーシブ教育システムについて	個別支援計画の作成や学校教育への連携 インクルーシブ教育システムの構築について	個別支援計画やインクルーシブ教育システムについて、調べておくこと。	4時間
16.	まとめ	これまでの講義・演習の内容を振り返り、自らの理解度を確認する。	理解不足の内容については、確認の上、復習しておくこと。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	授業内のプレゼンテーションやグループワーク(25%)と定期試験(75%)等の結果により総合的に評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				75%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				25%
	授業態度				減点有り
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	試験や授業内レポートは解説しながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	演習として、グループワーク、プレゼンテーションやディスカッションを多く取り入れるので積極的に考え発言すること。 ・電子黒板やタブレット端末を活用するので、各自安全なusbを準備すること。				
関連科目	乳幼児保育				
関連資格	保育士資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	気になる子どもの保育と育児	村井憲男他			
オフィス アワー	教育企画課に確認すること				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
541180	N-NUT321J-01	臨床栄養学概論																					
科目名(英字)	Introduction Clinical Nutrition																						
学科	スポーツ栄養学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	真野 芳彦			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	管理栄養士として医療・介護施設での実務経験を有する																						
授業の概要	<p>本授業は、これまで学習してきた栄養学ならびに解剖・生理学を基礎に、栄養摂取および栄養代謝と、生体の生理機能ならびに疾病との関係連を学習する。特に生活習慣に関連した患者の病因・病態における栄養の役割について重点的に取りあげる。</p>																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<p>将来、医療・介護および健康管理に従事する栄養士および管理栄養士に必要な知識を身につけるとともに、各種患者の病因・病態の基礎的な医学知識を習得する。</p>																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>医療・介護および健康管理に従事する栄養士および管理栄養士として、疾病に対する食事療法と栄養管理を理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>全人的医療を基に上述の人材として、専門職の役割を果たせるようたえず意識して学習を継続する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	医療・介護および健康管理に従事する栄養士および管理栄養士として、疾病に対する食事療法と栄養管理を理解する。		情意的領域	全人的医療を基に上述の人材として、専門職の役割を果たせるようたえず意識して学習を継続する。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	医療・介護および健康管理に従事する栄養士および管理栄養士として、疾病に対する食事療法と栄養管理を理解する。																					
	情意的領域	全人的医療を基に上述の人材として、専門職の役割を果たせるようたえず意識して学習を継続する。																					
	技能表現的領域																						
授業計画(全体)	<p>下記の授業計画に沿って、教科書ならびに教員が用意する関連資料を用いて講義を行う。特に病態と栄養管理の関連を学び、医療・介護施設における給食管理に必要な食事療法の理解と栄養アセスメントと栄養管理の技術を習得することが目的である。</p>																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	臨床栄養学概念、医療従事者としての栄養士・管理栄養士の役割を示し、栄養ケアマネジメントを学習する。	シラパスを読んでおくこと	4時間
2.	代謝疾患（1）メタボリックシンドローム・肥満症	メタボリックシンドロームおよび肥満症の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。	解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
3.	代謝疾患（2）脂質異常症と動脈硬化症	脂質異常症および動脈硬化症の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。	解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
4.	代謝疾患（3）先天性代謝異常と糖尿病	先天性代謝異常および糖尿病の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。	解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
5.	代謝疾患（3）糖尿病	糖尿病治療に用いる薬剤と薬剤の機序に基づいて栄養生理を理解する。	解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
6.	消火器疾患（1）急性肝炎・慢性肝炎	肝機能および栄養代謝を復習する。急性肝炎および慢性肝炎の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。	解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
7.	消火器疾患（2）脂肪肝・肝硬変	脂肪肝および肝硬変の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。	解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
8.	消火器疾患（3）胆石症・胆のう炎	胆石症および胆のう炎の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。	解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
9.	骨粗鬆症	骨粗鬆症の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。	解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
10.	消化管疾患（4）胃・十二指腸潰瘍	胃・十二指腸潰瘍の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。	解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
11.	消化管疾患（5）胃・十二指腸潰瘍、胃摘出後の栄養食事管理	胃・十二指腸潰瘍と胃摘出後の栄養モニタリング。早期および後期ダンピング症候群の食事栄養管理。	解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
12.	消化管疾患（5）炎症性腸疾患	潰瘍性大腸炎およびクローン病の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。	解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
13.	循環器疾患（1）高血圧症・虚血性心疾患	高血圧症および虚血性心疾患の概要、病因、病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。	解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
14.	腎疾患（1）	腎臓の生理と病態栄養、腎疾患の症状、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群の病態と病因を理解する。	解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
15.	腎疾患（2）糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、腎不全	各腎疾患の病因および病態に基づいた栄養生理と栄養食事管理を学習する。	解剖生理学を復習と模擬問題を解くこと。	4時間
16.	期末試験と総合評価	授業の理解度・到達度を確認するために筆記試験をおこなう。	全体のまとめをすること。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	・試験は、学生自身が模擬問題を見直し、解答の正誤を確認する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験	○	○	○	100%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	適宜、提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。</li> <li>・本科目は生理学・解剖生理学との関連が強いため、関連科目の知識を深めることが要求される。</li> <li>・2/3以上の出席がない学生は、単位を修得することが出来ない(欠格条件)</li> </ul>				
関連科目	解剖生理学				
関連資格	栄養士				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	臨床栄養学	本田佳子	中山書店		
	糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病協会	文光堂		978-4-8306-6046-7
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	病気がみえるシリーズ		MEDIC MEDIA		978-4-89632-324-5
オフィス アワー	全期：水曜3時限				
その他	真野研究室：F棟2階				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
121030	N-MED321J-01 I-	運動障害救急法（含実習）																					
科目名(英字)	Emergency Care for Sports injury																						
学科	スポーツ栄養学科、スポーツ情報システム学科、現代武道学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	橋本 実			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	医療現場での実務経験を有する																						
授業の概要	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害の知識と対処方法について解説する スポーツドクターの立場から固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用方法を解説し、実習もおこなう																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	スポーツ現場でおこる、外傷、障害にたいし正しい対処ができるようになる 固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDを適切におこなえるようになる																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する		情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツ現場で関わりうる、外傷、障害などの知識と対処方法を理解する																					
	情意的領域	スポーツ現場でおきた外傷、障害などに、きちんと対処しようと努力する																					
	技能表現的領域																						
授業計画（全体）	授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート（教科書）に書き込みながら理解を深める 授業の終わりに毎回小テストなどをおこない、知識を整理する																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の進め方などについて説明する	プリントを配布するので参考にすること	4時間
2.	外傷	外傷の分類、重症度などについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
3.	外傷の新しい治療	外傷の新しい治療について説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
4.	固定法	様々な方法による上肢の固定法について説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
5.	止血法	様々な方法による止血法について説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
6.	脳震盪	脳震盪の分類、重症度などについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
7.	頭部外傷	頭部外傷の分類、重症度などについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
8.	救急処置（実習）	包帯、三角巾の使用方法、RICE、傷の治療を実習する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
9.	前半の振り返りと試験	講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
10.	熱中症	熱中症の分類、重症度などについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
11.	熱中症	熱中症の対処方法、予防法などについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
12.	心肺蘇生法	心肺蘇生法について説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
13.	AEDを使った心肺蘇生法	AEDを使った心肺蘇生法について説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
14.	救急処置（実習）	AED、AED実習器具を使って実習する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
15.	後半の振り返りと試験	講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
16.	試験	講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	欠席する場合は必ず欠席届を提出すること。特に試験は無断欠席は認めないので注意すること。出欠はICTツールで毎回の小テストと学びの提出状況で確認する。試験結果は返却し、レポートは必要に応じて返却する。試験の際に持ち込みできるのは講義ノートのみなので、必ず購入すること。成績は相対評価と絶対評価で総合的に判定する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				95%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート	○			5%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートについては、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。				
関連科目					
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	運動障害救急法 講義ノート	橋本実	ポラーノ出版	2022	
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
オフィス アワー	教育企画課で確認して下さい				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
141080	I-SIM222J-01	映像基礎（演習）																					
科目名(英字)	Basic Editing Analysis for Imagry Intelligences																						
学科	スポーツ情報マスタイ学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数	2																	
担当教員	藤本 晋也			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	日本代表サポートチームや競技団体での情報戦略（映像）活動の実務経験を有する																						
授業の概要	ビデオカメラや映像編集機器といったIT関連機器の普及は、スポーツ活動現場においても顕著であり、コーチングやプロモーションなど、さまざまな場面で欠かせないものとなっている。この状況に伴い、撮影を専門的に行なうスタッフのニーズも高まってきている。本演習では、実務経験を活かしてスポーツ情報を効果的に伝えるために必要な「映像の基礎と撮影の観点や方法」について演習形式で授業を展開する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	基本的なスポーツ情報の種類やその特性を学ぶとともにスポーツ情報に対する現場のニーズを把握する。その上で状況に応じた適切なスポーツ情報を効果的に伝えることができるようになるために、映像の基礎と撮影の観点や方法を体系的かつ実践的に学ぶことで、現場のニーズに対応できる情報アプローチの観点とスキルを身につける。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツ現場における映像活用の現状を説明できる。映像が果たす役割やその特徴を説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>映像提供対象の視点に立ち、その対象に対してどのような効果が出れば成功かを考えられる。映像を用いた情報を効果的に伝えることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>映像撮影の観点や編集に必要な基礎的スキルを身につける。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツ現場における映像活用の現状を説明できる。映像が果たす役割やその特徴を説明することができる。		情意的領域	映像提供対象の視点に立ち、その対象に対してどのような効果が出れば成功かを考えられる。映像を用いた情報を効果的に伝えることができる。		技能表現的領域	映像撮影の観点や編集に必要な基礎的スキルを身につける。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツ現場における映像活用の現状を説明できる。映像が果たす役割やその特徴を説明することができる。																					
	情意的領域	映像提供対象の視点に立ち、その対象に対してどのような効果が出れば成功かを考えられる。映像を用いた情報を効果的に伝えることができる。																					
	技能表現的領域	映像撮影の観点や編集に必要な基礎的スキルを身につける。																					
授業計画（全体）	日本代表チームやナショナルチームでの情報戦略活動などトップスポーツ現場による実務経験を活かし、情報を効果的に伝える観点から講義（演習）を行う。各授業は資料および視聴覚教材を用いた講義を行なう。またスポーツ活動現場のニーズを踏まえた実践的な方法論を学ぶため、各競技団体/チームの事例や現場を活用し、グループワークや実習も行なう。学生は各授業毎に、授業の理解度及び達成度を明らかにするためのフィードバックを小レポート形式で提出する。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法	シラバスを熟読すること	4時間
2.	スポーツにおける映像の果たす役割	スポーツ現場で求められる「映像」とはなにか。なぜそれが求められているのかを考える。	授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
3.	映像の基礎	映像の種類と特性について学ぶ。	授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
4.	映像の基礎	映像素材収集（撮影）の観点と方法について学ぶ。	授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
5.	映像の基礎	映像撮影機器種類と特性について学ぶ	授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
6.	映像の基礎	映像分析・編集機器の種類と特性について学ぶ。	授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
7.	映像の基礎	映像素材の管理と利活用について学ぶ。	授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
8.	映像活用の実例 <競技現場編>	コーチングにおける映像の果たす役割と実例	授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
9.	映像活用の実例 <競技現場編>	ミーティング場面における映像の果たす役割と実例	授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
10.	映像活用の実例 <競技現場編>	情報戦略活動における映像の果たす役割と実例	授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
11.	映像活用の実例 <組織活動編>	JOC、JISS会議における映像の果たす役割と実例	授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
12.	映像活用の実例 <組織活動編>	組織的情報後方支援活動における映像の果たす役割と実例	授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
13.	グループ演習 <収集・分析>	グループ毎にテーマと対象を決定し、関連映像の収集と分析を行なう。	課題の撮影・編集と授出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
14.	グループ演習 <編集>	収集・分析した映像を編集する。	課題の編集作業と授業時に連絡する出題課題について調べ、レポートをまとめる	4時間
15.	グループ演習 <アウトプット>	編集した映像について指定する観点に基づきドキュメンテーション（文書化）するとともに、その内容をプレゼンテーションする。	最終課題映像についてのプレゼンテーションの準備をする	4時間
16.	まとめ・振り返り	最終課題の映像とコンセプトシート等を基に振り返りを実施しまとめを行う。	最終課題の製作物を完成させ、コンセプトシートをまとめる	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	評価は、授業時間中および時間外に求められるレポートや提出物に関する評価、1) レポート(50%)、2) 最終ドキュメンテーション(30%)、で行なう。さらに実際に行われた活動に対する評価、3) プレゼンテーション(20%)を行う。出席は、評価割合に加え欠格条件となる。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート				30%
	授業外レポート				30%
	演習・実技				20%
	授業態度				20%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	授業毎及び最終課題等、適宜教員より出題し、科目GCRにてレポートの提出を行い、返却もGCRで行います。その際、個々にコメントする場合と、授業内で全体に解説する場合。また、相互理解のためディスカッション等を行いながら返却する。 レポートは感想文ではなく出題されたテーマに関しての“知識”や“理解度”を示すもので、文書は「である」調を使う。まずは、テーマについて徹底的に調べ、しっかり考えること。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。</li> <li>・各受講クラスの担当教員の指示に従い、レポート、ポートフォリオ成果の課題を確実にクリアすること。</li> <li>・授業計画は、授業の進度により多少前後することがあります。</li> <li>・授業内レポート提出等でメールを使用するので添付ファイルが送受信可能なメールアドレス(学内アドレス及びプライベートアドレス)を用意すること。</li> </ul>				
関連科目	映像実践論、スポーツ情報戦略論実習、スポーツ情報戦略論実習				
関連資格	該当なし				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	授業内で紹介、または参考資料を配布				
オフィス アワー	藤本研究室 F棟2階 月10:20~11:50				
その他	対面不可の場合、本学のコロナウイルスガイドラインに準拠し感染拡大防止策を講じ原則オンラインで実施。				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
152090	M-CSS321J-04	応用武道護衛																					
科目名(英字)	Guard of applied martial arts																						
学科	現代武道学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	荒木 貞義 / 岩淵 孝二			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	皇宮護衛官、警察官の実務経験を有する。																						
授業の概要	皇宮護衛官、警察官の実務経験を活かし、天皇、皇族及び総理大臣等の要人の身辺護衛について、その歴史的背景や過去の事例、根拠、限界等について概説するほか、身辺護衛に必要な運動能力と術技等を体験させ、武道の応用展開がもたらす意義と効果、さらに、公共の安全と秩序の維持に従事する警察等の意義と重要性について解説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	皇宮護衛官、警察官が、身辺護衛の対象を守り、公共の安全と秩序を維持するために必要とされる知識と運動能力及び術技等を、段階をおって理解し修得する。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>身辺護衛の意義、目的、法的根拠、重要性及び必要な運動能力と術技を理解し、解説できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>武道が身辺護衛の術技に応用され、公共の安全と秩序の維持の礎になっていることを理解し、説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>身辺護衛に従事する警察官等に必要とされる術技を理解し、基本的な技の施術ができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	身辺護衛の意義、目的、法的根拠、重要性及び必要な運動能力と術技を理解し、解説できる。		情意的領域	武道が身辺護衛の術技に応用され、公共の安全と秩序の維持の礎になっていることを理解し、説明できる。		技能表現的領域	身辺護衛に従事する警察官等に必要とされる術技を理解し、基本的な技の施術ができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	身辺護衛の意義、目的、法的根拠、重要性及び必要な運動能力と術技を理解し、解説できる。																					
	情意的領域	武道が身辺護衛の術技に応用され、公共の安全と秩序の維持の礎になっていることを理解し、説明できる。																					
	技能表現的領域	身辺護衛に従事する警察官等に必要とされる術技を理解し、基本的な技の施術ができる。																					
授業計画(全体)	配布資料を中心とする講義、並びに実技授業として、「ごえい術」「逮捕術」等の術技の体験と、反復練習及び実践形式での実技実習を中心に授業を進める。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の目的及び概要の解説、授業の進め方と評価方法について解説する。	シラバスを熟読すること。	4時間
2.	護衛の意義目的と歴史及び対象	警察業務の警衛及び警護の意義目的と歴史及び法的根拠を解説するとともに、警察の組織機構と警護対象との比較を概説する。	護衛について調べておく。	4時間
3.	護衛に関わる過去の事例研究と皇室行事	警衛及び警護における歴史的に著名な事件を列挙、問題点等を解説するとともに、皇室行事の事例等について概説する。	配布資料を復習する。	4時間
4.	一般社会における防護活動の手法と限界・効果測定の実施	一般社会における身辺の安全・安心確保の対応手法と事例検討及び法的根拠、限界を概説する。講義内容に関する効果測定を行う。	一般社会における防護活動について調べておく。	4時間
5.	護衛に必要な術技の解説	皇宮護衛官、警察官が警衛・警護等に従事する場合に必要な術技と鍛錬方法を解説して、その要領を体験、習得する。	身辺護衛について調べておく。	4時間
6.	警衛・警護に必要な運動能力と体力の強化	皇宮護衛官、警察官が警衛・警護に従事するために必要とされる基礎体力と運動能力等を体験して、その概念と必要性及び鍛錬方法を習得する。	事前トレーニングをしておく。	4時間
7.	警衛・警護時の制圧・逮捕要領の体験と実践	暴漢等の制圧逮捕に必要な術技能力を解説し、警衛・警護における防護技の要領を体験、習得する。	授業内容を復習する。	4時間
8.	ごえい術	要人に接近しようとする者の制止・排除の術技を解説して、前方から接近する者への排除要領等を体験、習得する。	授業内容を復習する。	4時間
9.	ごえい術	要人へ接近しようとする者の制止・排除の術技を解説して、背後から接近する者への排除要領等を体験、習得する。	授業内容を復習する。	4時間
10.	ごえい術	要人へ駆け足で接近する等、緊急性の高い場合の制止・排除の術技を解説して、「タックル」等の要領を体験、習得する。	授業内容を復習する。	4時間
11.	ごえい術	要人に凶器を所持し、危害目的で接近する者の制止・排除の術技を解説して、「タックル」、「突き倒し」等の要領を体験、習得する。	授業内容を復習する。	4時間
12.	護衛実戦実技演習	要人が徒歩移動中における送迎者列からの接近、襲撃に対する位置取り、及び単独・複数による防禦体制を体験、習得する。	授業内容を復習する。	4時間
13.	護衛実戦実技演習	要人の車両移動及び乗降時における接近、襲撃等に対する防禦体制を体験、習得する。	授業内容を復習する。	4時間
14.	護衛実戦実技演習	想定による要人防禦計画の策定と実践方法を体験、習得する。	授業内容を復習する。	4時間
15.	総合訓練	術技の総合訓練を行い、習得状況を総括講評する。	配布資料を総括し、実技を復習する。	4時間
16.	試験	授業で体験、習得した各術技をベースに実技試験を行う。	試験出題術の確認と復習をする。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	講義内容の効果測定・実技試験及び術技の習熟度、授業態度で総合評価する。ただし、出席回数2/3以下の場合は、成績評価対象外とする。定期試験の原本は返却しないが、授業内で解説、質疑応答を行う。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験	○	○	○	30%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				50%
	授業態度		○	○	20%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポート実施する場合は、授業内で指示をします。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技授業は、相対動作が多いことから、柔道着を着用し、時計等の貴金属類を外すこと。</li> <li>・実技授業中の不注意による受傷事故防止と実技技能向上に伴う乱用、授業外での悪用の防止を徹底すること。</li> </ul>				
関連科目	応用武道実技				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	安全安心の礎	伊藤重孝	仙台大学出版		
オフィス アワー	水曜日10:20~11:50				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
511020	S-ESN221J-01	スポーツ栄養学																					
科目名(英字)	Sport Nutrition																						
学科	体育学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	真野 芳彦 / 平良 拓也			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	アスリートへのスポーツ栄養活動の実務経験有																						
授業の概要	運動と栄養について基礎的な理論の解説、および競技力向上や健康の保持増進のためのトレーニング(運動)・栄養(食事)・休養の組み合わせ方と食べ方について講義する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	競技力向上や健康の保持増進のためのトレーニング(運動)・栄養(食事)・休養の組み合わせ方やその食べ方について理解できる。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツ・運動と栄養についての係りに関する知識を習得することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>「運動・栄養・休養」を基本とした競技力向上や健康増進のプログラムの運営に役立つこと意識して取り組むことができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツ・運動と栄養についての係りに関する知識を習得することができる。		情意的領域	「運動・栄養・休養」を基本とした競技力向上や健康増進のプログラムの運営に役立つこと意識して取り組むことができる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツ・運動と栄養についての係りに関する知識を習得することができる。																					
	情意的領域	「運動・栄養・休養」を基本とした競技力向上や健康増進のプログラムの運営に役立つこと意識して取り組むことができる。																					
	技能表現的領域																						
授業計画(全体)	<p>教員が用意する関連情報や知見を基にPower Pointを用いて授業を進め、必要に応じて資料を配布する。毎回の授業は、原則として授業課題についての基礎知識、応用知識、実践(演習)の形式で進める。また、導入時に授業課題にとらわれず、将来の栄養等の指導に役立つように、スポーツ、健康、食事・栄養に関係する最近の話題をニュース等からピックアップして紹介することがある。</p>																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション、スポーツと栄養について	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明、スポーツ・運動時の栄養学とは何かを理解する。（真野・平良）	シラバスを熟読しておくこと	4時間
2.	トレーニングにおける栄養素の役割（トレーニングと糖質）	スポーツ・運動時の糖代謝について理解する。（平良）	書き写したノートを復習しておくこと。	4時間
3.	トレーニングにおける栄養素の役割（トレーニングと脂質）	スポーツ・運動時の脂質代謝について理解する。（平良）	書き写したノートを復習しておくこと。	4時間
4.	トレーニングにおける栄養素の役割（トレーニングとタンパク質）	スポーツ・運動時のタンパク質代謝について理解する。（平良）	書き写したノートを復習しておくこと。	4時間
5.	トレーニングにおける栄養素の役割（トレーニングとビタミン・ミネラル）	スポーツ・運動時のビタミン・ミネラル代謝について理解する。（平良）	書き写したノートを復習しておくこと。	4時間
6.	基礎体力を高める食事	基礎体力を高めるために必要な食事量を理解する。（平良）	書き写したノートを復習しておくこと。	4時間
7.	基礎体力を高める食事	基礎体力を高めるために必要な栄養バランスについて理解する。（平良）	書き写したノートを復習しておくこと。	4時間
8.	中間テスト	授業の理解度・到達度を確認するために中間テストを行う（平良）	テストに備えて復習をすること	4時間
9.	スポーツ選手の栄養管理の実践	運動中のエネルギー基質を理解する。（真野）	模擬問題を復習すること	4時間
10.	スポーツ選手の栄養管理の実践	糖質の特徴と利用方法（真野）	模擬問題を復習すること	4時間
11.	スポーツ選手の栄養管理の実践	アスリートへの糖質制限食の応用（真野）	授業内で紹介した引用文献を調べる。	4時間
12.	スポーツ選手の栄養管理の実践	持久力向上と糖代謝の関係、エイコサペンタエン酸の生理作用（真野）	授業内で紹介した引用文献を調べる。	4時間
13.	スポーツ選手の栄養管理の実践	脂質の利用方法とたんぱく質の至適摂取量、至適吸収量、摂取バランスについて考える（真野）	授業内で紹介した引用文献を調べる。	4時間
14.	スポーツ選手の栄養管理の実践	酸化ストレスとコンディショニング（真野）	模擬問題を復習すること	4時間
15.	まとめ（スポーツと栄養について）	免疫と栄養（真野）	模擬問題を復習すること	4時間
16.	テスト	授業の理解度・到達度を確認するために期末テストを行う（真野）	テストに備えて模擬問題など復習をすること	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験については(授業内で)解説をしながら返却する。</li> <li>・試験の正解は学生自身が模擬問題と授業内容を見直して確認する。</li> </ul>				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				100%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度		○		減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜、提出されたレポートはコメントを付したうえで返却する。</li> </ul>				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学則に示された出席数に満たない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。</li> <li>・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。</li> <li>・授業進行の妨げとなるので、遅刻は厳禁とする。</li> <li>・原則として運動生理学、運動生化学は履修済みのこと。</li> </ul>				
関連科目	健康と栄養・食事、運動生理学、運動生化学				
関連資格	レクリエーション・コーディネーター、健康運動指導士、健康運動実践指導者、トレーナー資格関係				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	適宜資料配布				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	なし				
オフィス アワー	真野：全期水3コマ、平良：金2コマ				
その他	真野研究室：F棟2階、平良研究室：D棟1階				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
134200	I-SIM211J-03	文章基礎（演習）																					
科目名(英字)	Basic Writing Skills																						
学科	ｽﾎｰﾂ情報ｽﾏﾙﾄﾞｲ学科			学年	1年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数	2																	
担当教員	日下 三男 / 佐藤 修 / 安藤 歩美			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	新聞社、放送局で実務経験を有する																						
授業の概要	メディアでの実務経験を生かして、記事の書き方を含め文章作成の基礎能力養成を中心に指導する。異なる媒体や文体によって情報がどのように伝えられているのか、またその違いを説明し、文章作成の基礎練習を繰り返し伝授する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	記事作成の基本原則である5W1Hと逆三角形の書き方をしっかりと身に着ける。各授業のテーマごとに記事の作成練習をし、やがては論文執筆にも通じる「取材」「調査」の必要性を感じ取る。「書く」だけでなく、裏表の関係にある「読む」にも力点を置いて学ぶ。主に新聞が教材となる。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>記事の書き方の基本、ほかの文体との違いを理解できるようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>客観性、中立性など取材と記事作成の原則を理解できるようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>簡潔な文章と記事が書けるようになる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	記事の書き方の基本、ほかの文体との違いを理解できるようになる。		情意的領域	客観性、中立性など取材と記事作成の原則を理解できるようになる。		技能表現的領域	簡潔な文章と記事が書けるようになる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	記事の書き方の基本、ほかの文体との違いを理解できるようになる。																					
	情意的領域	客観性、中立性など取材と記事作成の原則を理解できるようになる。																					
	技能表現的領域	簡潔な文章と記事が書けるようになる。																					
授業計画（全体）	新聞、雑誌、フォトジャーナルなどを用いて講義を行う。特に新聞のコラム、社説、一般記事を使って授業の毎回課題を提出させる。教室外での取材も体験する。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の進め方、レポート提出や成績評価の仕方を説明する。	新聞を読む。習慣づけるために1面ヘッドラインニュースを毎日手書きする。	4時間
2.	記事の基本技法	5W1Hの意味と重要性を説明し、記事を実際に書きながら難しさを知る。	新聞1面のヘッドラインニュース手書き。「あなたの一押し記事」	4時間
3.	記事作成の技法	自分を第3人称で紹介する短文を作成する。自分の性格や特徴、10年後の姿などをどう伝えればよいかを客観視し考える。Who am I?	ヘッドラインニュース手書き。人物紹介の書き方復習。「河北春秋」手書き。	4時間
4.	記事作成の技法	前回作成した文章を見直し、再度作成の練習を行い、発表する。	ヘッドラインニュース手書き。社説の縮約・要約。	4時間
5.	縮約と要約	新聞の社説を題材に縮約と要約を試みる。文章の簡潔性とは何かを学び取る。	ヘッドラインニュース手書き。写真撮影の技法を復習。河北春秋の見出し付け。	4時間
6.	写真を撮る	写真は文章100行に匹敵する。写真で自分の意図をどう表現できるか。「職業」をテーマに写真5枚を撮影。それぞれタイトルを付ける。	ヘッドラインニュース手書き。「イチ押し記事」作成。	4時間
7.	写真をストーリー化	課題のイチ押し記事発表。撮ってきた写真の中から複数枚を選び、ストーリー仕立てで編集する。	ヘッドラインニュース手書き。写真撮影などを復習する。社説の縮約・要約。	4時間
8.	インタビューと執筆	課題の社説縮約・要約を解説。取材で人物を深く掘り下げる。テーマは「家族」。	ヘッドラインニュース手書き。インタビュー取材。	4時間
9.	インタビューと執筆	人物を文章と写真で浮き彫りにする。	ヘッドラインニュース手書き。プレゼンテーションの準備をする。	4時間
10.	インタビューと執筆	「私の家族」発表と合評。	ヘッドラインニュース手書き。インタビュー取材の手法を復習。	4時間
11.	インタビューと執筆	前週に続き「私の家族」発表と合評。	ヘッドラインニュース手書き。「あなたが大切にする方言」	4時間
12.	方言	「あなたが大切にする方言」を発表・合評。	ヘッドラインニュース手書き。「あなたの地域の課題」を考える。	4時間
13.	記事（期末レポート作成）	「あなたの地域の課題」をテーマに記事作成。	ヘッドラインニュース手書き。	4時間
14.	記事（期末レポート作成）	「あなたの地域の課題」に取り組む。	ヘッドラインニュース手書き。プレゼンテーションの準備をする。	4時間
15.	課題提出	プレゼンテーションと講評。	ヘッドラインニュース手書き。ノート提出。	4時間
16.	予備	予備。		4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	授業内レポート(50%)、授業外レポート(50%)。第11回の授業までは毎回、新聞コラムの筆写と要約か、自分が選んだ新聞の一押し記事についての課題提出があり、いずれも提出の翌週に評価コメントを付記して返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート	○	○	○	25%
	授業外レポート	○	○	○	50%
	演習・実技	○	○	○	25%
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	節目の授業で発表してもらい、講評する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・毎回の配布資料を持参し、ノートをとること。				
関連科目	メディア系全科目				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	日本語練習帳	大野晋	岩波書店	1999	
	日本語教室	井上ひさし	新潮社	2011	
	記者ハンドブック第13版	共同通信社	共同通信社	2016	
	朝日新聞記者の200字文章術	真田正明	さくら舎	2021	
	文章の書き方	辰野和男	岩波書店	1994	
オフィス アワー	日下(5体3F) = 水曜10:20~11:50				
その他	新聞の一般紙を中心に、関連資料を配布する。				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
532100	E-0UE432J-01	子どもの食と栄養																					
科目名(英字)																							
学科	子ども運動教育学科			学年	3年																		
学期	後期	授業形態	演習		単位数																		
				2																			
担当教員	長橋 雅人 / 久保 佳子			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	保育所現場等での栄養士実務経験を有する																						
授業の概要	乳幼児期の子どもの成長、発達に適した栄養について学修する。児童福祉施設における食育の目的と方法や食物アレルギーなど特別な配慮が必要な子どもの対応等について学ぶ。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の食事の役割と意義について理解する。</li> <li>・子どもの状態に適した栄養上の対応を考えることができる。</li> <li>・健やかな子どもの成長を考え食育を計画することができる。</li> </ul>																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>成長過程や状態に適した栄養について考えることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>子ども健やかな成長に寄与する気持ちを持つことができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>教育媒体を用いて食育を計画実施できるようになる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	成長過程や状態に適した栄養について考えることができる。		情意的領域	子ども健やかな成長に寄与する気持ちを持つことができる。		技能表現的領域	教育媒体を用いて食育を計画実施できるようになる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	成長過程や状態に適した栄養について考えることができる。																					
	情意的領域	子ども健やかな成長に寄与する気持ちを持つことができる。																					
	技能表現的領域	教育媒体を用いて食育を計画実施できるようになる。																					
授業計画(全体)	教科書および各種ガイドラインの資料を用いて子どもの栄養について説明し、成長段階や環境、個性に適した食事や食育について学ぶ。調乳操作や食育の計画、媒体の制作を行う。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法、受講するにあたっての注意事項等	シラバスを読んでおくこと	4時間
2.	子ども健康と食生活の意義	子どもの心身の健康と食生活、子どもの食生活の現状と課題について	教科書「子どもの食生活と栄養」について読んでおくこと	4時間
3.	栄養に関する基本的知識	栄養の基本的概念、栄養素の種類と機能について	教科書「栄養に関する基礎知識」について読んでおくこと	4時間
4.	栄養に関する基本的知識	食事摂取基準の概要と献立作成の考え方、調理の基本について	授業の内容を復習しておくこと	4時間
5.	子どもの発育・発達と食生活	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について	教科書「乳児期の食生活」について読んでおくこと	4時間
6.	子どもの発育・発達と食生活	幼児期、学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食形成について	教科書「幼児期の食生活」について読んでおくこと	4時間
7.	食育の基本と内容	食育における養護と教育の一体性、地域関係機関や職員間の連携、食生活指導及び食を通じた保護者への支援について	教科書「食育」について読んでおくこと	4時間
8.	食育の計画	食育の推進施策（主な制度、目標と現状、具体的な取り組み）について	授業の内容を復習しておくこと	4時間
9.	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	家庭における食事と栄養、児童福祉施設における食事と栄養について	教科書「家庭や児童福祉施設における食生活」について読んでおくこと	4時間
10.	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病または体調不良の子ども、障がいのある子ども、食物アレルギーをもつ子どもへの対応、宗教食について	教科書「特別な配慮を要する子どもの食と栄養」について読んでおくこと	4時間
11.	食育の計画	食育の計画、媒体の作成	課題に取り組むこと	4時間
12.	食育の計画	食育の計画、媒体の作成	課題に取り組むこと	4時間
13.	食育の実施と評価	制作した食育媒体の発表と評価	課題に取り組むこと	4時間
14.	食育の実施と評価	制作した食育媒体の発表と評価	課題に取り組むこと	4時間
15.	試験	授業の理解度、達成度を確かめるために期末テストを実施する	授業の内容を復習しておくこと	4時間
16.	食育の実施と評価（まとめ）	全体をふりかえる		4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト(評価割合30%)、授業外課題(評価割合30%)、授業態度(20%)、授業内課題(20%)を総合的に評価する。</li> <li>・欠席、遅刻(やむを得ない理由を除く)は、授業態度に含まれ、注意しても改善が見られない場合は減点となる。</li> <li>・出席回数が2/3以下の場合は成績評価対象外とする。</li> </ul>				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				30%
	授業内レポート	○			20%
	授業外レポート	○		○	30%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				20%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験については(授業内で)解説をしながら返却する。</li> </ul>				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20分以上の遅刻は欠席となる。</li> <li>・欠席届は、事前に担当教員に提出こと(根拠書類の添付を求める)。</li> <li>・授業計画は、多少前後することがある(その場合は、事前に説明する)。</li> <li>・授業の連絡、課題や資料の提示等はGoogleクラスルーム(GCR)を通して行う。原則、対面授業であるが場合によってはオンラインで行う可能性もある。GCRからの指示をよく確認すること。</li> <li>・授業内の課題は、指定された期日までに提出すること(提出遅れは減点)。</li> </ul>				
関連科目					
関連資格	保育士				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	子どもの食生活 第5版	上田玲子	ななみ書房	2021	978-4-903355-87-0
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	子どもの食と栄養演習 第5版	小川雄二	ななみ書房	2010	978-4-7679-5128-7
オフィス アワー	長橋：木曜1限(D棟2階) <ms-nagahashi@sendai-u.ac.jp> 久保：木曜3限(A棟5階) <ys-kubo@sendai-u.ac.jp>				
その他	オリエンテーションでは履修上の注意事項等重要な説明を行います。必ず出席すること。				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
543110	E-FTE011J-01	教職論 C																					
科目名(英字)	Introduction C to Teaching Profession																						
学科	子ども運動教育学科			学年	1年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	柴田 千賀子 / 原田 健次			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	幼稚園での教員経験を有する																						
授業の概要	<p>本授業は、保育者・幼稚園教諭に求められる役割、資質、使命について理解を深める学習を展開する。前半は、保育者・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割や倫理について認識を深める。後半は、保育者・幼稚園教諭としての基本的な資質、責任、知識、技能、考え方等を具体的に学ぶ。</p>																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<p>本科目のねらいは、教職とはどんな仕事か、その基本的な性格や社会的使命などについて実践活動を通して理解を深めることである。また、ディスカッションなどを通して教職に関する理解を深め、教職への意欲を明確なものにする。</p>																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質などについて理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>教職への希望を実現するための様々な学修に意欲的に取り組む。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質などについて理解する。		情意的領域	教職への希望を実現するための様々な学修に意欲的に取り組む。		技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	教職に関する制度、服務規程、関係法規、教員の資質などについて理解する。																					
	情意的領域	教職への希望を実現するための様々な学修に意欲的に取り組む。																					
	技能表現的領域	自己の理想の教師像を実現するための学習の方法を身につける。																					
授業計画(全体)	<p>教職に就くために基盤となる教職の全体像、教職にかかる様々な制度を学び、保育者としての資質などについて各担当者が講義する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。</p>																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション（柴田）	幼稚園教育・保育とは何か、教職を目指す動機を問うことを中心にオリエンテーションを進める。	テーマについて、自身の考えをまとめておくこと	4時間
2.	幼稚園教諭・保育士になるまでのステップ（柴田）	幼稚園教諭・保育士になるまでのステップを具体的に解説する。	テーマについて、自身の考えをまとめておくこと	4時間
3.	幼稚園教諭・保育士採用試験の実際（柴田）	幼稚園教諭・保育士採用試験の実際について解説する。	テーマについて、自身の考えをまとめておくこと	4時間
4.	保育者の職務の実際（柴田）	幼稚園教諭の勤務時間、休憩と休息、休日と休暇等について具体的に解説する。	授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
5.	サービスと身分保障（職務命令の要件と違反、分限と懲戒等）（柴田）	教職における職務命令の要件と違反、分限と懲戒等について解説する。	授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
6.	保育者の仕事の内容と実際（柴田）	教職の仕事の内容と実際について具体的に解説する。	授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
7.	幼稚園教諭・保育士の職務と役割・教える者としての資質（柴田）	幼稚園教諭・保育士の職務と役割について理解を深める。	授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
8.	自身の保育観を振り返る（柴田）	自分の理想の保育者像を探求し、具体的にどのようにすればそうなるか考え意見を交換する。	授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
9.	教師に求められるもの・好奇心や想像力、表現力（原田）	自分の本当の夢を語り、どのようにすればそれを達成できるかについて具現化する方法を探求する。	授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
10.	求められる理想の教師像（原田）	求められる教師像について探求し、伝記から読み解き自分にあてはめる活動を考える。	授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
11.	教員の教育力と研究力：事例・実践研究（原田）	教育力と研究力について自ら調べ紹介する。	授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
12.	教育力の実践と評価（原田）	教育の実践を評価する方法を検討し、実際に自らを評価してみる。	授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
13.	探求力の実践と評価（原田）	探求力をつけるために必要な事を考えて、その事を評価する手段を検討する。	授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
14.	指導案の立案（原田）	指導案立案の際の重要性和ポイントについて学ぶ。	授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
15.	まとめ（原田）	これまでの学修のまとめと評価をする。	授業のテーマについてテキストや参考文献にて事前学習する	4時間
16.				4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	授業内外のレポートをもとに成績評価を実施する。提出されたレポートは、教職についてディスカッションしながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート				40%
	授業外レポート	○	○	○	40%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度		○	○	20%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートの実施に関しては、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・教育者を目指すものとして、常に課題意識を持ち、自発的に受講することを望む。				
関連科目					
関連資格	幼稚園教諭一種免許状、保育士資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	子どもと共に育ちあうエピソード保育者論	井上孝之ほか	みらい	2016	
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
オフィス アワー	火曜日 11:50~12:40(柴田)				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
545070	H-CAW321J-01	介護過程																					
科目名(英字)	The process of Nursing care																						
学科	健康福祉学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	演習		単位数																		
				単位数	2																		
担当教員	後藤 満枝			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	介護福祉士としての実務経験、看護師としての医療現場等での実務経験を有する																						
授業の概要	介護福祉士としての実務経験を活かし、介護の実践現場に求められる介護福祉士養成の観点から演習を運営する。この授業では、介護過程の意義・目的・目標について解説するとともに、実際の事例に基づいた介護計画の立案、実施、評価について演習を行う。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	他科目で学習した知識や技術を統合して、ICFの視点に基づいた介護過程を展開し、介護計画を立案することができる。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>ICFの視点に基づいた介護過程の意義・目的・目標が理解できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>利用者の視点に立って介護過程を展開できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>事例に基づき、介護過程の展開ができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	ICFの視点に基づいた介護過程の意義・目的・目標が理解できる。		情意的領域	利用者の視点に立って介護過程を展開できる。		技能表現的領域	事例に基づき、介護過程の展開ができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	ICFの視点に基づいた介護過程の意義・目的・目標が理解できる。																					
	情意的領域	利用者の視点に立って介護過程を展開できる。																					
	技能表現的領域	事例に基づき、介護過程の展開ができる。																					
授業計画（全体）	ICFの視点に基づいた介護過程とは何か、どんな目的があるのかについて解説した後、事例を用いて、利用者の情報収集、アセスメント、介護計画の立案と評価について演習を行う。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	介護過程の意義・目的・目標について	ICFの視点に基づいた介護過程とは何かについて解説する。	ICFについて教科書を熟読しておくこと。	4時間
2.	情報収集の方法	ICFの視点に基づいた情報収集の意義と方法について解説する。	情報収集の方法について教科書を読んでおくこと。	4時間
3.	情報収集 1	事例における情報収集の方法について解説する。	情報収集の方法について教科書を読んでおくこと。	4時間
4.	情報収集 2	事例における情報収集の方法について解説する。	情報収集の方法について教科書を読んでおくこと。	4時間
5.	アセスメントとは何か アセスメントの方法 1	ICFの視点に基づいたアセスメントの意義と方法について解説する。	アセスメントの方法について教科書を読んでおくこと。	4時間
6.	アセスメントの方法 2	事例におけるアセスメントの方法と実際について解説する。	アセスメントの方法について教科書を読んでおくこと。	4時間
7.	アセスメントの方法 3	事例におけるアセスメントの方法と実際について解説する。	アセスメントの方法について教科書を読んでおくこと。	4時間
8.	介護計画立案の方法について	事例におけるアセスメントの方法と実際について解説する。	アセスメントの方法について教科書を読んでおくこと。	4時間
9.	介護計画の立案 1	ICFの視点に基づいた介護計画の立案の方法について解説する。	介護計画の立案について教科書を読んでおくこと。	4時間
10.	介護計画の立案 2	ICFの視点に基づいた介護計画の立案の方法について解説する。	介護計画の立案について教科書を読んでおくこと。	4時間
11.	介護計画の立案 3	ICFの視点に基づいた介護計画の立案の方法について解説する。	介護計画の立案について教科書を読んでおくこと。	4時間
12.	実施と評価	介護計画の実施と評価方法について解説する。	介護計画の実施と評価について教科書を読んでおくこと。	4時間
13.	介護計画の実施 1	介護計画における実施の方法をロールプレイングを通して学習する。	記録と報告について教科書を読んでおくこと。	4時間
14.	介護計画の実施 2	介護計画における実施の方法をロールプレイングを通して学習する。	介護計画の評価方法について教科書を読んでおくこと。	4時間
15.	介護計画の評価	介護計画の評価方法について解説し、実際に介護計画の評価を行う。	介護計画の評価方法について教科書を読んでおくこと。	4時間
16.	授業のまとめ	今までの授業のまとめを行う。	実際に自分が立案した介護計画をよく読んでおくこと。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	筆記試験と授業内レポートの結果に基づき、総合的に評価する。ただし、授業出席の3分の2以上が前提となる。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				70%
	授業内レポート				30%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				加点・減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートについては授業内で解説しながらフィードバックする。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・介護過程の授業は、毎回の授業の積み重ねが基本となるため、できるだけ、欠席のないように授業に出席すること。				
関連科目	介護過程、介護過程、介護実習、介護実習				
関連資格	介護福祉士国家試験受験資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規		
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
オフィス アワー	木曜日 14:20～15:50				
その他	後藤研究室：F棟2階202				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名			
131050	S-TRM321J-01 M-	スポーツトレーナー概論			
科目名(英字)	Introduction to Sports Trainer				
学科	体育学科、現代武道学科、子ども運動教育学科			学年	2年
学期	前期	授業形態	講義	単位数	2
担当教員	小勝 健司 / 竹村 英和 / 山口 貴久			開講の別	オムニバス開講
実務経験の有無	身体能力測定およびアスレティックトレーナー現場での実務経験を有する。				
授業の概要	スポーツトレーナーにとって最も基礎的な内容について、実務経験を活かして具体的な内容を交え講義する。				
DPとの関連性	I	II	III	IV	V
アクティブ・ラーニングについて	課題解決型学習(PBL)		反転学修	ディスカッション	
	ディベート		グループワーク	プレゼンテーション	
	実習		フィールドワーク		
授業の一般目標	スポーツトレーナーに必要な「トレーニング・栄養・休養」を基本とした運動プログラムの立案、分析、評価やスポーツ傷害の予防、受傷後のケアと管理法について研究するための専門的基礎を身につける。				
授業の到達目標	対象	領域	内容		
		認知的領域	スポーツトレーナーの各種活動について説明できる。身体能力測定の目的と方法について説明できる。スポーツを科学的視点から捉えることができる。		
		情意的領域			
		技能表現的領域			
授業計画(全体)	授業テーマに沿った内容について資料を用いて解説する。授業では主に基本的な理論と実践を取りあげて行う。				

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の説明	シラバスを熟読しておくこと	4時間
2.	運動と健康・体力増進の関係（竹村）	運動が健康・体力増進に及ぼす影響について説明する。また、パーソナルトレーナーなどの関連資格との関係を併せて説明する	運動と健康・体力増進の関係について資料を基に要約する	4時間
3.	運動プログラムを作成する際の留意点（竹村）	目的に応じた運動プログラムを作成するための留意点等について説明する	運動プログラム作成の留意点について資料を基に要約する	4時間
4.	運動・栄養・休養とコンディショニング（竹村）	超回復とコンディショニングの関係について説明する	運動・栄養・休養とコンディショニングについて要約する	4時間
5.	持久力とスポーツパフォーマンス（竹村）	持久力がスポーツパフォーマンスに及ぼす影響について説明する	持久力とスポーツパフォーマンスについて資料を基に要約する	4時間
6.	筋力・筋パワーとスポーツパフォーマンス（竹村）	筋力・筋パワーがスポーツパフォーマンスにおよぼす影響について説明する	筋力・筋パワーとスポーツパフォーマンスについて資料を基に要約する	4時間
7.	調整力・柔軟性とスポーツパフォーマンス（竹村）	調整力（敏捷性・巧緻性・平衡性）や柔軟性がスポーツパフォーマンスにおよぼす影響について説明する	調整力、柔軟性とスポーツパフォーマンスについて資料を基に要約する	4時間
8.	発育・発達・老化とスポーツパフォーマンス（竹村）	発育・発達・老化がスポーツパフォーマンスにおよぼす影響について説明する	発育・発達・老化とスポーツパフォーマンスについて資料を基に要約する	4時間
9.	アスレティックトレーナー（以下AT）とは（小勝）	ATの役割、歴史的背景、活動と資質、および必要な専門領域について解説する	ATの役割について授業資料を基にまとめること	4時間
10.	検査・測定と評価（小勝）	ATの主要業務のひとつである検査・測定と評価について解説する	検査・測定と評価について授業資料を基にまとめること	4時間
11.	スポーツ傷害の予防（小勝）	ATの主要業務のひとつであるスポーツ傷害の予防について解説する	スポーツ傷害の予防について授業資料を基にまとめること	4時間
12.	スポーツ現場における応急処置（山口）	ATの主要業務のひとつであるスポーツ現場での応急処置について解説する	スポーツ現場の応急処置について授業資料を基にまとめること	4時間
13.	アスレティックリハビリテーション（小勝）	ATの主要業務のひとつであるアスレティックリハビリテーションについて解説する	アスレティックリハビリテーションについて授業資料を基にまとめること	4時間
14.	コンディショニング（小勝）	ATの主要業務のひとつであるコンディショニングについて解説する	コンディショニングについて授業資料を基にまとめること	4時間
15.	健康管理と組織運営・ATの倫理と関係法規（山口）	ATが担う健康管理および組織運営とATに必要な倫理および関係法規について解説する	健康管理・組織運営や倫理・関係法規について授業資料を基にまとめること	4時間
16.	期末試験および総括	期末試験を行い、その後に総括、質疑応答を行う		4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	試験の結果に基づき評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				80%
	授業内レポート				10%
	授業外レポート				10%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは(授業内で)解説をしながら返却する。 試験の解説は問い合わせに対して個別に対応する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の出席がない学生は、評価対象外とする(欠格条件)。</li> <li>・授業態度が悪い学生は、成績評価から減点する。</li> <li>・20分以上の遅刻は、欠席とみなす。</li> <li>・授業計画は、授業の進行状況により、多少前後することがある。</li> <li>・専門的な内容が含まれるので、関連科目の予習および授業後の復習を行うこと。</li> </ul>				
関連科目	運動生理学、スポーツトレーナー実習/演習、体力相談と運動処方、S&C演習、FTI実習、JSP0-AT必修の各科目				
関連資格	NSCA-CSCS				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
オフィス アワー	小勝：水曜12：40-14：10 第2体育館2階 小勝研究室				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
115390	S-MED321J-01 、H-	スポーツ医学A																					
科目名(英字)	Sports Medicine A																						
学科	体育学科、健康福祉学科、スポーツ栄養学科、現代武道学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	橋本 実			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	医療現場での実務経験を有する																						
授業の概要	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防、整形外科的なメディカルチェック、治療と運動療法を含めたりハビリテーションについて、スポーツドクターの立場から実務経験を活かして解説する																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識について学び、スポーツの現場でと予防方法などが活用できるようになる																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するように努力する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について理解する		情意的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するように努力する		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防について理解する																					
	情意的領域	スポーツマンに多い整形外科的疾患、基礎的なスポーツ外傷の知識と予防方法を、活用するように努力する																					
	技能表現的領域																						
授業計画(全体)	授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める。また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める 授業の終わりに毎回小テストなどをおこない、知識を整理する																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の進め方などについて説明する	プリントを配布するので参考にすること	4時間
2.	整形外科学の基礎	整形外科学の基本的なことについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
3.	顔面、頸部外傷	顔面頸部外傷の基本的なことについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
4.	腰部外傷・障害	腰部外傷・障害の基本的なことについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
5.	胸部外傷・障害	胸部外傷・障害の基本的なことについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
6.	上肢帯の外傷・障害	上肢帯外傷・障害の基本的なことについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
7.	上腕、肘の外傷・障害	上腕、肘外傷・障害の基本的なことについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
8.	前半の振り返りと試験	講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
9.	前腕、手指の外傷・障害	前腕、手指外傷・障害の基本的なことについて説明する	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
10.	下肢帯の外傷・障害	下肢外傷・障害の基本的なことについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
11.	大腿の外傷・障害	下肢外傷・障害の基本的なことについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
12.	膝の外傷・障害	下肢外傷・障害の基本的なことについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
13.	下腿、足趾の外傷・障害	下腿、足趾の外傷・障害の基本的なことについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
14.	小児のスポーツ外傷・障害	小児のスポーツ外傷・障害の基本的なことについて説明する	授業後、図書館で整形外科関連の本で復習すること	4時間
15.	後半の振り返りと試験	講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
16.	試験	講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	欠席する場合は必ず欠席届を提出すること。特に試験は無断欠席は認めないので注意すること。出欠はICTツールで毎回の小テストと学びの提出状況で確認する。試験結果は返却し、レポートは必要に応じて返却する。試験の際に持ち込みできるのは講義ノートのみなので、必ず購入すること。成績は相対評価と絶対評価で総合的に判定する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				95%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート	○			5%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートについては、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。				
関連科目					
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	スポーツ医学A 講義ノート	橋本実	ポラーノ出版	2022	
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
オフィス アワー	教育企画課で確認して下さい。				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
522080	M-CSS211J-02	社会の安全・安心概論																					
科目名(英字)	Introduction to Social Safety and Security																						
学科	現代武道学科			学年	1年																		
学期	後期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	岩淵 孝二			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	警察官としての実務経験あり																						
授業の概要	<p>社会の安全安心を担う警察活動について、警察組織の仕組みや警察組織の各部門における任務及び具体的な活動状況について実務経験を活かして概説する。また、警察官に必要な基礎的法学、求められる知識のほか、実社会における多様な治安リスク等について具体的事例などを交えて考察する。</p>																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<p>社会における警察組織や活動について具体的に学習することにより、武道の応用展開における課題や今後の在り方について、自ら探求する能力を身に付ける。また、将来、武道を通して社会の安全安心に寄与しようとする人材として求められる倫理観や基礎的法学知識を習得する。</p>																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>社会の安全安心を担う警察官に必要な組織・任務及び法学に関する基礎的な知識を説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>警察官に求められる職務倫理や心構えなどの学習を通じ、安全安心を踏まえて社会に寄与できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	社会の安全安心を担う警察官に必要な組織・任務及び法学に関する基礎的な知識を説明できる。		情意的領域	警察官に求められる職務倫理や心構えなどの学習を通じ、安全安心を踏まえて社会に寄与できる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	社会の安全安心を担う警察官に必要な組織・任務及び法学に関する基礎的な知識を説明できる。																					
	情意的領域	警察官に求められる職務倫理や心構えなどの学習を通じ、安全安心を踏まえて社会に寄与できる。																					
	技能表現的領域																						
授業計画（全体）	<p>配付する資料及び板書を中心とした講義とし、必要に応じて映像等の資料も活用する。また、警察施設の視察により実際の警察活動に対する理解を深める。</p>																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	ガイダンス・警察の歴史	本科目の授業内容などについて説明するとともに、警察の成り立ちについて概説する。	警察の歴史について資料に基づき、事前に学習しておく。	4時間
2.	警察の組織と公安委員会	警察組織の基本的構成及び公安委員会との関係について概説する。	公安委員会制度について事前に調査しておく。	4時間
3.	警察法と警察の責務	警察法の概要と警察の責務について概説する。	警察法について事前に調査しておく。	4時間
4.	地域警察部門の活動	地域警察部門の組織及び任務、活動内容などについて概説する。	地域警察部門について事前に調査しておく。	4時間
5.	警察官職務執行法の概要	警察官職務執行法の概要と職務質問について概説する。	警察官職務執行法について事前に調査しておく。	4時間
6.	生活安全警察部門の活動	生活安全警察部門の組織及び任務、活動内容などについて概説する。	生活安全警察部門について事前に調査しておく。	4時間
7.	刑事警察部門の活動 1	刑事警察部門の組織及び任務、活動内容などについて概説する。	刑事警察部門について事前に調査しておく。	4時間
8.	刑事警察部門の活動 2	刑事警察において特に治安課題となっている犯罪について概説する。	最近、発生が多い刑事事件の状況について事前に調査しておく。	4時間
9.	交通警察部門の活動	交通警察部門の組織及び任務、活動内容などについて概説する。	交通警察部門について事前に調査しておく。	4時間
10.	警備警察部門の活動	警備警察部門の組織及び任務、活動内容などについて概説する。	警備警察部門について事前に調査しておく。	4時間
11.	総務・警務警察部門の活動	総務・警務警察部門の組織及び任務、活動内容などについて概説する。	総務・警務警察部門について事前に調査しておく。	4時間
12.	情報をめぐる法的規制	個人情報などの保護・管理と法的規制などについて概説する。	個人情報の概念について事前に調査しておく。	4時間
13.	警察施設体験	警察施設を視察し、実際の警察活動の状況などについて理解を深める。	視察結果についてレポートを作成する。	4時間
14.	職務倫理	公務員及び警察官に求められる職務倫理について概説する。	職務倫理について事前に調査しておく。	4時間
15.	犯罪被害者の実情	犯罪被害者、犯罪被害者対策の実情について概説する。	犯罪被害者等基本法について事前に調査しておく。	4時間
16.	定期試験	授業の理解度、到達度を確かめるため、定期試験を行う。	学習内容をしっかり復習しておく。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	期末定期試験を実施するほか、課題に対する回答状況、授業態度などを加味して総合評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				100%
	授業内レポート	○			加点要素
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは、授業内で解説・討議を行いながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。</li> <li>・社会の安全・安心を担う分野において必要とされる知識及び倫理観について学び、将来、同分野で活動することを目標として行われる授業であることを自覚し、受講すること。</li> </ul>				
関連科目	社会の安全・安心概論、同、同、同、警備ビジネス論、警備制度と国際社会				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	指定なし				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	新版 警察行政概論	金山泰介	立花書房		
オフィス アワー	月曜日14:20～15:50				
その他	研究室 第5体育館2階、第24研究室				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
555060	I-SMM211J-01	スポーツマスメディア概論																					
科目名(英字)	Introduction to Sports and Mass Media																						
学科	スポーツ情報マスメディア学科			学年	1年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数	2																	
担当教員	佐藤 修 / 安藤 歩美			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	放送局での実務経験を活かし、実践的な講義を行う																						
授業の概要	本授業は「メディアとは何か」から始め、マスメディアの歴史と現状や問題点を整理しながらマスメディアがリリースするスポーツニュースやスポーツ番組について実務経験を活かしながら体系的に講義を行う。また、国内、ヨーロッパ、アメリカなどのスポーツニュースの特徴についても比較する。さらにネットメディアについても学ぶ。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	マスメディアの特性と歴史や現状について知ることによってこれまでと違った視点から新聞やテレビなどを見ることができるようになる。また、マスメディアから洪水のように流れてくるスポーツに関する情報を批判的に読み解く力を身に付ける。試験については解説しながら返却する。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>マスメディアの歴史や現状について説明できる。国内外のスポーツニュースの特徴や問題点を指摘できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>新聞のスポーツ記事やテレビのスポーツニュースや番組を客観的に読んだり見ることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	マスメディアの歴史や現状について説明できる。国内外のスポーツニュースの特徴や問題点を指摘できる。		情意的領域	新聞のスポーツ記事やテレビのスポーツニュースや番組を客観的に読んだり見ることができる。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	マスメディアの歴史や現状について説明できる。国内外のスポーツニュースの特徴や問題点を指摘できる。																					
	情意的領域	新聞のスポーツ記事やテレビのスポーツニュースや番組を客観的に読んだり見ることができる。																					
	技能表現的領域																						
授業計画(全体)	各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、視聴覚教材も用いることもある。各授業毎に、授業の感想と課題を授業内小レポートとして提出させることで、理解度・到達度を確認する。 今年度は、大学のコロナウイルスに関するガイドラインに準拠し、感染の流行拡大の予防に注意を払い、原則、オンラインでの授業を行う。大学の指定するGoogle class roomを通しての講義となる。なお、対面での授業再開となった場合には、改めて周知する。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価の方法	シラバスを熟読すること	4時間
2.	メディアとは何か？	メディアとは何か？について説明する	「メディア」という言葉の意味を発表できるようにしておく	4時間
3.	情報とは何か？	「情報」という言葉の歴史について説明、インフォメーションとインテリジェンスの違いを考える	「情報とは何か？」について整理しておく	4時間
4.	放送 ラジオと戦争	ラジオ放送の歴史と太平洋戦争をマスメディアがどう伝えたかをラジオを中心に放送番組を試聴しながら解説する	戦争をマスメディアがどう伝えたかを整理しておく	4時間
5.	放送 テレビとスポーツ	テレビ放送とスポーツの特別な関係を解き明かす	テレビのスポーツ番組を視聴し、どんな関係があるのか考えておく	4時間
6.	マスメディアとスポーツイベント	マスメディアと高校野球の関係について説明する	マスメディアと高校野球の歴史について復習しておく	4時間
7.	マスメディアとスポーツイベント	マスメディアがスポーツイベントを主催することの功罪について説明する	マスメディアの主催するイベントはどんなものがあるのか調べておく	4時間
8.	スポーツインテグリティとマスメディア	スポーツインテグリティとは何かを学び、マスメディアとの関係について説明する	スポーツにとってのインテグリティについて調べておく	4時間
9.	日本のスポーツニュースを考える	スポーツニュースはスポーツマンニュースであること、スポーツマンには社会的役割を担わされていることを新聞記事を使いながら説明する	前日までの新聞で面白いと思ったスポーツ記事を発表する	4時間
10.	日本のスポーツニュースを考える	なぜ女子選手は不当とも言える扱いを受けるのかについて新聞記事を使って説明する	女子選手に関する報道について整理しておく	4時間
11.	日本のスポーツニュースを考える	海外で活躍する日本人アスリートに関する報道の特徴について説明する	日本人メジャーリーガーやサッカー選手に関するスポーツ記事を読んでおく	4時間
12.	欧米のスポーツニュース	アメリカの「ロールモデル」という役割を担われるアスリートについて、イギリスのジンゴイズム的な戦争にからむ表現等について説明する	興味を持つアメリカ人アスリートについてとプレミアリーグについて調べる	4時間
13.	激変するメディア環境 オールドメディアの苦悩	新聞、テレビといったマスメディアの不振の原因と今後の課題を説明する	新聞の購読者数の推移とテレビの視聴率の推移を調べる	4時間
14.	激変するメディア環境 インターネットメディア	インターネットとスマートフォンの普及によってネットはプラットフォームからメディアへと進化した。その過程と今後の課題を説明する	インターネットとスマートフォンの普及の歴史を整理しておく	4時間
15.	激変するメディア環境 スポーツに特化したネットメディア	VICTORYやDAZN、SPORTS BULLなどスポーツに特化したネットメディアの隆盛と今後の課題を説明する	スポーツに特化したネットメディアを調べて整理しておく	4時間
16.	テスト	授業の理解度・到達度を確かめるために期末テストを行う	テストに備えて復習をすること	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	試験は、期末試験を1回実施する(評価割合70%)。また、授業内レポート(評価割合10%)と、授業外レポート(評価割合20%)を課す。提出されたレポートは(授業内で)解説をしながら返却する。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加え、欠格条件となる。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				70%
	授業内レポート				20%
	授業外レポート				10%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートを実施する場合は、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・授業計画は、授業の進み方により、多少前後することがある。</li> </ul>				
関連科目					
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	スポーツニュースは怖い	森田浩之	NHK出版	2007年	978-4-14-0882320
オフィス アワー	佐藤修研究室E棟 2階 金曜12:40~14:10				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
553040	I-SIS211J-02	スポーツ情報戦略概論																					
科目名(英字)	Introduction to Sport Intelligence																						
学科	スポーツ情報マネジメント学科			学年	1年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数	2																	
担当教員	石丸 出穂 / 粟木 一博 / 林 直樹 / 藤本 晋也 / 坪井 俊樹 / 橋本 智明			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	バレーボール日本代表アナリストの実務経験を有する スポーツ情報戦略活動(後方支援)の実務経験を有する																						
授業の概要	スポーツにおける情報戦略活動において必要とされる能力は人間関係を構築するためのコミュニケーションに関する能力をはじめ、文書の作成能力、データ処理能力、事象を構造化する能力など多岐にわたっている。次年度以降に行われる演習や実習はきわめて現場即応型の内容が想定されており、この授業はそこで必要とされるコア・スキルに関する解説と習得のための実践活動を中心に進められる。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	概要でも述べたとおり、スポーツ情報戦略スタッフとして活動するためのコア・スキルを抽出し、それらを理解し、実践可能な初歩のレベルにまで向上させることが本授業の目標となる。具体的には挨拶など基本的なコミュニケーションスキルの習得、形式にのっとった文書の作成技術の習得、プレゼンテーションに関する基礎的な能力の習得などを想定している。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツにおける情報戦略活動の概略を理解し、そこで使用されるスキルにはどのようなものがあるかを理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツにおける情報戦略活動の概略を理解し、そこで使用されるスキルを理解することによって、それらを積極的に利用しようとする意欲を培うとともに、それらをストレスなく活用することができるようにする。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>挨拶などの基本的なコミュニケーションのスキル、形式にのっとった文書作成技術、文書作成能力、基礎的なデータ処理能力、基礎的なプレゼンテーション能力を身につける。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツにおける情報戦略活動の概略を理解し、そこで使用されるスキルにはどのようなものがあるかを理解する。		情意的領域	スポーツにおける情報戦略活動の概略を理解し、そこで使用されるスキルを理解することによって、それらを積極的に利用しようとする意欲を培うとともに、それらをストレスなく活用することができるようにする。		技能表現的領域	挨拶などの基本的なコミュニケーションのスキル、形式にのっとった文書作成技術、文書作成能力、基礎的なデータ処理能力、基礎的なプレゼンテーション能力を身につける。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツにおける情報戦略活動の概略を理解し、そこで使用されるスキルにはどのようなものがあるかを理解する。																					
	情意的領域	スポーツにおける情報戦略活動の概略を理解し、そこで使用されるスキルを理解することによって、それらを積極的に利用しようとする意欲を培うとともに、それらをストレスなく活用することができるようにする。																					
	技能表現的領域	挨拶などの基本的なコミュニケーションのスキル、形式にのっとった文書作成技術、文書作成能力、基礎的なデータ処理能力、基礎的なプレゼンテーション能力を身につける。																					
授業計画(全体)	<p>スポーツにおける情報戦略活動の概要を説明した後、そこで必要とされるさまざまな技能を例示する。その中から、コミュニケーションスキル、文書作成技術、文章能力、データ処理技能、電子デバイスおよびICT関連機器の使用方法(倫理を含む)などを取り上げ、実際に活動を通して技能の向上を図る。</p> <p>大学のコロナウイルスに関するガイドラインに準拠し、感染の流行拡大の予防に注意を払い、原則、オンラインでの授業を行う。</p>																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	ガイダンス（全員）	授業全体の計画を説明する。担当教員の紹介、授業の目標および評価方法について説明する。	シラバスと学生便覧を熟読する。	4時間
2.	スポーツ情報戦略とは（石丸）	スポーツ情報戦略の全体像を説明する。	「スポーツ情報戦略の基礎」を熟読する	4時間
3.	スポーツ情報戦略とは（坪井）	スポーツ情報戦略の全体像を説明する。	「スポーツ情報戦略の基礎」を熟読する	4時間
4.	コミュニケーションスキルの基礎（藤本）	紙媒体（手紙・FAX・レポート）の作法について説明をする。	紙媒体（手紙・FAX・レポート）の作法について調べる。	4時間
5.	コミュニケーションスキルの基礎（林）	デジタル媒体（メール・SNS）の作法について説明をする。	デジタル媒体（メール・SNS）の作法について調べる。	4時間
6.	コミュニケーションスキルの基礎（石丸）	会議・ミーティングの設定方法について、説明と共に演習を行う。	会議・ミーティングの設定方法について調べる。	4時間
7.	文書作成技術（藤本）	基本的なビジネス文書や報告書の作成方法、タイピングのスキルを学習する。	文書の形式にはどのようなものがあるかを調べる。	4時間
8.	映像基礎・機材管理（藤本）	基本的な撮影・編集方法、機材の管理法の注意点を学習する。	撮影・編集方法、機材の管理法を調査する	4時間
9.	ICT利用の基礎（石丸）	スポーツ現場で使用されている分析ソフト（スポーツコード、ダートフィッシン）の概要を説明する	スポーツコード、ダートフィッシンについて、調査する。	4時間
10.	ICT利用の基礎（橋本）	プログラミングについて、基礎的な概要を説明する。	プログラミングについて、調査する。	4時間
11.	ICT利用の基礎（橋本）	プログラミングについて、基礎的な活用法を説明する。	プログラミングの活用法について、調査する。	4時間
12.	データ処理の基礎（坪井）	データを処理するための基礎となる基本的な統計量の定義と算出のために必要となる機序を学ぶ。	身の回りのデータ処理事例について調べる。	4時間
13.	データ処理の基礎（粟木）	データ処理のための統計的な手法について学ぶ。特に多変量のデータの取り扱いについて解説する。	教材として利用するために多変量データを探す。	4時間
14.	データ処理の基礎（粟木）	処理されたデータをグラフや表で表現する方法について学ぶ。グラフの種類や図表利用時の決まりなどについて解説する。	新聞等にあるグラフや表を集めておく。	4時間
15.	スポーツ情報戦略とは まとめ（石丸）	スポーツ情報戦略の全体像や可能性について、説明する。	これまでの授業の復習をしておく。	4時間
16.	まとめとテスト（全員）	これまでに学んだことを確認する、テストを行う。また、スポーツ情報戦略論実習の説明を行う。	テストのための準備を行う。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	試験は、期末試験を1回実施する(評価割合60%)。また、授業内レポート(評価割合20%)と、授業外レポート(評価割合20%)を課す。そして、これらの結果を総合して成績評価を行う。出席は、評価割合に加えず、欠格条件となる。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				60%
	授業内レポート				20%
	授業外レポート				20%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポート、試験については、希望者には解説する				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業回の3分の2以上の欠席がある場合には試験を受けることができない。(欠格条件)</li> <li>・授業計画は進度により多少前後することがあります。</li> </ul>				
関連科目	スポーツ情報戦略論実習 ・ 、演習A・B・C、の履修を考えている学生は、必ず履修すること。				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	スポーツ情報戦略の基礎	石丸出穂、粟木一博、藤本晋也、坪井俊樹、溝上拓志			
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	スポーツ戦略論	植田滋夢、堀野博幸、松山博明	朝大 修館書店	2017	
オフィス アワー	石丸：前後期水曜10：20～11：50				
その他	石丸 iz-ishimaru@sendai-u.ac.jp				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
131100	E-CME022J-04	運動・身体表現																					
科目名(英字)	Exercise, physical expression																						
学科	子ども運動教育学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数																		
					2																		
担当教員	原田 健次			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	保育所所長の実務経験を有する																						
授業の概要	<p>子どものこころとからだの発達と運動機能や身体表現に関する知識と保育技術を習得するための理論と実践を学ぶ。また、様々な幼児の表現を支える保育内容や保育者の役割について実際のビデオを観察し、省察し、指導上の留意点や保育技術を学ぶ。実際のあそびや表現演技を体験し、保育的意義を深めるとともに、遊びの立案や表現演技を創作し発表する。</p>																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<p>人やものに興味や関心を持ち、豊かな感性や表現する力を養う探求心や創造性を育む乳幼児期の表現にかかわる保育を展開するために、まずは自分自身が表現することを楽しみ、PDCAサイクルの実践を通して、保育実践力を身に付けることをねらいとする。また、子どものあそびを豊かに展開するために必要な知識や技能を習得することを目標とする。</p>																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>楽しく運動遊びに取り組ませるための方法を身に付けるために、指導案を立案し、遊びの実践を行うことができるようにする。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>幼児に身体表現の楽しさを伝えることができるように、自らが表現の楽しさを体感することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>からだを使った表現あそびを通してその遊びの意義・指導法を身に付けることができるようにする。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	楽しく運動遊びに取り組ませるための方法を身に付けるために、指導案を立案し、遊びの実践を行うことができるようにする。		情意的領域	幼児に身体表現の楽しさを伝えることができるように、自らが表現の楽しさを体感することができる。		技能表現的領域	からだを使った表現あそびを通してその遊びの意義・指導法を身に付けることができるようにする。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	楽しく運動遊びに取り組ませるための方法を身に付けるために、指導案を立案し、遊びの実践を行うことができるようにする。																					
	情意的領域	幼児に身体表現の楽しさを伝えることができるように、自らが表現の楽しさを体感することができる。																					
	技能表現的領域	からだを使った表現あそびを通してその遊びの意義・指導法を身に付けることができるようにする。																					
授業計画（全体）	<p>各授業のテーマに沿った資料を用いた講義と実技を行い、理論と実践の融合を図る。前半期は遊びの保育的視点を深める講義、後半期には子ども役になり遊びを体験、後半期は指導（保育）者としての視点を持ち、リズムダンスの創作、模擬保育を実践することができるようになる。</p>																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法	シラバスを熟読し内容を理解する。	4時間
2.	「遊び」の保育的意義	子どもの発達に応じた「遊び」について学ぶ	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
3.	仲間づくり運動（ありあいムーブメント）	力合わせと力比べのふれあいあそびを体験。幼児教育の課題を探り仲間づくりあそびの保育的意義について考察する。	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
4.	仲間づくりあそび（仲間集めいす取りゲーム）	従来のいす取りゲームの保育的意義を考察し、仲間集めいす取りゲームの保育的意義について深める。	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
5.	仲間づくり運動（仲間集めリレーあそび）	安易に勝ち負けをつけるリレーではなく、幼児期に大切な楽しいリレーあそびについて深める。	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
6.	運動会における表現演技（発達に応じた演技2・3歳児）	発達に応じた運動会の表現演技を観ることで、あそびから演技への保育のプロセスを学ぶ。	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
7.	運動会における表現演技（発達に応じた演技4・5歳児）	発達に応じた運動会の表現演技を観ることで、あそびから演技への保育のプロセスを学ぶ。	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
8.	表現あそび（リズムダンスあそびの保育的意義）	実際のリズム遊びを体験し、幼児期におけるリズムあそびの保育的意義について学ぶ。	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
9.	表現あそび（リズムダンス創作その1）	グループになり、発達に合った曲の選び方、振付の付け方、構成の仕方を学び、実際につくる。	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
10.	表現あそび（リズムダンスあそび創作その2）	実際につくったダンスの見直しをし、次回の発表に向けた準備をする。	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
11.	表現あそび（リズムダンス発表と振り返り）	グループでの発表を行う。また、評価・振り返りを行う。	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
12.	模擬保育（指導案作成、PDCAサイクルについて）	指導案について学び、実際に表現あそびの指導案を作成し、次回の実践に向けて準備を調える。	指導案について復習をしておく。	4時間
13.	模擬保育（実践授業と振り返り）	保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。	PDCAサイクルについて復習をしておく。	4時間
14.	模擬保育（実践授業と振り返り）	保育者役、子ども役になり模擬保育を行う。終了後は「保育者視点」「子ども視点」からの振り返りを行う。	PDCAサイクルについて復習をしておく。	4時間
15.	まとめ（指導上の留意点）	模擬保育の振り返りから、指導上の留意点をまとめていく。	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
16.	テスト	学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。	テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	期末試験(評価割合50%)授業態度(評価割合20%)授業内レポート(評価割合30%)提出されたレポートは授業内で解説をしながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				50%
	授業内レポート				30%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				20%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは授業内で解説をしながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学設置基準で求められている時間の授業時間外学修を行うこと。</li> <li>・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。</li> <li>・授業中は携帯電話をかばんにしまうこと。</li> <li>・授業中は私語を慎み授業に集中すること。</li> </ul>				
関連科目	運動・身体表現				
関連資格	幼稚園免許 保育士資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	幼児体育	日本幼児体育学会	大学教育出版	2019	978-4-86692-016-0
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	幼稚園教育要領	文部科学省	フレーベル館	2017	978-4-577-81422-2
オフィス アワー	水曜日14:20～15:50				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
123080	T-fye241J-01	情緒障害教育総論																					
科目名(英字)	Introduction to education for emotionally disturbed children																						
学科	健康福祉学科			学年	4年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					1																		
担当教員	小西 志津夫			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	特別支援学校の実務経験での教員経験を有する																						
授業の概要	特別支援教育の概要をふまえつつ、情緒障害児者の特性や情緒障害教育の概要について実務経験を生かして具体的に解説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	特別支援教育の概要を知る。 特に情緒障害者の特性及び情緒障害者の具体的教育内容や指導・支援方法に関する基礎的知識を獲得する																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>情緒障害の生理・病理・心理、教育内容・方法について基礎的な事柄を理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>情緒障害教育に関心を持ち、積極的に関わろうとする。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>不登校傾向の児童生徒を想定した場面指導に取り組むことができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	情緒障害の生理・病理・心理、教育内容・方法について基礎的な事柄を理解する。		情意的領域	情緒障害教育に関心を持ち、積極的に関わろうとする。		技能表現的領域	不登校傾向の児童生徒を想定した場面指導に取り組むことができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	情緒障害の生理・病理・心理、教育内容・方法について基礎的な事柄を理解する。																					
	情意的領域	情緒障害教育に関心を持ち、積極的に関わろうとする。																					
	技能表現的領域	不登校傾向の児童生徒を想定した場面指導に取り組むことができる。																					
授業計画(全体)	各授業テーマに沿った資料を用いた講義が中心となる。 4年次教育実習の時期との関係から、各自が調べたものを発表するなど含めて展開する。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション 特別支援教育とその対象	特別支援教育とは その中の情緒障害の位置づけについて	シラバスを熟読しておくこと。	4 時間
2.	情緒障害教育について	情緒障害教育の概要について	学校教育における情緒障害について事前に調べておくこと。	4 時間
3.	情緒障害教育の対象	自閉症について	自閉症の特徴について事前に調べておくこと。	4 時間
4.	情緒障害教育の対象 2	かん黙について	かん黙の特徴について事前に調べておくこと。	4 時間
5.	情緒障害教育の対象 3	不登校等について	不登校の特徴について事前に調べておくこと。	4 時間
6.	情緒障害教育の現状	特別支援学級の実際について	接したことのある情緒障害児についてまとめておくこと。	4 時間
7.	情緒障害教育の今後の展望	情緒障害教育のこれからの方向について	望ましい情緒障害教育についてまとめておくこと	4 時間
8.	まとめ	これまでの講義内容を振り返り，自らの理解度を確認する。	理解不足の内容については，確認の上，復習しておくこと	4 時間
9.				4 時間
10.				4 時間
11.				4 時間
12.				4 時間
13.				4 時間
14.				4 時間
15.				4 時間
16.				4 時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	レポート(評価割合80%)とし、受講態度を総合して成績評価を行う。 欠席は、評価結果に加え、欠格条件となる 各自のレポートをもとにプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行いながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				80%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				20%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートを実施する場合は、授業内で指示します・				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上の出席のないものは、単位の修得はできない。(欠格条件)</li> <li>・授業中は携帯電話は鞆の中に入ってしまうこと。</li> <li>・授業計画は、進度によって若干の変更があり得ること。</li> <li>・自己学習(校外での学習、ボランティア活動等)の成果や授業テーマについて積極的に発表することを期待する。</li> </ul>				
関連科目	知的障害者の教育 病弱者の教育 肢体不自由者の教育 情緒障害教育総論 視覚障害教育総論 聴覚障害教育総論				
関連資格	特別支援学校教諭免許				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特別支援学校学習指導要領	文部科学省			
	特別支援学校学習指導要領解説書	文部科学省			
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	授業内で紹介する				
オフィス アワー	未定				
その他	未定				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
131180	-	日本経済と警備業																					
科目名(英字)	Japanese economy and security guard business																						
学科	現代武道学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	金 一坤 / 田中 智仁			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	警備員の実務経験を有する(田中智)																						
授業の概要	日本経済は、高度成長期以降、今日に至る経済発展の中で、その産業構造の高度再編・多様化を伴い、IT、金融、流通等の経済のサービス化も進むとともに、都市化も急速に進展してきた。その一環で、生活安全産業として専門多様化した警備業につき、経済学的視点と社会学的視点から考察し、今後の警備業のあり方について学ぶ。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	日本の社会の安全・安心の確保上、大きな一翼を担う警備業について、戦後の経済発展に伴いいかに誕生・発展・成熟を遂げてきたか、その果たす役割と生活安全産業としての産業構造と特性について経済学、社会学の両面から考察し、日本経済と警備業に関する基本的な知識を身につける。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>社会の安全・安心に係る領域において活躍する警備業の考察に必要な日本経済の基礎理解と警備業の社会経済的役割を説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>日本経済の中での警備業の役割を理解し、積極的に企業情報を収集し、警備業関連分野の展示会等に参加する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>警備業の専門多様化を踏まえて適切な警備料金を算出し、警備計画を提案することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	社会の安全・安心に係る領域において活躍する警備業の考察に必要な日本経済の基礎理解と警備業の社会経済的役割を説明できる。		情意的領域	日本経済の中での警備業の役割を理解し、積極的に企業情報を収集し、警備業関連分野の展示会等に参加する。		技能表現的領域	警備業の専門多様化を踏まえて適切な警備料金を算出し、警備計画を提案することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	社会の安全・安心に係る領域において活躍する警備業の考察に必要な日本経済の基礎理解と警備業の社会経済的役割を説明できる。																					
	情意的領域	日本経済の中での警備業の役割を理解し、積極的に企業情報を収集し、警備業関連分野の展示会等に参加する。																					
	技能表現的領域	警備業の専門多様化を踏まえて適切な警備料金を算出し、警備計画を提案することができる。																					
授業計画(全体)	第1回から第10回までを金一、第11回から第15回までを田中智が講義する。金一は主にICTやドローンなどの機械化の情勢について、田中智は主に警備業の産業構造と社会変化に伴う警備ニーズの変遷を概説する。原則として対面授業を行うが、オンラインで行う場合は、別途指示をします。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	警備業の誕生と警備業務（金一）	警備業の誕生経緯と自主防犯活動を補完代行する生活安全産業としての警備業について概説する。	配付資料参照	4時間
2.	日本経済の成長と警備業の発展（金一）	高度経済成長期での警備業の創生とそれに伴う警備業の急激な成長・発展等について概説する。	配付資料参照	4時間
3.	日本経済の成長と警備業の発展（金一）	バブル崩壊及びリーマンショックによる日本経済の低迷期に対応した警備業の成長・発展について概説する。	配付資料参照	4時間
4.	警備業が直面する課題と挑戦（金一）	警備業の社会的地位向上と慢性的な人材不足解決に向けた課題と対策及び警備業の将来像について概説する。	配付資料参照	4時間
5.	警備業が直面する課題と挑戦（金一）	東京オリンピック・パラリンピック警備の概要と課題及び大規模災害時における警備業の役割等について概説する。	配付資料参照	4時間
6.	4次産業と警備業（金一）	1. 4次産業革命の理解、2. 警備業務とICT（デジタルトランスフォーメーション、DX）	配布資料参照	4時間
7.	4次産業と警備業（金一）	1. 5Gと警備業、2. 機械警備とセキュリティデバイスの進化（VR、ドローンなど）	配布資料参照	4時間
8.	4次産業と警備業（金一）	1. 5Gと警備業、2. 機械警備とセキュリティデバイスの進化（VR、ドローンなど）	配布資料参照	4時間
9.	4次産業と警備業（金一）	1. 警備業とドローンセキュリティビジネス、2. ドローンセキュリティマーケットと事例	配布資料参照	4時間
10.	4次産業と警備業（金一）	1. 警備業とドローンセ災害対策、2. ドローン災害事例と知識	配布資料参照	4時間
11.	警備業の産業構造（田中智）	請負業と派遣業の違いを踏まえ、警備員に対する指揮命令系統と労働環境について概説する。	労働者派遣法の内容を調べる。	4時間
12.	警備業の産業構造（田中智）	警備料金や労務単価がどのように決定されているのか、ダンピングや下請け構造を踏まえて概説する。	交通誘導警備業務の警備料金を試算する。	4時間
13.	警備業と雑踏・人口集中（田中智）	なぜ雑踏が生まれ、そこで発生する事故が問題視されるようになったのか等、過去の雑踏事故とその社会的背景を踏まえて概説する。	高度経済成長期の人口動態を調べる。	4時間
14.	警備業と雑踏・人口集中（田中智）	弥彦神社雑踏事故と明石歩道橋事故を題材として、高度経済成長期の人口集中について概説する。	明石歩道橋事故の調査報告書を読む。	4時間
15.	警備業と監視社会（田中智）	警備業や防犯設備業が提供する監視カメラやセンサー等が、人々のプライバシーにどのような影響を与えるのかについて概説する。	防犯設備の市場規模を調べる。	4時間
16.	定期試験	所定の到達目標を達成したかどうかを筆記試験によって考査する。	全15回の授業内容を復習する。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	起承転結の論理構造、経済学的及び社会学的な説明の妥当性、実務への応用思考等を基準に評価する。暗記偏重ではなく、思考力に重点を置いた論理的記述を求める。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験			○	50%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート	○			50%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	定期試験およびレポートの原本は返却しないが、フィードバックを希望する学生には研究室にて個別に答案用紙を複写・返却するなどの措置を講じる。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「武道の応用展開の基礎」と「社会の安全・安心概論」の内容が基礎知識になるため、復習しておくことが望ましい。</li> <li>・「応用武道護衛」を履修していないの者の受講も可能であるが、警備業務の種類と特徴を予習しておくことが望ましい。</li> <li>・経済学及び社会学の基礎知識がない者の受講を想定しているが、可能な限り経済学及び社会学を予習しておくことが望ましい。</li> </ul>				
関連科目	武道の応用展開の基礎、社会の安全・安心概論、応用武道護衛				
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	警備ビジネスで読み解く日本	田中智仁	光文社	2018	
オフィス アワー	火曜日12:40~14:10(金一)				
その他	il-kim@sendai-u.ac.jp				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
541160	E-CME012J-03	保育内容総論																					
科目名(英字)																							
学科	子ども運動教育学科			学年	1年																		
学期	後期	授業形態	演習		単位数																		
				2																			
担当教員	柴田 千賀子			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	幼稚園での教員経験を有する																						
授業の概要	保育内容を理解し、総論と演習の学びを整理しながら保育内容全体の学びを深める。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	乳幼児期の保育の理解を深めるために、保育内容の概要、歴史的背景、保育実践とのつながりについて学ぶ。学んだ内容について、自身の保育観と照らし合わせて語ることができるようにする。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>保育内容と保育実践について理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>子どもを理解するための保育内容の学び（発表を含む）に意欲的に取り組む。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>保育内容について学んだことを、どのように保育実践につなげていくか表現することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	保育内容と保育実践について理解する。		情意的領域	子どもを理解するための保育内容の学び（発表を含む）に意欲的に取り組む。		技能表現的領域	保育内容について学んだことを、どのように保育実践につなげていくか表現することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	保育内容と保育実践について理解する。																					
	情意的領域	子どもを理解するための保育内容の学び（発表を含む）に意欲的に取り組む。																					
	技能表現的領域	保育内容について学んだことを、どのように保育実践につなげていくか表現することができる。																					
授業計画（全体）	幼児教育、保育の基本と保育内容、保育者としてのかかわり方などについて講義を通して具体的に学ぶ。各年齢の発達およびかかわりについて、講義で学んだ内容について理解を深めるために、ロールプレイや発表等のアクティブラーニングを展開する。履修ガイダンスは第1回目の授業において行う。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	ガイダンス・保育内容の基礎知識	ガイダンスを実施する。保育内容の基本について講義する。	保育内容について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
2.	保育実践と保育内容について	保育実践と保育内容について講義する。	保育内容について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
3.	保育の一日の流れと保育内容	保育園、幼稚園での保育の一日の流れと保育内容について講義する。	保育の一日の流れについて、自身の考えをまとめておくこと	4時間
4.	子どもの育ちと保育内容	子どもの育ちや乳幼児の発達の特徴について講義する。	乳幼児の発達について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
5.	保育内容の展開	養護と教育が一体的に展開する保育、子どもの主体性を尊重する保育について自身の考えをまとめ発表する。	子どもの主体性を尊重する保育について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
6.	0歳児の保育内容	0歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえ保育内容についてディスカッションを行う。	0歳児の発達の特徴について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
7.	1歳児の保育内容	1歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえ保育内容についてディスカッションを行う。	1歳児の発達の特徴テーマについて、自身の考えをまとめておくこと	4時間
8.	2歳児の保育内容	2歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえ保育内容についてディスカッションを行う。	2歳児の発達の特徴について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
9.	3歳児の保育内容	3歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえ保育内容についてディスカッションを行う。	3歳児の発達の特徴について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
10.	4歳児の保育内容	4歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえ保育内容についてディスカッションを行う。	4歳児の発達の特徴について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
11.	5歳児の保育内容	5歳児の発達の特徴、子どもの姿について講義する。講義を踏まえ保育内容についてディスカッションを行う。	5歳児の発達の特徴について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
12.	保育の計画と観察・記録と評価	保育の計画と観察・記録と評価の理論と実際 について講義する。	保育の計画について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
13.	保育内容の歴史の変遷	がどのようなものであるか現代との比較を交えながら講義する。	保育内容の歴史について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
14.	多様な保育ニーズと保育内容	特別な保育ニーズ、外国籍の子どもと多文化共生の視点について講義する。	特別な保育ニーズについて、自身の考えをまとめておくこと	4時間
15.	これからの保育内容	これからの保育と課題について自らの考えを発表する。	これからの保育と課題について、自身の考えをまとめておくこと	4時間
16.				4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	授業内・外レポートおよび演習実技の点数を総合して評価する。提出されたレポートは、相互理解を深めるためのディスカッションを行いながら返却する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート	○	○		30%
	授業外レポート	○	○		30%
	演習・実技			○	20%
	授業態度			○	20%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートの実施に関しては、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・保育者を目指すものとして、常に課題意識を持ち、自発的に受講することを望む。				
関連科目					
関連資格	幼稚園教諭一種免許状、保育士資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	子どもと共に学びあう演習・保育内容総論	井上孝之	みらい		
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	子どもと共に学びあう演習・保育内容総論	井上孝之	みらい		
オフィス アワー	火曜日11:50~12:40				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
544020	S-ANA321J-01	アスレティックトレーニング論																					
科目名(英字)	Athletic Training																						
学科	体育学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	山口 貴久 / 高橋 陽介 / 小田 桂吾 / 小勝 健司			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	アスレティックトレーナーとして様々なスポーツ現場での実務経験を有する																						
授業の概要	スポーツトレーナーに必要な不可欠な運動器の機能解剖について、実務経験を活かしスポーツトレーナーの観点から講義する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	関連分野へ応用できる程度まで運動器の機能解剖を理解する。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>様々な身体運動について解剖学的観点から説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	様々な身体運動について解剖学的観点から説明できる。		情意的領域			技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	様々な身体運動について解剖学的観点から説明できる。																					
	情意的領域																						
	技能表現的領域																						
授業計画(全体)	概論に続き、各論では身体部位ごとに、1)骨 2)関節と靭帯 3)筋・腱 4)その他の重要な軟部組織について解説する。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション（山口）概論（小田）	授業概要等の説明を行う。運動器の機能解剖の概論について解説する	教科書p2-26を熟読し理解する	4時間
2.	概論（小田）	運動器の機能解剖の概論について解説する	運動器の概論について調べる	4時間
3.	概論（小田）	運動器の機能解剖の概論について解説する	教科書p106-123を熟読し理解する	4時間
4.	下肢の機能解剖（高橋）	足部・足関節・下腿の解剖と機能について解説する	教科書p96-105を熟読し理解する	4時間
5.	下肢の機能解剖（高橋）	膝関節の解剖と機能について解説する	教科書p90-105を熟読し理解する	4時間
6.	下肢の機能解剖（高橋）	股関節・大腿の解剖と機能について解説する	運動器の概論と下肢の機能解剖についてまとめ、中間テストに備える	4時間
7.	中間試験（山口）	運動器の機能解剖の概論と下肢の機能解剖に関する筆記試験を行う	教科書p27-40を熟読し理解する	4時間
8.	体幹の機能解剖（山口）	体幹全般と頸部の解剖と機能について解説する	教科書p41-44を熟読し理解する	4時間
9.	体幹の機能解剖（山口）	胸部の解剖と機能について解説する	教科書p45-54を熟読し理解する	4時間
10.	体幹の機能解剖（山口）	腰部の解剖と機能について解説する	教科書p55-64を熟読し理解する	4時間
11.	上肢の機能解剖（小勝）	肩関節の解剖と機能について解説する	教科書p55-64を熟読し理解する	4時間
12.	上肢の機能解剖（小勝）	肩関節の解剖と機能について解説する	教科書p65-77を熟読し理解する	4時間
13.	上肢の機能解剖（小勝）	肘関節の解剖と機能について解説する	教科書p65-77を熟読し理解する	4時間
14.	上肢の機能解剖（小勝）	前腕の解剖と機能について解説する	教科書p78-89を熟読し理解する	4時間
15.	上肢の機能解剖（小勝）	手関節と手指の解剖と機能について解説する	期末試験に備える	4時間
16.	期末試験（山口）	体幹と上肢の機能解剖に関する筆記試験を行う	学習成果について自己評価を実施する	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	中間および期末試験の結果に基づき評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				100%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	試験のフィードバックは問合せに対して個別に対応する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず教科書を購入すること</li> <li>・非常に情報量の多い科目なので、必ず授業外学修を行うこと。これを前提に講義を展開していく。講義の進行は非常に速いので、授業外学修を行わなければ講義についてこれられないことを認識し、講義に臨むこと</li> <li>・アスレティックトレーニング論 を履修予定の学生は、必ず履修すること</li> <li>・他の学生の迷惑となるような行動をとる学生については、指導後も改善が見られない場合、以後</li> </ul>				
関連科目	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー関連科目				
関連資格	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー、JPSUスポーツトレーナー				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定しない				
オフィス アワー	火曜日14時20分～15時50分(山口)				
その他	問い合わせ：第4体育館1階山口研究室 tk-yamaguchi@sendai-u.ac.jp				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
112030	S-TRM331J-01 、N-	コンディショニング論																					
科目名(英字)	Introduction to Conditioning																						
学科	体育学科、スポーツ栄養学科、現代武道学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	小勝 健司 / 高橋 陽介			開講の別	オムニバス開講																		
実務経験の有無	高校・大学・プロ現場でアスレティックトレーナーとしての実務経験を有する。																						
授業の概要	コンディショニングは競技スポーツにおいて勝つための全ての準備といえる。コンディショニングにおいてアスレティックトレーナーが関わる領域を挙げ、それらの主要な内容を実務経験を活かして具体的な事例を交え解説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	コーチ、医科学スタッフらとも連携し、競技者に対し最適なコンディショニングプランを提供できるように、その調整方法を幅広い領域から学習し、習得する。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>コンディショニングの基礎的事項を説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>アスレティックトレーナーとして選手、対象者にコンディショニングに関する指導ができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	コンディショニングの基礎的事項を説明できる。		情意的領域			技能表現的領域	アスレティックトレーナーとして選手、対象者にコンディショニングに関する指導ができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	コンディショニングの基礎的事項を説明できる。																					
	情意的領域																						
	技能表現的領域	アスレティックトレーナーとして選手、対象者にコンディショニングに関する指導ができる。																					
授業計画(全体)	授業テーマに合わせたパワーポイントの資料を中心に講義を行う。必要に応じ、資料を配布する。テーマにより実技を行い理解を深める。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション/コンディショニング概論（小勝）	担当教員紹介、授業概要、授業目標、授業計画、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明/コンディショニングの概念、目的について説明	シラバスの熟読/教科書 p2-5を読んで復習と予習をする	4 時間
2.	コンディショニングの要素（小勝）	コンディショニングに関わる身体的因子について説明	教科書p6-11を読んで復習と予習をする	4 時間
3.	コンディショニングの要素（小勝）	コンディショニングに関わる環境的因子、心理的因子について説明	]教科書p12-26を読んで復習と予習をする	4 時間
4.	コンディション評価（高橋）	コンディション評価の目的、方法について説明	教科書p27-51を読んで復習と予習をする	4 時間
5.	コンディション評価（高橋）	コンディション評価の目的、方法について説明	教科書p27-51を読んで復習と予習をする	4 時間
6.	トレーニングの基礎（高橋）	トレーニング計画を作成する際の基礎知識について説明	教科書p52-64を読んで復習と予習をする	4 時間
7.	トレーニング計画（高橋）	トレーニング計画の立案、設計について説明	教科書p65-77を読んで復習と予習をする	4 時間
8.	トレーニング計画（高橋）	トレーニング計画の立案、設計について説明	教科書p78-85を読んで予習と復習をする	4 時間
9.	代謝系トレーニング（小勝）	代謝系トレーニングの方法、実施時の注意点について説明	教科書p86-90;91-95を読んで予習と復習をする	4 時間
10.	レジスタンストレーニング（小勝）	レジスタンストレーニングの方法、実施時の注意点について説明	教科書p86-90;p95-118を読んで復習と予習をする	4 時間
11.	スタビライゼーション・アジリティトレーニング（小勝）	スタビライゼーション・アジリティトレーニングの方法、実施時の注意点について説明	教科書p86-90;p127-148を読んで復習する	4 時間
12.	コーディネーション・サーキットトレーニング（小勝）	コーディネーション・サーキットトレーニングの方法、実施時の注意点について説明	教科書p86-90;p119-126;p162-177を読んで復習する	4 時間
13.	スプリント・エンデュランストレーニング（小勝）	スプリント・エンデュランストレーニングの方法、実施時の注意点について説明	教科書p149-161を読んで復習する	4 時間
14.	ストレッチングとウォーミングアップ・クーリングダウン（小勝）	ストレッチングとウォーミングアップ、クーリングダウンの方法、実施時の注意点について説明	教科書p178-213;p272-279を読んで復習と予習をする	4 時間
15.	テーピング・マッサージ・アクアコンディショニング（高橋）	テーピング・マッサージ・アクアコンディショニングの方法、実施時の注意点について説明	教科書p214-271を読んで復習と予習をする	4 時間
16.	期末テスト・総括	期末テスト（筆記）および、全てのテーマについての質疑応答、まとめを行う。		4 時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	評価は筆記試験(評価割合100%)のみとし、原則として再試・追試は行わないものとする。試験については、必要に応じ解説をしながら返却する。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				80%
	授業内レポート	○			10%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度	○			10%
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは、(授業内で)解説をしながら返却する。試験については、授業内で解説をしながら返却、もしくはGoogleclassroom内で解説をしながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー受験希望者が望ましい。</li> <li>・2/3以上の出席が無い学生は評価対象外とする(欠格条件)。</li> <li>・授業計画は、授業の進み方により多少前後することがある。</li> <li>・授業内の質問、態度も評価の対象とする。</li> </ul>				
関連科目	コンディショニング実習				
関連資格	健康運動実践指導者、JSP0-AT、JPSUスポーツトレーナー				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	日本スポーツ協会公認AT専門科目テキスト	日本スポーツ協会	文光堂		
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
オフィス アワー	水曜日12:40~14:10 第2体育館2階 小勝研究室				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
145070	H-SOW321J-01 、N-	障害者福祉論																					
科目名(英字)	Social Welfare for Disabled Person.																						
学科	健康福祉学科、スポーツ栄養学科			学年	2年																		
学期	前期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	関矢 貴秋			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	肢体不自由児支援学校での勤務経験を有する。																						
授業の概要	障がい者の福祉を日常生活や周辺の課題から考えるよう解説する。ノーマライゼーション理念の展開と、わが国における障害者福祉の理念について解説する。また、時系列に国内外における障害者施策を解説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	授業概要に示した内容を通して障がい者の人権尊重、権利擁護について自ら考えられる力をつける。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>障害者の人権尊重、権利擁護について自ら考えることができる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>障害者の人権尊重、権利擁護に関する学習に自ら取り組むことができる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	障害者の人権尊重、権利擁護について自ら考えることができる		情意的領域	障害者の人権尊重、権利擁護に関する学習に自ら取り組むことができる		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	障害者の人権尊重、権利擁護について自ら考えることができる																					
	情意的領域	障害者の人権尊重、権利擁護に関する学習に自ら取り組むことができる																					
	技能表現的領域																						
授業計画（全体）	障害者の福祉について、自らの身近な生活に照らして考えるように学習を進める。身近な社会にどのような課題が存在するか、障がい者の自立と共生とはどのようなことなのか、施策、法律の定義、概念に照らし合わせながら解説する。また、障害者及び家族、保護者に向けた各種社会福祉サービスについて学ぶ。また、実務経験を生かし状況に応じてICT等を活用する。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業概要の確認	障害者福祉に関する事前学習	4時間
2.	障害の概念	施策、法律から障害の概念を学ぶ	学習1]障害者福祉に関する事前学習	4時間
3.	障害者福祉の基本理念	施策、法律から障害の基本理念を学ぶ	障害者福祉に関する事前学習	4時間
4.	障害の概念と法的定義	歴史から障害の概念と法的定義を学ぶ（戦前の社会事業）	障害者福祉に関する事前学習	4時間
5.	障害の概念と法的定義	歴史から障害の概念と法的定義を学ぶ（戦後の社会事業）	障害者福祉に関する事前学習	4時間
6.	障害者の実態と福祉ニーズ	障害者に関するデータから、障害者の実態と福祉ニーズ、を学ぶ。また、障害者及び家族、保護者に向けた各種社会福祉サービスについて学ぶ	障害者福祉に関する事前学習	4時間
7.	障害者福祉の施策の歩み(戦前・後)	日本及び世界の歴史から障害者福祉の施策の現状と課題を学ぶ	障害者福祉に関する事前学習	4時間
8.	障害者福祉の施策の歩み（～'80年）	日本及び世界の歴史から障害者福祉の施策の現状と課題を学ぶ	障害者福祉に関する事前学習	4時間
9.	障害者福祉の施策の歩み(国際障害者年以後)	日本及び世界の歴史から障害者福祉の施策の現状と課題を学ぶ。また、障害者及び家族、保護者に向けた各種社会福祉サービスについて学ぶ	障害者福祉に関する事前学習	4時間
10.	障害者福祉の施策の歩み(障害者支援費制度から障害者総合支援法)	障害者福祉の施策の現状と課題を学ぶ。また、障害者及び家族、保護者に向けた各種社会福祉サービスについて学ぶ	障害者福祉に関する事前学習	4時間
11.	障害者福祉の施策の歩み(新たな障害者制度及び福祉サービス)	時系列に施策を検討し今後の課題と方向性を見出す取り組み	障害者福祉に関する事前学習	4時間
12.	障害者の人権	障害福祉の歴史から人権を学ぶ	障害者福祉に関する事前学習	4時間
13.	ノーマライゼーションと人権、権利擁護	歴史から障害者の人権を学ぶ	障害者福祉に関する事前学習	4時間
14.	障害者福祉と福祉サービス	福祉・医療・保健・教育・就労・雇用・所得保障の各観点から障害者及び家族への支援の実際を関連各機関の概要と専門職の役割を学ぶ	障害者福祉に関する事前学習	4時間
15.	諸外国の障害者福祉	諸外国の取り組みと実践から学ぶ	障害者福祉に関する事前学習	4時間
16.	テスト	理解度、到達度を確認する	障害者福祉に関する事前学習	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	試験(90%)。授業内課題(10%)。出席は評価割合に加えず欠格条件とする。各自提出したレポートはディスカッション時の参考資料に用いる。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				90%
	授業内レポート				10%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは(授業内で)必要に応じて解説をしながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	3分の2以上の出席がない学生は、単位を履修することができない(欠格条件)。授業態度は成績評価に関係あり。20分以上の遅刻は欠席とみなす。授業計画は授業進度により変更がありうる。				
関連科目	社会福祉概論				
関連資格	社会福祉士				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	障害者福祉	教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8238-2
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	授業に応じて提示する				
オフィス アワー	研究室 F棟2階 水曜 11:50~13:00				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
141040	-	スポーツ障害の予防と評価																					
科目名(英字)	Sports Injury Prevention & Evaluation																						
学科	体育学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	山口 貴久 / 小田 桂吾 / 高橋 陽介 / 小勝 健司			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	アスレティックトレーナーとして様々なスポーツ現場での実務経験を有する																						
授業の概要	アスレティックトレーナーの業務として、応急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどの場面で必要とされる、適切な評価方法、各種テスト方法について、実務経験を活かしアスレティックトレーナーの観点から理論とともに実技を交えて解説する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習 (PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習 (PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	応急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングにおける評価、検査の意義、基礎知識を理解し、スポーツ傷害の評価が実施できる。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>実施した評価の目的やその結果について説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>グループワークへ積極的に参加できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>様々なスポーツ傷害に対して、傷害評価と機能評価が実施できる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	実施した評価の目的やその結果について説明できる。		情意的領域	グループワークへ積極的に参加できる。		技能表現的領域	様々なスポーツ傷害に対して、傷害評価と機能評価が実施できる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	実施した評価の目的やその結果について説明できる。																					
	情意的領域	グループワークへ積極的に参加できる。																					
	技能表現的領域	様々なスポーツ傷害に対して、傷害評価と機能評価が実施できる。																					
授業計画(全体)	スポーツ傷害の概要およびその予防法について身体部位ごとに解説し、またその評価法について実技を交えながら学修する。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員紹介、授業概要の説明、授業目標の説明、授業計画の説明、成績評価方法の説明、履修上の注意の説明	教科書 p2-19を熟読する	4時間
2.	評価、検査の意義と基礎	評価、検査の目的、評価、検査に必要な基本能力について解説する	教科書 p130-135を熟読する	4時間
3.	足部・足関節の外傷	足部と足関節のスポーツ外傷とその評価について解説する	教科書 p135-155を熟読する	4時間
4.	足部・足関節の障害	足部と足関節のスポーツ障害とその評価について解説する	教科書 p101-110を熟読する	4時間
5.	膝関節の外傷	膝関節のスポーツ外傷とその評価について解説する	教科書 p111-118を熟読する	4時間
6.	膝関節の障害	膝関節のスポーツ障害とその評価について解説する	教科書 p119-129を熟読する	4時間
7.	下腿部の外傷と障害	下腿部のスポーツ外傷・障害とその評価について解説する	教科書 p85-98を熟読する	4時間
8.	大腿部の外傷と障害	大腿部のスポーツ外傷・障害とその評価について解説する	教科書 p49-56を熟読する	4時間
9.	肩関節の外傷	肩関節のスポーツ外傷とその評価について解説する	教科書 p56-57を熟読する	4時間
10.	肩関節の障害	肩関節のスポーツ障害とその評価について解説する	教科書 p59-69を熟読する	4時間
11.	肘関節の外傷と障害	肘関節のスポーツ外傷・障害とその評価について解説する	教科書 p70-84を熟読する	4時間
12.	手関節の外傷と障害	手関節のスポーツ外傷・障害とその評価について解説する	教科書 p6-19を熟読する	4時間
13.	頸部の外傷	頸部のスポーツ外傷とその評価について解説する	教科書 p20-26を熟読する	4時間
14.	腰部の外傷と障害	腰部のスポーツ外傷・障害とその評価について解説する	実技試験に備える	4時間
15.	実技試験	スポーツ傷害とその評価方法について実技試験を行う	筆記試験に備える	4時間
16.	筆記試験	スポーツ傷害とその評価方法について筆記試験を行う	学習成果について自己評価を実施する	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	授業への取り組み姿勢、および実技試験と筆記試験の結果に基づき評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				100%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	実技試験のフィードバックは試験直後に行う。筆記試験の解説は問い合わせに対して個別に対応する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目はアスレティックトレーニング論 を合わせて履修していることを前提に授業を展開していく</li> <li>・身体各部が露出でき、かつ動きやすい服装で臨むこと。</li> <li>・他の学生の迷惑となるような行動をとる学生については、指導後も改善が見られない場合、以後の受講は認めない</li> <li>・テキストは日本スポーツ協会のホームページから各自で購入すること</li> </ul>				
関連科目	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー関連科目				
関連資格	日本スポーツ協会アスレティックトレーナー				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト				
	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト				
	日本体育協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	標準整形外科学 第13版	中村利孝	医学書院	2016	978-4260025379
	新版 スポーツ整形外科学	中嶋寛之、福林徹、史野根生	南江堂	2011	978-4524262656
	スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド 第2版	臨床スポーツ医学編集委員会	文光堂	2015	978-4830651823
	整形外科学・外傷学 改定第7版	岩本幸秀、木村友厚、戸山芳明、落合直之、富田勝郎	文光堂	2005	978-4830627262
オフィス アワー	木曜日 12時40分～14時10分(山口)				
その他	問い合わせ：第4体育館1階山口研究室 tk-yamaguchi@sendai-u.ac.jp				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
515020	H-FTE021J-02 I-	教育の心理																					
科目名(英字)	Educational Psychology																						
学科	健康福祉学科、スポーツ情報マスタイ学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	荒井 龍弥			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	小学校の教員経験、中学校長の実務経験を有する。																						
授業の概要	学習援助をより効果的にするためには、教育の場にあるさまざまなものごと（学ぶ者、援助する者、教える行為など）を要因群として捉える分析的な観点が重要である。これらのうち、学習過程ならびに心身の発達を中心とした諸概念について概説するとともに、学習結果を捉える枠組みとしての教育評価についてもとりあげる。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	学習・発達・人格・知能・評価等、教育心理学で取り上げられる諸概念に関し、一般に信じられている常識的言説を再認できるようになるとともに、それらの言説に対して一定の根拠をもって自分なりの見解を述べられるようになる。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>学習・発達・人格・知能・評価などをめぐる一般の言説を再認できるとともに、それに対する自分なりの見解を述べることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>学習を援助する立場からの考え方や論理を理解するとともに、自らもその視座から諸事象を検討したり考えたりすることができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>学習者の視座を推測し、それに対する指導者としての向き合い方について間主観的な表現をすることができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	学習・発達・人格・知能・評価などをめぐる一般の言説を再認できるとともに、それに対する自分なりの見解を述べることができる。		情意的領域	学習を援助する立場からの考え方や論理を理解するとともに、自らもその視座から諸事象を検討したり考えたりすることができる。		技能表現的領域	学習者の視座を推測し、それに対する指導者としての向き合い方について間主観的な表現をすることができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	学習・発達・人格・知能・評価などをめぐる一般の言説を再認できるとともに、それに対する自分なりの見解を述べることができる。																					
	情意的領域	学習を援助する立場からの考え方や論理を理解するとともに、自らもその視座から諸事象を検討したり考えたりすることができる。																					
	技能表現的領域	学習者の視座を推測し、それに対する指導者としての向き合い方について間主観的な表現をすることができる。																					
授業計画（全体）	教育心理学の学問領域を学習過程ならびに心身の発達、教育評価、個人差の4領域に大きく分け、各領域の知見に関する講義を行うとともに、それに対する考え方を築くための時間も設ける。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション・教育心理学とは何か	教育心理学とはどんな学問かを説明し、その意義や必要性を考える。	教育心理学の枠組みが教師としてどのように活かせるか考えてみる。	4時間
2.	学習と知識の獲得	学習、知識の獲得をめぐる一般的信念と2種の心理学的アプローチについて検討し、教師として生徒に得させるべき知識内容を考える。	二種の心理学的アプローチについてネット等で調べてみる。	4時間
3.	学習内容の表象	学習した内容の適用範囲により2通りの考え方があることを紹介し、この枠組みから教師が獲得させたい学習内容について再検討する。	具体例で生産的学習と再生的学習を当てはめてみる。	4時間
4.	動機づけと欲求・要求	動機づけの2分類を紹介するとともに、内発的動機を高める取り組みについてグループで考える。	自分の行動を動機付けの観点から自省すること。	4時間
5.	原因帰属	内発的動機を高める方策として原因帰属に着目し、それらの違いによる効果を考えてみる。	自己効力感を高めるとされる取り組みについて調べる。	4時間
6.	人格その1 さまざまな人格検査	人格検査のいろいろについて検討するとともに、それぞれのメリット・デメリットとその効用について考える。	興味のある人格検査についてより詳細に調べてみる。	4時間
7.	人格その2 人格の諸理論	類型論、特性論、状況主義といった人格をめぐる諸理論を紹介し、自らの人格観を再検討する。	状況主義の観点から生徒指導について考えてみる。	4時間
8.	発達その1 さまざまな発達段階説	各種の発達段階説について紹介するとともに、特に生徒の道徳的発達段階について検討する。	各種発達段階説の観点や内容を整理しておく。	4時間
9.	発達その2 より配慮を必要とする児童生徒の特徴	特別支援教育内外の障がいにかかわる事例や発達障がいの症例等を紹介し、教育の役割について改めて考える。	特に発達障がいの症例についてまとめておく。	4時間
10.	発達その3 障がいのある子どもの発達の促進	ヴィゴツキーの最近接領域理論の観点から、障がいを抱えた子どもの発達事例を紹介し、教育の役割について再検討する。	特定の児童生徒への対応について原案を作成してみる。	4時間
11.	知能と知能検査	知能という概念の必要性和検査内容、ならびに知能指数をめぐる諸説を紹介し、自らの知能観を吟味する。	知能という観点から児童生徒理解をする方法の得失を考える。	4時間
12.	評価その1 教育評価と測定	教育評価と測定の違いを通じ、評価の目的について考える。また、具体的事例により課題空間・測定空間について検討する。	実技を含む特定の単元について評価計画を考えてみる。	4時間
13.	評価その2 完全習得学習と実技における評価	ブルームの完全習得学習の枠組みや比較対象としての絶対評価・相対評価等を検討し、体育実技での評価を検討する。	自分の評価計画を評価時点別に再考し、修正すること。	4時間
14.	学習集団の質と特徴	学習集団のモラル等の諸特徴について紹介し、教師として必要な「集団づくり」の重要性について考える。	「授業開き」や「学級開き」で何をすべきか、まとめておく。	4時間
15.	まとめ 教育現場における教育心理学の発展	小・中学校による実務経験に照らし、教育現場での学習者像とその検討を紹介することにより、教育心理学的観点を再確認する。	紹介した検討事項について自分なりに考えてみる。	4時間
16.				4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	相互の評価のために、授業内課題の回答結果を検討し、フィードバックする。これらの結果と、出席状況やテスト・レポートの結果を材料として成績評定を行う。なお、出席状況は単位認定のための必要条件とする(欠席が多い場合には評価対象としない)。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				30%
	授業内レポート		○	○	60%
	授業外レポート	○		○	10%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	各種レポート等の内容は授業中に紹介することによりフィードバックする。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	他の講義同様、本講で扱う知見も、さまざまな対象・場面に適用可能なものである。自分なりの例を探して当てはめることでその妥当性を判断する作業をしてほしい。こういった作業が内容理解の定着につながり、ひいては教員採用試験などの対策にもつながる。				
関連科目	教育方法論、教職総合演習				
関連資格	中学・高校教諭(保健体育・福祉)・栄養教諭・養護教諭・社会教育主事任用資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	指定しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	シードブック教育心理学	本郷・八木編	建帛社	2008	978-4-7679-3226-2
	授業に学び授業を創る教育心理学第二版	宇野忍編	中央法規	2002	4-8058-2170-1
オフィス アワー	前期 月曜 14:20-15:50、後期 水曜 12:40-14:10 (荒井研究室A棟309)				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
554010	H-MED321J-01 、N-	スポーツ医学概論																					
科目名(英字)	Introduction to Sports Medicine																						
学科	健康福祉学科、スポーツ栄養学科、スポーツ情報マスタイ学科、子ども運動教育学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義	単位数	2																		
担当教員	橋本 実			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	医療現場での実務経験を有する																						
授業の概要	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を解説する																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するように努力する</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する		情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するように努力する		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を理解する																					
	情意的領域	スポーツマンとして理解しておきたい運動生理学およびスポーツ医学に関する基礎知識を、活用するように努力する																					
	技能表現的領域																						
授業計画(全体)	<p>授業は毎回パワーポイントでおこない、画像を見ながら理解を深める  また、講義ノート(教科書)に書き込みながら理解を深める  授業の終わりに毎回小テストなどをおこない、知識を整理する</p>																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の進め方などについて説明	当日配布するプリントを参照すること	4時間
2.	スポーツ医学の基礎	スポーツ医学の基本的なことについて説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
3.	ドーピング	ドーピングに関連する知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
4.	ドーピング	ドーピングに関連する防止策や実態について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
5.	呼吸器	スポーツに関連する呼吸器の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
6.	循環器	スポーツに関連する循環器の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
7.	遺伝	スポーツに関連する遺伝の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
8.	前半の振り返りと試験	講義前半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
9.	体液	スポーツに関連する体液の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
10.	細胞	スポーツに関連する細胞の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
11.	免疫	スポーツに関連する免疫の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
12.	赤血球	スポーツに関連する赤血球の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
13.	高地トレーニングと貧血	高地トレーニングと貧血に関連する知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
14.	骨格筋	スポーツに関連する骨格筋の知識について説明する	授業後、図書館でスポーツ医学関連の本で復習すること	4時間
15.	後半の振り返りと試験	講義後半の内容を、正しく理解できたかを確認し、試験をおこなう	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
16.	試験	講義内容を正しく理解できたかを試験にて判定する	講義ノートを中心に、講義内容を整理すること	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	欠席する場合は必ず欠席届を提出すること。特に試験は無断欠席は認めないので注意すること。出欠はICTツールで毎回の小テストと学びの提出状況で確認する。試験結果は返却し、レポートは必要に応じて返却する。試験の際に持ち込みできるのは講義ノートのみなので、必ず購入すること。成績は相対評価と絶対評価で総合的に判定する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				95%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート	○			5%
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートについては授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	講義内容は基本的な知識なので、講義後図書館で各項目について自習し、更に知識を深めることが望ましい。 能動的学習環境の支援を意図するICT教材(コラボレーションウェア)の活用を前提とする。従って、実習室内のPCと、学内メールアドレスを教材として使用出来る事が必要条件となる。				
関連科目					
関連資格					
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	スポーツ医学概論 講義ノート	橋本実	ポラーノ出版	2022	
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
オフィス アワー	教育企画課で確認して下さい				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
154180	T-fye332J-01	養護演習																					
科目名(英字)	Seminar on School Nurse																						
学科	健康福祉学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	演習		単位数	2																	
担当教員	重巢 吉美			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	教員経験(養護教諭等)を有する。																						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護概説の理論を踏まえ、養護教諭に関わる基礎的・基本的な知識の理解を深め、心身の健康課題への対応、さらに健康の保持増進に対する指導方法を援助方法を習得させる。</li> <li>・養護教諭としての健康観・教育観・人間観を培い、養護実習につながるよう育成する。</li> </ul>																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒個々の発育・成長に関する健康状態を正しく把握する観察力の基礎を学ぶ。</li> <li>・健康課題や問題発生を想定し、適切にアセスメントする実践力の基礎を学ぶ。</li> <li>・課題解決するための実践力・企画力・調整能力の基礎を学ぶ。</li> </ul>																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>養護教諭の専門的知識や理論を生かし、児童生徒の心身の健康課題の把握と指導及び援助に取り組む。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>養護教諭としての職務に関する演習に積極的に参加することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>養護教諭として必要な技能と資質を身に付ける。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	養護教諭の専門的知識や理論を生かし、児童生徒の心身の健康課題の把握と指導及び援助に取り組む。		情意的領域	養護教諭としての職務に関する演習に積極的に参加することができる。		技能表現的領域	養護教諭として必要な技能と資質を身に付ける。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	養護教諭の専門的知識や理論を生かし、児童生徒の心身の健康課題の把握と指導及び援助に取り組む。																					
	情意的領域	養護教諭としての職務に関する演習に積極的に参加することができる。																					
	技能表現的領域	養護教諭として必要な技能と資質を身に付ける。																					
授業計画(全体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員、養護教諭としての教育的関わりを達成するためのスキルの重要性を理解する。</li> <li>・養護教諭の職務内容に応じて保健管理や保健教育等、学校保健活動の推進者として学校経営にも参画できる実践力を習得する。</li> </ul>																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション 学校保健について	授業内容の確認 学校保健計画を立案する方法を説明する	シラバスを熟読しておく	4時間
2.	健康診断の実際	健康診断の内容と方法について理解し、その基礎的な技術を身につける。	既習科目や関連する科目内容の復習	4時間
3.	健康診断の実際	健康診断の実際及び事後措置について理解し、その基礎的な技術を身につける。	既習科目や関連する科目内容の復習	4時間
4.	疾病の予防と管理	学校で予防すべき疾病及びその管理について理解する。	既習科目や関連する科目内容の復習	4時間
5.	学校環境衛生の実際	学校環境衛生検査についての復習 主な検査についての実際（水質検査、空気検査、照度検査、騒音検査等）	既習科目や関連する科目内容の復習	4時間
6.	学校安全と危機管理及び救急処置	学校安全計画及び危機管理に関する計画について理解する 救急処置の基礎基本を活かしてアセスメントする	既習科目や関連する科目内容の復習	4時間
7.	中間考査	これまでの内容についての振り返りと今後の内容の確認	授業資料の復習、既習科目や関連する科目内容の復習	4時間
8.	課題に応じた養護活動	子どもに多い急性期症状（内科） ・アセスメント ・応急手当	既習科目や関連する科目内容の復習	4時間
9.	課題に応じた養護活動	子どもに多い外科的症狀 ・アセスメント ・応急手当	既習科目や関連する科目内容の復習	4時間
10.	課題に応じた養護活動	熱中症の理解とその対応	既習科目や関連する科目内容の復習	4時間
11.	課題に応じた養護活動	アレルギー疾患とその対応 ・エビペンの活用	既習科目や関連する科目内容の復習	4時間
12.	課題に応じた養護活動	感染症の理解とその対応 ・学校としての感染症対策や出席停止の考え方について理解を深める	既習科目や関連する科目内容の復習	4時間
13.	課題に応じた養護活動	メンタルヘルスと心のケアについて理解する ・子どもの精神疾患 ・特別に支援を要する児童生徒への対応	既習科目や関連する科目内容の復習	4時間
14.	保健室経営と組織活動	保健室経営計画の立案 チームとしての学校における連携・協働について理解し、学校保健委員会について考える	既習科目や関連する科目内容の復習	4時間
15.	まとめと考査	これまでの振り返りと今後の授業へのつながりについて理解する	これまでの授業資料の復習	4時間
16.				4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の目標内容については、筆記試験、レポートで評価する。</li> <li>・実技の評価は、授業中の取り組みや技術的能力を見極める。</li> </ul>				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				80%
	授業内レポート		○		10%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技	○			10%
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートにはコメントを付して返却する。また、必要に応じ授業で解説する。</li> </ul>				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3以上出席しない学生は、単位を修得することができない。</li> <li>・授業開始20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・授業態度も評価の対象とする。(欠格条件)</li> </ul>				
関連科目	教職論B 養護学概論 学校保健学 医学一般				
関連資格	養護教諭一種免許				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	学校保健実務必携				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	なし				
オフィス アワー	金 10:20 ~ 11:50				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
511120	S-TEA021J-01	保健体育科教育論																					
科目名(英字)	Pedagogy of Health and Physical Education																						
学科	体育学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	郡山 孝幸			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	小学校での実務経験を有する。																						
授業の概要	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導について、学習指導要領に沿いながらその基本的な考え方を説明し、指導の実際についての理解認識を深めさせる。小学校での教員を行った実務経験を活かし実際の教育実践に結びつく講義を行う。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導について、学習指導要領に沿いながらその基本的な考え方を学び、指導の実際についての理解認識を深める。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を解釈し、説明することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を踏まえ、課題などを積極的に検討することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を「指導案」などに表すことができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を解釈し、説明することができる。		情意的領域	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を踏まえ、課題などを積極的に検討することができる。		技能表現的領域	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を「指導案」などに表すことができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方とその実際を解釈し、説明することができる。																					
	情意的領域	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を踏まえ、課題などを積極的に検討することができる。																					
	技能表現的領域	主に中学校・高等学校の「体育」の学習指導についての基本的な考え方を「指導案」などに表すことができる。																					
授業計画（全体）	講義形式で授業を進める。必要事項を書き込めるようなプリントを毎回配布し、プリントの内容、パワーポイントに沿って授業を展開する。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、講義のねらいと進め方、成績評価の方法と諸注意	運動に親しむ生徒を育成するための方策を自分なりに考えておく。	4時間
2.	現代社会と体育の目標	現代社会の体育指導の諸問題や学習指導要領に記された目標との関係を概説する。	学習指導要領の体育領域について概要を把握しておく。	4時間
3.	児童生徒の体力と学校体育の在り方	現代の子どもたちの体力を踏まえた学校体育の在り方を学習指導要領に関連づけながら概説する。	前回の講義内容を整理しておく。	4時間
4.	児童生徒の体力と学校体育の在り方	学校現場での実践例を参考に、保健体育指導の在り方を概説する。	前回の講義内容を整理しておく。	4時間
5.	児童生徒の体力と学校体育の在り方	発達段階に応じた保健体育指導の在り方を概説する。	前回の講義内容を整理しておく。	4時間
6.	学習指導要領の趣旨と評価方法	学習指導要領に基づいた授業づくりと評価の方法を概説する。	前回の講義内容を整理しておく。	4時間
7.	学習指導要領の趣旨と評価方法	]新旧の学習指導要領を対比しながら、授業づくりと評価の方法についてレポートにまとめ理解を深める。（中間テストを兼ねる）	前回までの講義内容を整理しておく。	4時間
8.	特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い	運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する。（陸上競技の指導）	中間テストでの記載内容を振り返り復習しておく。	4時間
9.	特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い	運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する。（水泳の指導）	陸上競技についての講義内容を整理しておく。	4時間
10.	特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い	運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する（体づくり運動の指導）	水泳についての講義内容を整理しておく。	4時間
11.	特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い	運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する。（球技の指導）	体づくり運動についての講義内容を整理しておく。	4時間
12.	特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い	運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する。（器械運動の指導）	球技についての講義内容を整理しておく	4時間
13.	特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い	運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する。（武道の指導）	器械運動についての講義内容を整理しておく。	4時間
14.	特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違い	運動の特性のとらえ方の違いからくる学習指導の違いを概説する。（ダンスの指導）	武道についての講義内容を整理しておく。	4時間
15.	保健体育科学習指導案の書き方	保健体育科の学習指導案の記載方法について概説する。	ダンスについての講義内容を整理しておく。	4時間
16.	テスト 保健体育科学習指導案作成の実際	指示された条件のもとに保健体育科の学習指導案を記載する。	学習指導案の記載方法について整理しておく。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	講義時間内に作成したレポートの内容を評価する(評価割合30%)。テストとしては学習指導要領に関する事及び学習指導案の作成についての理解度を評価する(評価割合70%)。なお、その結果については提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				70%
	授業内レポート				30%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは(授業内で)解説をしながら返却する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「体育」の授業づくりを「教師」の立場として考えながら本講義を受講すること。</li> <li>・講義を受動的に受けるのではなく質問するなど積極的な取り組みを求める</li> </ul>				
関連科目	保健体育科教育論 . . .				
関連資格	中高保健体育科教員免許状				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	中学校学習指導要領解説保健体育編	文部科学省		2018	
	高等学校学習指導要領解説保健体育編	文部科学省		2018	
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	設定しない				
オフィス アワー	火曜2コマ				
その他	研究室電話番号 0224-55-1491				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
111100	H-TEA031J-01 、N-	保健体育科教育論																					
科目名(英字)	Pedagogy of Health and Physical Education																						
学科	健康福祉学科、スポーツ栄養学科、スポーツ情報メディア学科、現代武道学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数	2																	
担当教員	川戸 湧也 / 山梨 雅枝 / 郡山 孝幸			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	小学校、中学校ならびに高等学校での勤務経験を有する																						
授業の概要	保健体育科教育論 での学びを踏まえて、中学校および高等学校における「体育」の教科指導法を解説するとともに、授業を省察する方法についても解説し、自身で授業を設計・実践・評価できるようになることを狙う。 併せて、授業担当教員の実務経験を活かして教具の在り方や安全への配慮についての講義・演習を行う。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	中学校および高等学校における「体育」の教科指導法を理解しており、授業設計および授業実践ができる。 授業を省察する方法を理解しており、授業内で実施された模擬授業を省察することができる。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>より良い体育学習の進め方を見出すことができる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>中学校・高等学校における「体育」の学習についての指導方法を身に付け実践することができる</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる		情意的領域	より良い体育学習の進め方を見出すことができる		技能表現的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての指導方法を身に付け実践することができる						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての具体的な進め方を理解することができる																					
	情意的領域	より良い体育学習の進め方を見出すことができる																					
	技能表現的領域	中学校・高等学校における「体育」の学習についての指導方法を身に付け実践することができる																					
授業計画（全体）	2回目から9回目までは、学習指導要領の内容に即して、「A. 体づくり運動」から「G. ダンス」の指導方法について講義を行う。10回目以降は、受講生を小グループに編成し、グループごとに授業を計画したうえでその計画に基づく模擬授業を実施する。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の狙いと進め方，成績評価の方法および諸注意について解説する	中学校学習指導要領解説 保健体育科編を熟読してくる．	4時間
2.	体づくり運動の指導	保健体育科教育論 の内容を踏まえて，授業実施上の工夫および留意点を解説する	保健体育科教育論 のノートおよび学習指導要領解説の当該箇所を熟読してくる	4時間
3.	器械運動の指導	保健体育科教育論 の内容を踏まえて，授業実施上の工夫および留意点を解説する	保健体育科教育論 のノートおよび学習指導要領解説の当該箇所を熟読してくる	4時間
4.	陸上競技の指導	保健体育科教育論 の内容を踏まえて，授業実施上の工夫および留意点を解説する	保健体育科教育論 のノートおよび学習指導要領解説の当該箇所を熟読してくる	4時間
5.	水泳の指導	保健体育科教育論 の内容を踏まえて，授業実施上の工夫および留意点を解説する	保健体育科教育論 のノートおよび学習指導要領解説の当該箇所を熟読してくる	4時間
6.	球技の指導	保健体育科教育論 の内容を踏まえて，授業実施上の工夫および留意点を解説する	保健体育科教育論 のノートおよび学習指導要領解説の当該箇所を熟読してくる	4時間
7.	武道の指導	保健体育科教育論 の内容を踏まえて，授業実施上の工夫および留意点を解説する	保健体育科教育論 のノートおよび学習指導要領解説の当該箇所を熟読してくる	4時間
8.	ダンスの指導	保健体育科教育論 の内容を踏まえて，授業実施上の工夫および留意点を解説する	保健体育科教育論 のノートおよび学習指導要領解説の当該箇所を熟読してくる	4時間
9.	授業の分析方法	授業をよりよくするために授業を省察することは重要である．ここではその分析方法を解説する．	別途Webに公開する資料を閲覧する	4時間
10.	模擬授業の実践	講義の内容を踏まえて，授業を設計・実施する．併せて，行われた授業を評価する．	これまでの講義資料を通読する	4時間
11.	模擬授業の実践	講義の内容を踏まえて，授業を設計・実施する．併せて，行われた授業を評価する．	これまでの講義資料を通読する	4時間
12.	模擬授業の実践	講義の内容を踏まえて，授業を設計・実施する．併せて，行われた授業を評価する．	これまでの講義資料を通読する	4時間
13.	模擬授業の実践	講義の内容を踏まえて，授業を設計・実施する．併せて，行われた授業を評価する．	これまでの講義資料を通読する	4時間
14.	模擬授業の実践	講義の内容を踏まえて，授業を設計・実施する．併せて，行われた授業を評価する．	これまでの講義資料を通読する	4時間
15.	模擬授業の実践	講義の内容を踏まえて，授業を設計・実施する．併せて，行われた授業を評価する．	これまでの講義資料を通読する	4時間
16.	授業のまとめ	模擬授業を実施した感想ならびに反省点を整理し，教育実習に向けて取り組むべき課題を整理する．	これまでの講義資料を通読する	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	講義の部分においては、授業内で提示したレポート課題を基に評価する。なお、レポートについてはフィードバックして返却する。 模擬授業の部分においては、指導案作成、指導内容・指導過程等を生徒役の授業評価と照らし合わせて総合的に評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート				50%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				50%
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	授業で課したレポートはコメントを付してフィードバックする				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<p>「体育」の授業を「指導者」の立場で考えながら本講義を受講する 講義を一方的に受けるのではなく、積極的に参加する 授業をきっかけに、毎度共に過ごす学生以外の学生と交流を持ち、互いの情報交換を積極的に行う</p> <p>数多く指導場面に足を運ぶ様、努める(指導のボランティアなど) 各自の専門性を活かし、互いに情報交換を行うことで互いに学びあう姿勢を持って授業に参加する</p>				
関連科目	保健体育科教育論 , ,				
関連資格	教員免許状(中・高保健体育)				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	中学校学習指導要領解説 保健体育編	文部科学省	東山書房	2019	4827815763
	体育科教育学入門 三訂版	岡出美則ほか	大修館書店	2021	446926915
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
オフィス アワー	川戸研究室(火曜日: 3コマ 12:40~14:10)				
その他	特になし				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
554090	S-SAE032J-01 、H-	社会教育演習 A																					
科目名(英字)	Seminar on Social Education A																						
学科	体育学科、健康福祉学科、スポーツ栄養学科、スポーツ情報マネジメント学科、現代武道学科			学年	3年																		
学期	後期	授業形態	演習		単位数	2																	
担当教員	門真 洋			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	社会教育主事としての実務経験を有する																						
授業の概要	本授業では、下記関連科目の授業内容をふまえて社会教育施設と連携して演習を行ない、地域の生涯学習、社会教育のあり方について考察する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習(PBL)</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習(PBL)		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	<p>(1) 授業で取り上げる生涯学習の基本的状況について理解する。</p> <p>(2) 演習をとおして生涯学習の基本的状況に関心を持ち、その特質について社会状況と関連させながら主体的に考察することができる。</p> <p>(3) 演習をとおして生涯学習、社会教育について主体的に考察することができる。</p>																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>授業で取り上げる生涯学習の基本的状況について説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>授業で取り上げる生涯学習や社会教育に関心を持ち、その問題について主体的に考察することができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>上記の考察の結果をまとめて講座を企画・立案して実践化することができる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	授業で取り上げる生涯学習の基本的状況について説明できる。		情意的領域	授業で取り上げる生涯学習や社会教育に関心を持ち、その問題について主体的に考察することができる。		技能表現的領域	上記の考察の結果をまとめて講座を企画・立案して実践化することができる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	授業で取り上げる生涯学習の基本的状況について説明できる。																					
	情意的領域	授業で取り上げる生涯学習や社会教育に関心を持ち、その問題について主体的に考察することができる。																					
	技能表現的領域	上記の考察の結果をまとめて講座を企画・立案して実践化することができる。																					
授業計画(全体)	<p>オリエンテーションのあと、演習を進めるにあたって理解しておくべき基本的事項についての情報の提供を数回、講義形式で行なう。その内容の理解をふまえて、連携先の社会教育施設との演習形式で授業を展開する。毎回、演習の成果を小レポートにまとめてもらい、さらに学期末には授業全体のまとめのレポートを提出してもらう。</p>																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	授業の目標と進め方、成績評価の方法などについて説明する。	シラバスを熟読して内容を理解する。	4時間
2.	基本的事項の講義（1）	演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義を行なう。	授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	4時間
3.	基本的事項の講義（2）	演習を進めるにあたって必要な基本的事項についての講義を行なう。	授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	4時間
4.	基本的事項の講義（3）	演習を進めるにあたって、実務経験を生かして社会教育施設の概要についての講義を行なう。	授業の復習をして、その内容を説明できるようにしておく。	4時間
5.	社会教育施設演習（1）	社会教育施設の現場で学習し、概要を学ぶ。（船岡生涯学習センター）	社会教育施設の概要について事前に調べておく。	4時間
6.	社会教育施設演習（2）	社会教育施設の現場で学習し、講座を見学する。（船岡生涯学習センター）	社会教育施設について講座の企画立案を事前に調べておく。	4時間
7.	社会教育施設演習（3）	船岡生涯学習センターでの演習したことの反省会を行なう。	社会教育施設について講座の企画立案を事前に調べておく。	4時間
8.	社会教育施設演習（4）	「高齢者教育」のイベント（企画講座）を見学する。	社会教育施設について講座の企画立案を事前に調べておく。	4時間
9.	社会教育施設講座企画（1）「個人」	「高齢者教育」の（企画講座）の立案をする。	発表者は原稿を作成する。	4時間
10.	社会教育施設講座企画（2）「個人」	「高齢者教育」の講座を企画・立案したものを発表する。	発表者は原稿を作成する。	4時間
11.	社会教育施設講座全体企画（1）	講座を企画・立案する。	講座企画について事前に十分考察する。	4時間
12.	社会教育施設講座全体企画（2）	講座を企画・立案する。	前時に作成した講座企画について事前に十分考察する。	4時間
13.	社会教育施設講座全体企画（3）	講座を企画・立案する。	前時に作成した講座企画について事前に十分考察する。	4時間
14.	学生企画講座実施（1）	社会教育施設において企画講座の実践を行なう。	役割分担を含め、事前に十分考察する。	4時間
15.	学生企画講座実施（2）	社会教育施設において企画講座の実践を行なう。	役割分担を含め、事前に十分考察する。	4時間
16.	レポート作成	演習全体のまとめとして期末のレポートを書く。	レポート作成に向けて授業全体の復習をしておく。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	演習形式で行う授業における発表、コメントの内容、各回の授業内容について的小レポートの内容及び、期末レポートの内容により評価する。また、企画講座内容も評価対象として重視していく。出席は評価割合に加え、欠格条件となる。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				評価対象外
	授業内レポート				60%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				40%
	授業態度				減点あり
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートの実施に関しては、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な理由がない場合に欠席した時は、単位を修得することはできない(欠格条件)。</li> <li>・受講生の主体性を高めていくので、同僚に迷惑をかけること。</li> <li>・授業外学習も重視して行く。</li> </ul> <p>資格取得に必要な科目なので、その該当の資格に関心をもって、受講してほしい。</p>				
関連科目	生涯学習概論A、生涯学習概論B、教育社会学、社会教育計画A、社会教育計画B、社会教育演習B				
関連資格	社会教育主事任用資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定しない。				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特に指定しない。				
オフィス アワー	非常勤講師のため連絡は教育企画課を通して行なうこと。				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
143240	-	野外教育・活動論																					
科目名(英字)	Outdoor Education & Outdoor Activity																						
学科	体育学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	井上 望			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	キャンプ指導および野外教育指導者育成の経験を有する																						
授業の概要	野外教育及び野外活動に関する基礎的な理論と現場における実践例（担当教員の実務経験から）を紹介する。前半は、野外教育及び野外活動についての考え方や用語を整理し、冒険教育や環境教育の歴史や実践例を学ぶ。後半は、組織キャンプの意義や組織、指導者や参加者、自然環境などについて学ぶ。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を理解する。野外教育のプログラム及び指導法について理解し、指導者としての資質を高める。自然の中で活動することの意味を認識し、適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自然体験活動について、自分なりの意見を持ち、他者に伝えられるようになる。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を説明できるようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>自然体験活動に興味を持ち、積極的に取り組むようになる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td>適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自分の意見を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら意思決定を行えるようになる。</td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を説明できるようになる。		情意的領域	自然体験活動に興味を持ち、積極的に取り組むようになる。		技能表現的領域	適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自分の意見を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら意思決定を行えるようになる。						
対象	領域	内容																					
	認知的領域	野外教育及び野外活動についての正しい知識を習得し、その意義や価値を説明できるようになる。																					
	情意的領域	自然体験活動に興味を持ち、積極的に取り組むようになる。																					
	技能表現的領域	適切な危機管理能力と環境配慮技能を身につける。自分の意見を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら意思決定を行えるようになる。																					
授業計画（全体）	前半は配布資料とパワーポイントの説明によって授業を進める。後半は「キャンプディレクター2級」の資格取得に必要なカリキュラムに沿って授業を進める。講義だけではなく、グループワークやディスカッション、スタンプの作成・発表などを行う。また、毎回授業の終わりにリアクションペーパーに感想や簡単な課題を記入する。最終回には、授業内容の確認のための筆記試験を行う。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介、授業の目標と進め方、成績評価の方法、キャンプインストラクターの資格について説明する。	シラバスを熟読する。	4時間
2.	野外教育と野外活動	グループワークのための班分け、自己紹介、野外教育・野外活動についての用語や概念について説明する。	配布資料をもとに復習しておく。	4時間
3.	冒険教育とは	冒険教育の考え方やプログラム例を説明する。	配布資料をもとに復習しておく。	4時間
4.	冒険教育の実際	冒険教育団体の理念・歴史・活動内容などを説明する。	配布資料をもとに復習しておく。	4時間
5.	環境教育とは	環境教育の考え方や歴史、プログラム例を説明する。	配布資料をもとに復習しておく。 課題レポートに取り組む。	4時間
6.	環境教育の実際	環境教育プログラムを体験し、パッケージドプログラムについて理解する。	配布資料をもとに復習しておく。 課題レポートに取り組む。	4時間
7.	キャンプの特性	キャンプの意義や目的、組織の種類について説明する。	配布資料をもとに復習しておく。	4時間
8.	キャンプの指導	キャンプ指導者の役割や資質、スキルについて説明する。	配布資料をもとに復習しておく。	4時間
9.	キャンプと人	キャンプ参加者の特性や対象に応じた対応について説明する。	配布資料をもとに復習しておく。	4時間
10.	キャンプと自然	キャンプにおける自然との関わり方や、人間と自然の関係の歴史の変遷を説明する。	配布資料をもとに復習しておく。	4時間
11.	キャンプのルールとマナー	キャンプにおけるルールやマナーの必要性、自然への配慮の方法を説明する。	必要に応じてグループで集まり、課題に取り組む。	4時間
12.	Leave No Trace	自然の中で活動する時の7つの原則（技能や倫理観）を説明する。	配布資料をもとに復習しておく。	4時間
13.	キャンプの安全管理 1	キャンプにおけるリスクマネジメントの考え方について説明する。	配布資料をもとに復習しておく。	4時間
14.	キャンプの安全管理 2	キャンプ中に起こりえる事態に対する対処法について説明する。	配布資料をもとに復習しておく。	4時間
15.	まとめと振り返り	授業のふりかえりを行い、筆記試験の対策を行う。	これまでの授業資料を元に復習し、筆記試験に備える。	4時間
16.	筆記試験	筆記試験を実施する。		4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	授業での小レポート：20点 毎回の授業の最後に提出する。次回の授業でそのコメントに対して回答する。 課題（課題レポートとグループ課題発表）：30点 小レポートとグループ課題について、授業内で発表、ディスカッション及び解説を行う 筆記試験（期末試験）：50点 試験終了後、試験問題についての解説を行う				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				50%
	授業内レポート	○		○	20%
	授業外レポート		○		15%
	演習・実技	○			15%
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	提出されたレポートは授業内でまとめてコメントし、返却する				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	・第2回以降、班を決めて班ごとに着席します。また、毎回グループワークを行います。グループの中でディスカッションをしたり、発表をしたりします。				
関連科目	キャンプ(1年)、野外・レクリエーション・マネジメント演習(3年)他				
関連資格	(公社)日本キャンプ協会「キャンプディレクター2級」				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特になし				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	野外教育の理論と実践		杏林書院		
オフィス アワー	木曜4限				
その他	原則、オンラインと対面を併用し、授業展開をする。感染状況によってはすべてオンラインに切り替える				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
521160	M-CSS321J-05	安全・安心関係法令概論																					
科目名(英字)	introduction to the applicable laws and regulationson social safety and security																						
学科	現代武道学科			学年	2年																		
学期	後期	授業形態	講義		単位数																		
					2																		
担当教員	中井 憲治			開講の別	単独開講																		
実務経験の有無	法科大学院客員教授を併任するほか、弁護士等法曹の実務経験を有する。																						
授業の概要	安全・安心関係法体系、犯罪動向と刑事政策等を俯瞰。武道の現代的意義、危機管理等にも触れつつ憲法、刑法、刑訴法等を概説。適宜、事例を中心に対話型授業を実施する。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	武道は武技の修練による人間形成の道で、修行と相まって人材育成に資するとの視座から、実学と創意工夫を旨とした双方向性講義を実施。健全な常識、リーガルマインドのほか、平明な文章起案や口頭表現に係る能力を涵養させ、文武両道の人材養成を期する。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>憲法、刑法、刑訴法等の基本的事項、犯罪動向と刑事政策等について説明できる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>世のため人のために尽くすとの心根を涵養しつつ、犯罪動向と刑事政策や安心・安全関係法令に対する関心と知識を高め、法的思考法の基礎を修得する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	憲法、刑法、刑訴法等の基本的事項、犯罪動向と刑事政策等について説明できる。		情意的領域	世のため人のために尽くすとの心根を涵養しつつ、犯罪動向と刑事政策や安心・安全関係法令に対する関心と知識を高め、法的思考法の基礎を修得する。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	憲法、刑法、刑訴法等の基本的事項、犯罪動向と刑事政策等について説明できる。																					
	情意的領域	世のため人のために尽くすとの心根を涵養しつつ、犯罪動向と刑事政策や安心・安全関係法令に対する関心と知識を高め、法的思考法の基礎を修得する。																					
	技能表現的領域																						
授業計画（全体）	安全・安心関係法体系に従い、実学と創意工夫を旨とする対話型授業を行う。その詳細は以下のとおり。法令概論は「公法系」を中心とし、「私法系」を中心とする法令概論に継続性をもって移行することを目している。																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	導入講義（常識と法、国家と法。現代武道史）	法学概論 の導入講義。常識と法、現代武道史（現代空手道史を含む）、国家と法等を概説する。	授業内で指示します。	4時間
2.	現代武道史と沖繩史、法的思考、法令用語、常識と法等	具体的事例を中心に、対話型授業を実施する。	前回講義のレジュメ再読等による復習	4時間
3.	罪刑法定主義、暴行と傷害、窃盗と刑事政策等	具体的事例を中心に、対話型講義を実施し、憲法、刑法等の社会の安全・安心法体系について概説する。	前回講義のレジュメ再読等による復習	4時間
4.	窃盗、最近の犯罪動向と刑事司法手続、刑事政策等	万引と刑事政策の事例を題材に、対話型授業を実施。最近の犯罪動向と刑事司法手続の流れ等について概説する。	前回講義のレジュメ再読等による復習	4時間
5.	憲法の最高法規性、罪刑法定主義、現行犯逮捕等	現行犯逮捕を題材とする対話型授業を実施し、罪刑法定主義、事実認定、現行犯逮捕等について概説する。	前回講義のレジュメ再読等による復習	4時間
6.	犯意概論。殺人、傷害致死、過失致死等	殺人等を題材とし犯意や事実認定について理解を深めるべく対話型授業を実施する。	前回講義のレジュメ再読等による復習	4時間
7.	事実認定概論、犯意、因果関係、未遂等	具体的事例を題材として事実認定、証拠裁判主義等の理解を深め、未遂犯についても概説する。	前回講義のレジュメ再読等による復習	4時間
8.	故意と過失、既遂と未遂、証拠裁判主義等	具体的事例を題材として対話型授業を実施する。	前回講義のレジュメ再読等による復習	4時間
9.	黙秘権に加え、刑法総論（犯罪構成要件、正当防衛、責任主義等）	黙秘権に加え、犯罪構成要件、違法性、責任等、刑法の基礎知識について具体的事例を題材として対話型授業を実施する。	前回講義のレジュメ再読等による復習	4時間
10.	刑法の基礎知識、詐欺と恐喝、正犯と共犯。	組織犯罪など具体的事例を題材として対話型授業を実施する。	前回講義のレジュメ再読等による復習	4時間
11.	正犯と共犯、特殊詐欺、詐欺と恐喝、恐喝と強盗、強盗と窃盗等。	詐欺と恐喝、恐喝と強盗、強盗と窃盗の区別について概説する。	前回講義のレジュメ再読等による復習	4時間
12.	窃盗、事後強盗等	双方向性講義を実施し、窃盗と事後強盗の関係など関連知識の理解を深める。	前回講義のレジュメ再読等による復習	4時間
13.	横領、業務上横領、遺失物等横領等	詐欺と横領、横領と遺失物等横領の区別等について理解を深めるべく、具体的事例を中心に双方向性授業を実施する。	前回講義のレジュメ再読等による復習	4時間
14.	窃盗と遺失物等横領等	窃盗と遺失物等横領との区別等につき、具体的事例に基づく双方向性授業を行い、概説する。	前回講義のレジュメ再読等による復習	4時間
15.	安全・安心関係法令概論 総括	正当防衛や自衛権等につき、対話型授業を実施する。	前回までの講義レジュメすべての再読等による復習	4時間
16.	安全・安心関係法令概論 総括	定期試験	授業内で指示します。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				



23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	試験成績の点数(70点)及び平常点(30点)の合計100点満点で評価する。授業出席回数が2/3以下の場合は、原則として成績評価対象外とする				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				70%
	授業内レポート				評価対象外
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				30%
	授業態度				欠格条件
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	レポートの実施に関しては、授業内で指示します。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)					
関連科目	安全・安心関係法令概論				
関連資格	公務員、教員、警備員その他法律基礎知識を要する資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	適宜、講義レジュメや資料等を配布する。				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	芦部信喜「憲法」岩波書店、法務省「犯罪白書」、西田典之「刑法総論総論・各論」、法律学講座双書等				
オフィス アワー	非常勤講師のため、教育企画課で確認すること。				
その他	hdpo21@yahoo.co.jp				
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					

科目コード	科目ナンバリング	科 目 名																					
112120	S-SAE031J-01 、H-	社会教育経営論 A																					
科目名(英字)	Social Education Planning A																						
学科	体育学科、健康福祉学科、スポーツ栄養学科、スポーツ情報マネジメント学科、現代武道学科			学年	3年																		
学期	前期	授業形態	講義		単位数	2																	
担当教員	針生 弘 / 郡山 孝幸			開講の別	同時開講																		
実務経験の有無	小学校および社会教育現場での実務経験を有する																						
授業の概要	現代における社会教育経営の基本的なプロセス，並びに各種社会教育施設の基本的性格，運営の実際と課題について概説し，生涯学習体制のもとで経営の在り方と生涯学習まちづくりの関連について紹介していく。																						
DPとの関連性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					I	II	III	IV	V													
I	II	III	IV	V																			
アクティブ・ラーニングについて	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>課題解決型学習（PBL）</td> <td></td> <td>反転学修</td> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション		ディベート		グループワーク		プレゼンテーション		実習		フィールドワーク			
課題解決型学習（PBL）		反転学修		ディスカッション																			
ディベート		グループワーク		プレゼンテーション																			
実習		フィールドワーク																					
授業の一般目標	生涯学習のまちづくりとの関連における社会教育経営ができるようになる。また、社会教育主事として各種社会教育施設の特徴を知り、事業のあり方について思考する能力を身につける。																						
授業の到達目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>領域</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>認知的領域</td> <td>社会教育事業の企画ができる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情意的領域</td> <td>社会教育主事として住民のニーズをとらえた事業企画に取り組める。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>技能表現的領域</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					対象	領域	内容		認知的領域	社会教育事業の企画ができる。		情意的領域	社会教育主事として住民のニーズをとらえた事業企画に取り組める。		技能表現的領域							
対象	領域	内容																					
	認知的領域	社会教育事業の企画ができる。																					
	情意的領域	社会教育主事として住民のニーズをとらえた事業企画に取り組める。																					
	技能表現的領域																						
授業計画（全体）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育現場による実務経験を活かし，生涯学習の観点から講義を行う。各授業のテーマに沿った資料を用いた講義が中心であるが、より理解を深めるために生涯学習施設等の見学や地域住民との交流を行う。</li> <li>・授業の感想と課題を何回か授業内レポートとして提出させることで、理解度、到達度を確認する。</li> </ul>																						

授業計画（各回のテーマ等）				
回	テーマ	内容	授業外学修	時間数
1.	オリエンテーション	担当教員の紹介 授業の目標と進め方 成績評価の方法	シラバスを熟読し内容を理解する。	4時間
2.	生涯学習社会における社会教育の役割	生涯学習の概念および社会教育のあり方について説明する。	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
3.	生涯学習振興と社会教育経営	生涯学習振興と社会教育経営の関連について説明する。	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
4.	生涯学習の推進と社会教育経営（1）	市町村の事例（特に柴田町の事例）をもとに説明する。	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
5.	生涯学習の推進と社会教育経営（2）	宮城県内の生涯学習の事例をもとに説明する。（仙台市及び県内各市町村の事例を紹介）	授業の復習をし、事例について説明できるようにしておくこと。	4時間
6.	生涯学習時代における社会教育経営	社会教育経営について生涯学習事業の様子を見学することにより学ぶ（移動学習）	社会教育経営の手順について説明できるようにしておくこと。	4時間
7.	社会教育施設経営（1）	公民館の役割について説明する。	公民館の役割について説明できるようにしておくこと。	4時間
8.	社会教育施設経営（2）	図書館の役割について説明する。	図書館の役割について説明できるようにしておくこと。	4時間
9.	社会教育施設経営（3）	博物館の役割について説明する。	博物館の役割について説明できるようにしておくこと。	4時間
10.	社会教育施設経営（4）	青少年教育施設の役割について説明する。（特に仙台市の自然の家の役割について学ぶ）	青少年教育施設の役割について説明できるようにしておくこと。	4時間
11.	社会教育施設経営（5）	青少年教育施設の事業について説明する。（特に宮城県内の自然の家の役割）	青少年教育施設の事業について説明する。（特に宮城県内の自然の家の役割）	4時間
12.	社会教育施設経営（6）	女性教育施設の役割について説明する。（特に男女共同参画社会のあり方を仙台市のエルソーラ仙台の事業を例に学ぶ）	女性教育施設について説明できるようにしておくこと。	4時間
13.	社会教育施設経営（7）	社会体育施設の役割について説明する。	社会体育施設について説明できるようにしておくこと。	4時間
14.	社会教育施設経営（8）	生涯学習センターの役割について説明する。（仙台市の生涯学習施設を見学しながら学ぶ）	生涯学習センターについて説明できるようにしておくこと。	4時間
15.	生涯学習時代における社会教育施設の役割と経営	社会教育施設の現代的役割について説明する。	授業の復習をして説明できるようにしておくこと。	4時間
16.	テスト	学習の理解度、到達度を確かめるために期末テストを行う。	テストに備えて授業内容全体について復習をしておくこと。	4時間
17.				
18.				
19.				
20.				
21.				
22.				

23.				
24.				
25.				
26.				
27.				
28.				
29.				
30.				
31.				
32.				
33.				
34.				
35.				
36.				
37.				
38.				
39.				
40.				
41.				
42.				
43.				
44.				
45.				

成績評価方法 (方針)	試験は期末試験を1回実施する(評価割合60%)。試験については(授業内で)解説しながら返却する。また、授業内レポート(評価割合40%)の内容を評価する。				
成績評価方法 (詳細)	評価方法/到達目標	認知的領域	情意的領域	技能表現的領域	評価割合(%)
	定期試験				60%
	授業内レポート				40%
	授業外レポート				評価対象外
	演習・実技				評価対象外
	授業態度				評価対象外
	出席	欠格条件			
レポートの実施・返却(方針)	授業内レポート(評価割合40%)の内容を評価する。その結果については、提出ごとにフィードバックするとともに講義内で適宜解説する。				
履修上の注意 (受講学生に望むこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。</li> <li>・授業中の私語は慎み授業に集中すること。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・授業計画は授業の進み方により多少前後する事がある。 "</li> <li>・授業態度が悪い学生に対しては成績評価から減点する。</li> </ul>				
関連科目	「生涯学習概論」「社会教育経営論B」				
関連資格	社会教育主事任用資格				
教科書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
参考書	書名	著者	出版社	出版年	ISBN
	使用しない				
オフィス アワー	針生：火曜日 コマ				
その他					
感染症や災害の発生等の非常時には、授業形態を対面からオンラインへ変更する場合がありますので、大学の指示に従い受講して下さい。					